New Desktop 使用概説書

1999 年 4 月

本書は，DECwindows Motif の一般ユーザ，システム管理者およびプログラマの方を対象にし，日本語 DECwindows Motif for OpenVMS Alpha に組み込まれている新しいデスクトップである New Desktop の使用方法を説明しています。

変更および改訂情報： 本書は新規ドキュメントです。

オペレーティング・システム： 日本語 OpenVMS Alpha V6.2

ソフトウェア・バージョン： 日本語 DECwindows Motif for OpenVMS Alpha V1.2–4

コンパックコンピュータ株式会社

1999 年 4 月

本書の著作権はコンパックコンピュータ株式会社が保有しており，本書中の解説および図，表はコンパックの文書による許可なしに，その全体または一部を，いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また，本書に記載されている事項は，予告なく変更されることがありますので，あらかじめご承知おきください。万一，本書の記述に誤りがあった場合でも，コンパックは一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は，所定のライセンス契約が締結された場合に限り，その使用あるいは複製が許可されます。

© Compaq Computer K.K. 1999 All rights reserved.
Printed in Singapore.

以下は他社の商標です。

Hewlett-Packard は米国 Hewlett-Packard 社の登録です。
IBM は米国 International Business Machines 社の商標です。
Motif, OSF, OSF/1, OSF/Motif および Open Software Foundation は Open Software Foundation 社の登録商標です。
Mosaic は米国 University of Illinois の商標です。
NFS は米国 Sun Microsystems 社の商標です。
Novell は米国 Novell 社の商標です。
Sun は米国 Sun Microsystems 社の商標です。
UNIX は X/Open カンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
Windows は米国 Microsoft 社の商標です。

本書は，日本語 VAX DOCUMENT V 2.1を用いて作成しています。

目次

まえがき xi

1 New Desktop **の概要**

1.1 CDE **概要** 1–1

1.2 CDE **を採用する理由** 1–2

1.3 New Desktop **概要** 1–2

1.4 New Desktop **の基本的な操作方法** 1–4

1.5 New Desktop **の生産性向上のための機能** 1–4

1.6 **ユーザ用アプリケーション** 1–6

1.7 API **およびアプリケーション統合サービス** 1–8

1.8 New Desktop **関連ドキュメント** 1–8

1.8.1 CDE ドキュメント 1–10

2 New Desktop **の使用方法**

2.1 New Desktop **に含まれる** CDE **ユーザ・アプリケーション** 2–1

2.1.1 ログイン・マネージャ 2–1

2.1.2 フロントパネル 2–2

2.1.3 アプリケーション・マネージャ 2–4

2.1.4 電卓 2–6

2.1.5 ファイル・マネージャ 2–7

2.1.5.1 ファイルの表現方法 2–7

2.1.5.2 ファイルのフィルタリングと並べ替え 2–8

2.1.6 ごみ箱 2–8

2.1.7 ヘルプ・ビューア 2–8

2.1.8 アイコン・エディタ 2–9

2.1.9 印刷ダイアログ 2–9

2.1.10 テキスト・エディタ 2–10

2.1.11 セッション・マネージャ 2–10

2.1.12 スタイル・マネージャ 2–11

2.2 DECwindows **アプリケーションの起動** 2–11
2.3 **アプリケーション起動の簡素化** 2–12
2.4 CDE **ユーザ・ドキュメント** 2–13

3 New Desktop の管理

3.1 DECwindows **と** New Desktop **の起動シーケンス** 3–1
3.2 **デフォルトのデスクトップの変更** 3–2
3.3 New Desktop **のディレクトリ構造** 3–3
3.3.1 システムのデフォルトの構成ディレクトリ 3–4
3.3.2 複数のロケール付きのディレクトリ構造 3–5
3.3.3 システム全体で有効なカスタマイズ用の構成ファイル 3–6
3.3.4 ユーザのカスタマイズ設定用の構成ディレクトリ 3–7
3.3.5 データ・ファイルの優先順位 3–8
3.4 **環境とアプリケーションのカスタマイズ** 3–9
3.4.1 New Desktop とリソース・ファイルの使用 3–9
3.4.2 New Desktop でのアクションの使用 3–10
3.4.2.1 データ型の指定 3–11
3.4.2.2 アクション (stub)・ファイル 3–11
3.4.3 セキュリティの設定値 3–11
3.4.4 キーボードの設定値 3–12
3.4.5 印刷の管理 3–12
3.4.5.1 プリンタの追加と[個人プリンタ]サブパネル 3–13
3.4.5.2 プリンタ・サブパネルのコントロール定義ファイルの作成 3–13
3.4.5.3 デフォルトのシステム・プリンタの変更 3–14
3.4.5.4 デフォルトの個人プリンタの変更 3–14
3.4.5.5 印刷ダイアログのコマンド行オプション 3–15
3.4.5.6 印刷ダイアログのコマンド行による起動 3–16
3.4.6 デフォルトのエディタの変更 3–16
3.4.7 ウィンドウの色と画面背景 3–17
3.4.8 ウィンドウ・マネージャのカスタマイズ設定 3–17
3.4.8.1 ウィンドウ・マネージャのリソース・ファイル (DTWM.DAT) 3–18
3.4.8.2 ウィンドウ・マネージャのリソース構成ファイル (SYS.DTWMRC) 3–19
3.4.9 アプリケーションの自動起動 3–19
3.5 New Desktop **のエラー・ログの使用** 3–20
3.6 New Desktop **環境における色の使用** 3–22

3.6.1 使用できる色の数の変更 3–24
3.6.2 色の重複の回避 3–26

3.7 New Desktop **のフォントの使用** 3–29
3.7.1 アプリケーションのフォントのサイズの変更 3–29

3.8 X **端末その他の遠隔ディスプレイの使用** 3–29
3.8.1 New Desktop のウィンドウ・マネージャの選択 3–30
3.8.2 フォント別名ファイルへのアクセス 3–30
3.8.3 言語の切り替え 3–32

3.9 **複数画面の使用** 3–32

3.10 New Desktop **で作成されるプロセスの管理** 3–32
3.10.1 プロセスの論理名の独立プロセスへの引き渡し 3–33
3.10.2 サブプロセスの作成の指定 3–33
3.10.3 プロセスのデバッグ 3–33
3.10.4 プロセスをプロセス名別に識別する 3–34

3.11 CDE **システム管理関連ドキュメント** 3–35

4 New Desktop **のアプリケーションの統合**

4.1 **最小限の統合** 4–1
4.1.1 CDE アクション関連用語 4–2
4.1.2 OpenVMS Alpha 上でのアクション定義ファイルの作成 4–3
4.1.3 アクション作成の概要 4–5
4.1.4 アクション作成を使用したアプリケーションの統合 4–6
4.1.5 アクション作成を使用したデータ型の作成と変更 4–9
4.1.6 [アクション作成]アプリケーションによるアイコンの編集 4–13

4.2 **推奨レベルの統合** 4–13
4.2.1 国際化 4–14
4.2.2 アプリケーションからのエラー・メッセージの表示 4–15

4.3 **オプションで行う統合** 4–16

4.4 **新規アプリケーション・グループの作成** 4–16

4.5 **他社のアプリケーションの登録** 4–19

4.6 New Desktop **への** UNIX **リファレンス・ページの移植** 4–22

4.7 **アプリケーション統合関連の** CDE **ドキュメント** 4–23

5 New Desktop のプログラミング・リソース

5.1 New Desktop がサポートする標準 5–2

5.2 API サービスおよびアプリケーション統合サービス 5–2

5.3 保存および復元機能 5–5

5.4 アクション作成アプリケーション 5–6

5.5 サポートされているファイル型 5–6

5.6 CDE 標準フォント 5–6

5.7 ヘルプのプログラミング 5–7
- 5.7.1 ヘルプ開発用プロセス 5–8
- 5.7.2 ヘルプ・コンパイラ・インタフェース 5–8
- 5.7.3 DTHELPTAG.COM のフォーマットとオプション 5–9
- 5.7.4 ヘルプ・ユーティリティ機能 5–10
- 5.7.5 HelpTag のサンプル・プログラム 5–10

5.8 スクリーン・セーバ 5–12

5.9 ヘッダ・ファイル 5–12

5.10 CDE サンプル・プログラム 5–14

5.11 CDE プログラミング関連ドキュメント 5–16
- 5.11.1 CDE プログラミング関連ドキュメント 5–16
- 5.11.2 リファレンス・ページ 5–16

A New Desktop と CDE との相違

A.1 全般的な相違 A–1

A.2 ログイン・マネージャの相違 A–2

A.3 ファイル・マネージャの相違 A–3

A.4 印刷に関する相違 A–4

A.5 メッセージ交換の相違 A–5

A.6 プロセス起動の相違 A–5

A.7 New Desktop と CDE のディレクトリ構造 A–6
- A.7.1 システムのデフォルトの構成ディレクトリ A–6
- A.7.2 ノードとクラスタの構成ディレクトリ A–7
- A.7.3 ユーザの構成ディレクトリ A–8
- A.7.4 フォント・ディレクトリ A–9

B 複数画面のサポート

B.1 1 台のディスプレイ装置上の複数画面について B–1

B.2 ウィンドウ・マネージャの複数画面用機能 B–2

B.3 ウィンドウ・マネージャを複数画面管理用に構成する B–3

B.4 複数画面の場合のスタイル・マネージャの使用 B–5

B.5 アプリケーションを特定の画面用にカスタマイズする B–6

B.5.1 コマンド行のオプションの使用 B–6

B.5.2 特定の画面またはワークスペース用のリソースの指定 B–7

C CDE の API ルーチン

C.1 CDE のデスクトップ・サービス API ルーチン C–1

C.2 CDE のヘルプ・ウィジェット支援ルーチン C–4

C.3 CDE のカスタム・ウィジェット支援ルーチン C–4

索引

図

1–1 New Desktop のアーキテクチャ 1–3

1–2 フロントパネル 1–4

2–1 フロントパネル 2–3

2–2 ウィンドウ・マネージャのメニュー 2–5

3–1 CDE$SYSTEM_DEFAULTS ディレクトリの構造 3–5

3–2 スタイル・マネージャの「カラー」メニュー 3–24

3–3 [使用する色の数]メニュー 3–25

4–1 アクション作成のメイン・ウィンドウ 4–7

4–2 アクション作成の拡張機能を表示したメイン・ウィンドウ 4–9

4–3 「データ型の追加」ダイアログ・ボックス 4–10

4–4 [識別する特性]ダイアログ・ボックス 4–12

4–5 アプリケーション・マネージャ画面 4–17

4–6 新規アプリケーション・グループが表示されたアプリケーション・マネージャ画面 4–19

4–7 CDE$USER_DEFAULTS ディレクトリ構造 4–21

B–1 複数画面を持つ 1 台の X ディスプレイ装置 B–1

表

1 各章とその対象読者 xi
2 本書に関連するドキュメント xii
1–1 ユーザ・アプリケーションおよびサービス 1–7
1–2 New Desktop のドキュメント 1–9
1–3 CDE ドキュメントと注文番号 1–11
2–1 構成済みのアプリケーション・グループ 2–6
2–2 起動メニューのオプション 2–10
2–3 DECwindows アプリケーションの起動方法 2–12
3–1 CDE$SYSTEM_DEFAULTS のディレクトリ 3–6
3–2 ノードあるいはクラスタのデフォルト値のカスタマイズ方法 3–7
3–3 最初のログイン時に作成されるユーザ用ディレクトリ 3–8
3–4 印刷ダイアログのコマンド行オプション 3–15
3–5 色セットのリソース 3–22
3–6 [使用する色の数]のオプション 3–25
3–7 New Desktop のプロセス名 3–34
3–8 DECwindows デスクトップのプロセス名 3–35
3–9 両デスクトップの共用プロセス名 3–35
4–1 アクション作成フィールド 4–7
4–2 アクション作成の[データ型の追加]ダイアログ・ボックス 4–11
4–3 アクション作成: [識別する特性]ダイアログ・ボックス 4–13
4–4 DEC C XPG4 現地化ユーティリティ 4–15
5–1 New Desktop の CDE API サービスおよびアプリケーション統合サービス 5–3
5–2 組み込まれていない CDE API, アプリケーション統合サービス 5–4
5–3 DTHELPTAG.COM 実行可能ファイル 5–8
5–4 DTHELPTAG.COM のオプション 5–9
5–5 CDE ヘッダ・ファイル 5–13
5–6 CDE サンプル・プログラム 5–15
5–7 リファレンス・ページの各章 5–17
A–1 システムのデフォルトの構成ディレクトリ A–6
A–2 ノードとクラスタの構成ディレクトリ A–8
A–3 ユーザ構成ディレクトリ A–8

A–4 フォント・ディレクトリ A–9
B–1 ウィンドウ・マネージャの複数画面用の機能 B–3
C–1 CDE$LIBDTSVC.EXE に入っている CDE のデスクトップ・サービス API ルーチン C–2
C–2 CDE$LIBDTHELP.EXE に入っている CDE のヘルプ・ウィジェット・ルーチン C–4
C–3 CDE$LIBDTWIDGET.EXE に入っている CDE カスタム・ウィジェット・ルーチン C–5

まえがき

対象読者

本書は，日本語 DECwindows Motif for OpenVMS Alpha V1.2–4 の構成要素である New Desktop を利用するユーザをおもな対象としたドキュメントです。記載されている内容は一般ユーザ，システム管理の担当者，プログラマのために書かれています。

本書の構成

本書はあらゆる層のユーザを対象としています。表 1 は，各章のタイトルとその章の対象読者をまとめたものです。

表 1　各章とその対象読者

章	タイトル	対象読者
1	New Desktop の概要	すべてのユーザ
2	New Desktop の使い方	すべてのユーザ
3	New Desktop の管理	システム管理者および上級ユーザー
4	New Desktop にアプリケーションの統合	プログラマ
5	New Desktop のプログラミング・リソース	プログラマ

参考文献

表 2 は，本書に関連するドキュメントをまとめたものです。

表 2　本書に関連するドキュメント

ドキュメント・タイトル	説明
『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS V1.2–4 リリース・ノート』	リリース・ノートとともに新機能も説明しています。
『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS V1.2–4 インストレーション・ガイド』	インストレーション方法について詳しく説明しています。
共通デスクトップ環境 (CDE) 関連ドキュメント	UNIX ベンダが作成した日本語ドキュメントで，PS フォーマットのものが「Corporate Online Documentation Library CD-ROM」に含まれています。また，第 1.8.1 項で説明しているように印刷版もあります。

OpenVMS の製品とサービスに関する追加情報は，弊社の次の OpenVMS Web サイトにアクセスしてください。

http://www.openvms.digital.com

表記について

OpenVMS AXP オペレーティング・システムの名称が，新しく OpenVMS Alpha に変わりましたのでご注意ください。本書に記載の OpenVMS AXP または AXP は， OpenVMS Alpha または Alpha と同じものを指します。

本書では， DECwindows および DECwindows Motif は，日本語 DECwindows Motif for OpenVMS ソフトウェアを指します。

本書ではこの他に次の表記法を使用します。

MB1 (選択) MB3 (メニュー表示)	MB1 はマウスの左ボタンのことで， MB3 はマウスの右ボタンのことを表します。
Ctrl/x	複数のキーを組み合わせて使用する場合に，このように表します。この場合は， Ctrl キーを押しながら同時にその他のキーを押したりポインティング・デバイスのボタンを押すことを表します。

Return	四角で囲んだキーの名前は，コマンドの例文中ではキーボード上のそのキーを押すことを表します。ただし，説明文中ではキーの名前は四角で囲まれません。
. . .	例文中の横に並んだ点は省略符号で，次のどれか 1 つに該当します。 • 文の追加オプションの引き数が省略されている。 • 前項目（複数の場合あり）が 1 回以上繰り返される。 • 追加パラメータ，値またはその他の情報をこの部分に入力する。
. . .	例文中の縦に並んだ点は省略符号で，コード例またはコマンド・フォーマットから項目が省略されていることを示します。これは，その項目がトピックを説明するにあたって重要でないためです。
( )	コマンド・フォーマットの説明文中の丸括弧（）は， 1 つ以上のオプションを選択する場合，オプションを必ず括弧で囲まなければならないことを示しています。
[ ]	コマンド・フォーマットの説明文中の四角い括弧[ ]は，オプションで付加する要素を示しています。これらのオプションから 1 つだけ，まったく選ばない，すべてを選ぶという選択ができます。（ただし， OpenVMS ファイル仕様でのディレクトリ名の構文，または代入文中のサブストリング仕様の構文においては，この括弧そのものはオプションではありません。）
{ }	コマンド・フォーマットの説明文中の波括弧{ }は，この中にあるオプションを必ず選択しなければならないことを示しています。括弧で囲まれたオプションの中から 1 つを選択してください。
太字	太字のテキストは新しい用語の紹介，または引き数名，属性名，理由を表します。 太字テキストは Bookreader 版のドキュメントでユーザによる入力を示す場合にも使用されます。
斜体文字	斜体文字は，重要な情報，ドキュメントの正式名称，または変数を示します。変数とは変動する情報で，例えばシステムの出力（内部エラー**番号**），コマンド行 (/PRODUCER=**名前**)，テキスト中のコマンド・パラメータ（**デバイス名**は英数字 5 文字以下）などがあります。
大文字	大文字テキストは，コマンド，ルーチン名，ファイル名，またはシステム特権の略称を示します。

`Monospace type`	このフォントのテキストは，構文例や対話式で画面に表示されるテキストを表します。 ただし， C プログラミング言語では，例中にあるキーワード，独立してコンパイルされる外部関数名やファイル名，構文の要約，変数名または識別子名を本文で引用するときに，このフォントの文字で表します。
-	コマンド・フォーマットの説明文，コマンド行またはコード行の末尾のハイフン（-）は，そのコマンドや文が次の行へ続くことを表します。
数字	テキスト中のすべての数字は，特に指定されてない限り 10 進法の数字です。 2 進数， 8 進数， 16 進数など 10 進数でない基数の場合は断り書きがあります。

1

New Desktop の概要

本章では次の事柄について説明します。

- CDE 概要 (第 1.1 節)
- CDE を採用する理由 (第 1.2 節)
- New Desktop 概要 (第 1.3 節)
- New Desktop の基本的な操作方法 (第 1.4 節)
- New Desktop の生産性向上のための機能 (第 1.5 節)
- ユーザ・アプリケーション (第 1.6 節)
- New Desktop で利用できる API(アプリケーション・プログラミング・インタフェース) およびアプリケーション統合サービス (第 1.7 節)
- New Desktop 関連ドキュメント (第 1.8 節)

1.1 CDE 概要

Motif および X11 をベースとした CDE (共通デスクトップ環境) は，次世代デスクトップとして知られています。 CDE は， UNIX ベンダ大手数社 (Hewlett-Packard， Sun， IBM， Novell) によって開発され， UNIX デスクトップ・インタフェースを統合し，一貫したユーザ環境と開発環境を定義しているものです。

CDE は，これらの UNIX ベンダならびに OSF (Open Software Foundation, Inc.) が開発した既存のテクノロジの上に構築されたものです。 CDE は， Motif を置き換えるものではなく，図 1–1 に示すように， Motif の上位層として位置付けられる付加的なソフトウェア層です。 CDE は Motif を補助するものとしてプログラミング・ユーティリティを追加し，一貫性のある統合されたユーザ・インタフェースおよび開発インタフェースを提供します。

1.2 CDE を採用する理由

弊社は Tru64 UNIX オペレーティング・システムに CDE を採用し， CDE の主要な部分を OpenVMS Alpha でも実現しています。 DECwindows デスクトップの後継として位置付けられる CDE は，最新技術のグラフィカル・ユーザ・インタフェースです。このインタフェースは視覚的な操作性に優れ，生産性を向上させる多くの機能を提供しています。

ユーザ・インタフェースの標準化により， CDE 提供ベンダが開発したシステムで，一般ユーザならびにシステム管理者が作業を行う場合の能率が向上します。また，ソフトウェアを習得するためのトレーニング費用の削減にもなります。このように多様なシステムで使用することができるように開発環境を標準化することにより，アプリケーションの作成と保守が容易になります。

1.3 New Desktop 概要

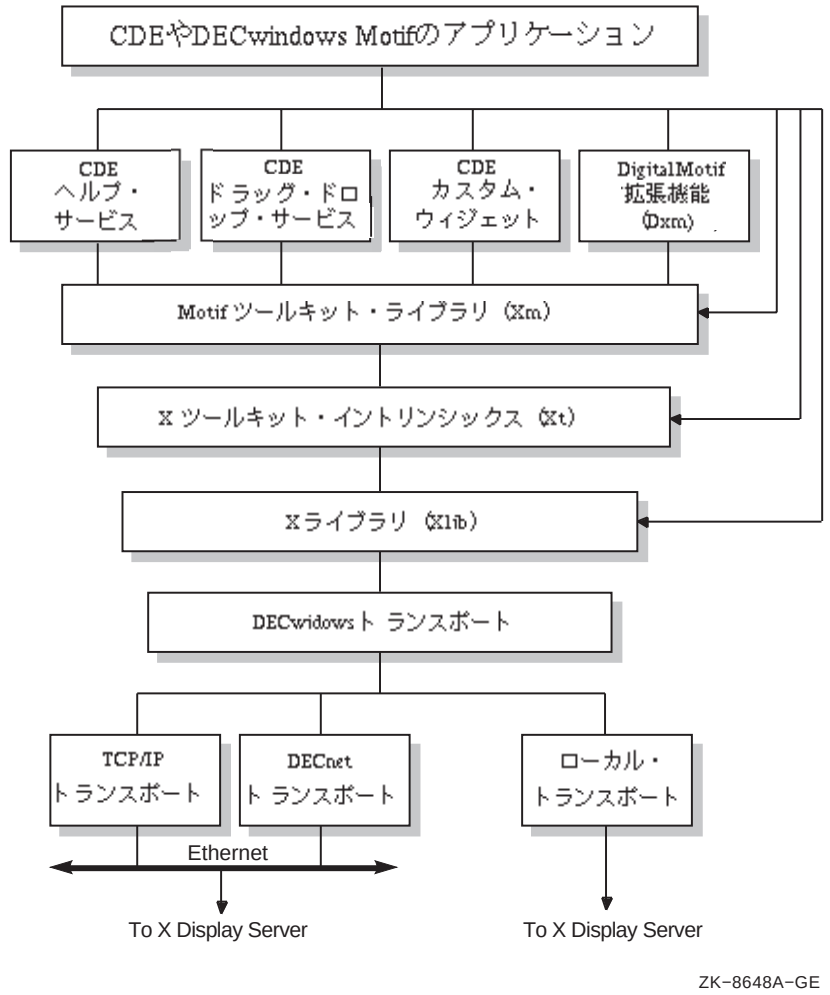
OpenVMS Alpha で実現された CDE を New Desktop と呼びます。以前のバージョンの DECwindows Motif ユーザ・インタフェースは， DECwindows デスクトップです。 DECwindows Motif は，図 1–1 で示すように New Desktop のベースとなっています。最上位のアプリケーションは，下位のすべてのアプリケーションを呼び出すことができます。

New Desktop を使用したために， DECwindows Motif のアプリケーションを実行できなくなることはありません。 New Desktop 環境であっても，漢字端末エミュレータを使用して任意の DECwindows Motif アプリケーションを実行することができます。さらに， New Desktop 環境で，すべての DECwindows アプリケーションを実行できるように構成することもできます。

OpenVMS Alpha では New Desktop がデフォルトのデスクトップですが，従来の DECwindows デスクトップを使用することもできます。 New Desktop のインストレーション時に，または New Desktop のログイン・ボックスから DECwindows デスクトップを選択することができます。インストレーション後，特権ユーザがシステムのセットアップ・ファイルを編集して DECwindows を再起動することによ

り，2 つのデスクトップを切り替えることができます。詳細は，本書の第 3.2 節を参照してください。

図 1–1　New Desktop のアーキテクチャ



1.4 New Desktop の基本的な操作方法

次の手順に従って本書を参照しながらアプリケーションを使用することにより，New Desktop の基本的な操作方法を習得することができます。

1. 本書の第 1 章と第 2 章をお読みください。また，必要に応じて第 3 章～第 5 章も参照してください。
2. フロントパネルからアクセスできるオンライン・ヘルプの[デスクトップの紹介]を利用してください。特に[デスクトップの外観]の項目が有用です。

   このオンライン・ヘルプは， New Desktop に最初にログインする際に表示されますが，フロントパネルのヘルプ・アイコンからもアクセスすることができます。
3. CDE アプリケーションをいくつか選択して実行し，そのヘルプまたはオンライン・マニュアルを参照してください。

1.5 New Desktop の生産性向上のための機能

New Desktop は， DECwindows Motif にはない多くの機能を提供します。特に作業の生産性を向上させる機能として，次のものがあります。

図 1–2 フロントパネル

- フロントパネル

  フロントパネル (図 1–2) は，アプリケーションへの高速アクセスを実現しています。ユーザがカスタマイズしたワークスペースのいずれかをフロントパネルから選択したり，アイコンで表示されているアプリケーションを起動することができます。選択ならびに起動は，ワークスペースのアイコンまたはアプリケーション・アイコンをマウスで**シングル**・クリックするだけで実行できます。

すべてのワークスペースについて，図 1–2 と同様のフロントパネルが表示されます。

フロントパネルの 3 つのアイコンはサブパネルを持っています。サブパネルを持つアイコンには，その上部に矢印が付いています。この矢印をシングル・クリックすれば，選択項目メニューが入ったサブパネルが表示され，矢印が下向きに表示されます。この矢印をシングル・クリックすると，メニュー表示が消えます。

アイコン，ワークスペース名，サブパネルに表示されるアプリケーションなど，フロントパネルの各種部分をカスタマイズすることができます。

フロントパネルには， DECwindows セッション・マネージャで提供されている多くの機能が用意されています。アプリケーションを選択する場合はそのアプリケーションのアイコンをクリックし，現在のセッションを休止する場合はロック・アイコンをクリックし，終了する場合は EXIT ボタンをクリックします。フロントパネルは New Desktop のウィンドウ・マネージャの一部です。

- ワークスペース

  ワークスペースは**仮想画面**です。ワークスペースを選択すると，そのワークスペースに含まれているアプリケーションだけが表示されます。複数のワークスペースの使用により，作業内容に応じて，日常的に同時に使用するアプリケーションをグループにまとめて，作業を整理することができます。たとえば， 1 つのワークスペースをプロジェクト管理用， 2 つ目をインターネット通信用， 3 つ目を経理業務用として使用することができます。

  ワークスペースの追加，削除，名前の変更を動的に行うことができます。デフォルトのワークスペース数は 4 面 (図 1–2) ですが，最大 64 面まで使用することができます。ワークスペースの数はシステム・リソースによって制限される場合があります。

- アイコン・ベースのファイル・マネージャ

  アイコン・ベースのファイル・マネージャでは，ドラッグ・ドロップ機能を使用することによって，ファイルを迅速かつ簡単に管理することができます。また，ファイル・マネージャでは， (アプリケーション・マネージャを介した) アプリケーションの一覧機能およびごみ箱という 2 つの特殊なタイプの最上位レベル・ウィンドウもサポートしています。

ファイル・マネージャを使用することで，ディレクトリの階層構造を簡単に移動することができます。ファイル・マネージャには，たとえばツリー構造の表示，あるいはファイルサイズ，改訂日付を含む拡張された詳細情報の表示などのいくつかの表示オプションが含まれています。また，ファイル型を指定したファイルの選択，いくつかの条件による並べ替えを実行することができます。

- ワークスペースごとに起動しているアプリケーションの自動的な保存および復元

  ログアウト時に，現在のセッションの状態が保存されます。ログアウト時に起動していたアプリケーションが自動的な保存および復元をサポートする場合は，次回のログイン時に，自動的にログアウト時の状態に戻ります。あるいは使用中のセッションの状態を保存して，ログイン時にその時点の状態に戻すこともできます。 New Desktop に含まれているアプリケーションはすべてこの機能をサポートしています。

注意

自動的な保存および復元が実行される細部のレベルは，アプリケーションに応じて異なります。アプリケーションによっては，保存時点のアプリケーションの表示を含む全体の状態を復元するものと，主要画面だけを復元するものがあります。

1.6 ユーザ用アプリケーション

表 1–1 は， New Desktop に含まれる CDE および DECwindows の全ユーザ・アプリケーションについて，次の項目別にまとめたものです。

- アプリケーション名
- 実行可能ファイル名
- CDE アプリケーションまたは DECwindows アプリケーションのいずれか
- あらかじめ構成されたフロントパネルからのアクセス可能性

New Desktop に統合されたユーザ・アプリケーションに加え，日本語 DECwindows Motif V1.2–4 に含まれているすべての DECwindows アプリケーションも New Desktop の一部を構成しているため，アプリケーション・マネージャからアクセスすることができます。なお， New Desktop には New Desktop ヘルプ用のヘルプ・ビューアと DECwindows ヘルプ用の Bookreader の， 2 種類のヘルプ・ビューアがあることに注意してください。

表 1–1 ユーザ・アプリケーションおよびサービス

アプリケーション名	実行可能プログラム名	CDE または DECwindows	フロントパネルからアクセス可/不可
アクション・データベースおよび実行管理ユーティリティ (アクション作成)	dtcreate	CDE	不可
アクション・ユーティリティ	dtaction	CDE	不可
アプリケーション・マネージャ，ファイル・マネージャ	dtfile	CDE	可
Bookreader	decw$bookreader[1]	DECwindows	可
電卓	dtcalc	CDE	可
カレンダ	decw$calendar	DECwindows	可
時計	decw$clock	DECwindows	不可[2]
漢字端末エミュレータ	DECW$TERMINAL	DECwindows	可
フロントパネルおよびワークスペース・マネージャ	dtwm	CDE	—
ヘルプ印刷ユーティリティ	dthelpprint	CDE	不可
ヘルプ・ビューア	dthelpview	CDE	可
アイコン・エディタ	dticon	CDE	可[3]
メール・プログラム	DECW$MAIL	DECwindows	可

[1] [ヘルプ]サブパネルからアクセス可能です。

[2] フロントパネルの時計は表示のみのアイコンのため，このアイコンをクリックしても時計アプリケーションにアクセスすることはできません。ただし，アプリケーション・マネージャの DECwindows アプリケーション・グループからアクセス可能です。

[3] [個人アプリケーション]サブパネルからアクセス可能です。

(次ページに続く)

表 1–1 (続き) ユーザ・アプリケーションおよびサービス

アプリケーション名	実行可能プログラム名	CDE または DECwindows	フロントパネルからアクセス可/不可
印刷ダイアログ	PRINTDIALOG	DECwindows[4]	可
セッション・マネージャ	dtsession	CDE	不可
スタイル・マネージャ	dtstyle	CDE	可
テキスト・エディタ	dtpad	CDE	可[3]
ごみ箱	dtfile	CDE	可
エラー監視	DECW$MESSAGEPANEL	DECwindows	不可

[3][個人アプリケーション]サブパネルからアクセス可能です。
[4]DECwindows 印刷ウイジェットをベースとしています。

1.7 API およびアプリケーション統合サービス

New Desktop では, CDE の API (アプリケーション・プログラミング・インタフェース) とアプリケーション統合サービスを利用することができます (本書の第 5.2 節を参照)。

これらの新規の API とアプリケーション統合サービスに加え, すべての DECwindows Motif の API およびアプリケーション統合サービスを New Desktop から使用することができます。

1.8 New Desktop 関連ドキュメント

DECwindows Motif キットには, New Desktop をサポートするための次のドキュメントが含まれています。

- オンライン・ヘルプによる紹介
- オンライン・リファレンス・ページ (マニュアル・ページとも呼ばれます)
- すべての CDE アプリケーションに関するヘルプ
- すべての DECwindows アプリケーションに関するヘルプ

- HTML 形式の CDE ドキュメント一式
- Bookreader 形式の DECwindows Motif ドキュメント一式 (ほとんどのドキュメントについて)

ドキュメントについての詳細は，次の表を参照してください。

表 1–2 New Desktop のドキュメント

ドキュメント	内容	アクセス方法
オンライン・ヘルプ		
フロントパネルのヘルプ	CDE デスクトップの概要を説明するヘルプで， New Desktop のすべての CDE アプリケーションのヘルプならびに Bookreader へアクセスが可能です。	フロントパネルの[ヘルプ]アイコンをクリックしてヘルプ・マネージャのメニューを表示するか，ヘルプのサブパネルを表示して[デスクトップの紹介]，[ヘルプ・マネージャ],[DECwindows Bookreader]のいずれかを選択します。ヘルプ・マネージャからは，[デスクトップの紹介]と[CDE アプリケーション・ヘルプ]を選択することができます。
CDE アイテム・ヘルプ	フロントパネル上およびアプリケーション内のアイコンとコントロール (ボタン) の簡単な説明です。	ヘルプメニューからアイテムを選んでクリックし，情報を表示したいアイコンまたはコントロールにカーソルを移動してクリックします。アイテム・ヘルプを利用する場合は，この手順を繰り返してください。
アプリケーション・ヘルプ (CDE および DECwindows)	アプリケーション内の状況依存ヘルプを含む各アプリケーションの[ヘルプ]メニューです。	アプリケーションを起動し，メニュー・バーからヘルプを選択します。この[ヘルプ]メニューから必要な項目を選択してください。
オンライン・ドキュメントおよびリファレンス・ページ		
CDE オンライン・ドキュメント	CDE を開発した UNIX ベンダが作成したドキュメントです。	『Online Documentation Library CD-ROM User's Guide』を参照するか， PS ファイルを印刷してください。

(次ページに続く)

表 1–2 (続き) New Desktop のドキュメント

ドキュメント	内容	アクセス方法
オンライン・ドキュメントおよびリファレンス・ページ		
CDE のオンライン・リファレンス・ページ	CDE を開発した UNIX ベンダが作成した CDE システムの多くのコマンドについて説明しているリファレンス・マニュアルです。	ファイル・マネージャからリファレンス・ページのディレクトリ[1]を選択し，読みたいファイルを選択します。アプリケーション・マネージャから[デスクトップ・アプリケーション]を選択し，次に[マニュアル・ページ・ビューア]を選択して，読みたいファイル名を入力します。
DECwindows Motif オンライン・ドキュメント	弊社作成のドキュメント	フロントパネルの[ヘルプ]アイコンの上部の矢印をクリックし，[ヘルプ]サブパネルを表示します。続いて[DECwindows Bookreader]アイコンを選択して必要なドキュメントを選択します。[2]
印刷版ドキュメント		
印刷版 CDE ドキュメント	CDE を開発した UNIX ベンダ作成のドキュメント (Digital UNIX の表紙)。	ご注文は第 1.8.1 項にある注文番号をお調べのうえ，弊社にご連絡ください。ご注文方法は本書の「まえがき」に記載されています。

[1] ディレクトリ名は CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[MAN]です。

[2] この選択方法を使用するには， Bookreader のシステム論理名 DECW$BOOK が，ブックリーダのファイルが常駐しているディレクトリを示している必要があります。

1.8.1 CDE ドキュメント

CDE (共通デスクトップ環境) ドキュメントとその注文番号は，表 1–3 にまとめてあります。本書の「まえがき」で説明しているように，弊社にご注文ください。

表 1–3 CDE ドキュメントと注文番号

タイトル	注文番号	総ページ数
共通デスクトップ環境: ユーザーズ・ガイド	AA-QWKNA-TE	360
共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド	AA-QWKPA-TE	338
共通デスクトップ環境: プログラマ概要	AA-QWKRA-TE	92
共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド	AA-QWKXA-TE	210
共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド (ヘルプ・システム編)	AA-QWKQA-TE	318
共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド (国際化対応編)	AA-QWKUA-TE	172
共通デスクトップ環境: スタイル・ガイド	AA-QWKTA-TE	286

2

New Desktop の使用方法

本章では次の事項について説明します。

- New Desktop に含まれる CDE ユーザ・アプリケーション (第 2.1 節)
- DECwindows アプリケーションの起動 (第 2.2 節)
- アプリケーションの起動の簡素化 (第 2.3 節)
- CDE ユーザ・ドキュメント (第 2.4 節)

2.1 New Desktop に含まれる CDE ユーザ・アプリケーション

この節では， New Desktop に含まれる CDE ユーザ・アプリケーションについて簡単に説明します。特に， DECwindows デスクトップのアプリケーションを使い慣れたユーザに対して，両者の違いを説明します。 UNIX システム上の CDE と New Desktop の相違については，付録 A で説明しています。

2.1.1 ログイン・マネージャ

ログイン・マネージャは，従来の DECwindows デスクトップのログイン・ボックスと同様の方法で， New Desktop のログイン処理と認証処理を行います。ユーザの認証に加え，いくつかのオプションがあります。

[オプション]プルダウン・メニューから，次のオプションを選択することができます。

- ユーザ・インタフェースで使用する言語
- 使用するセッションのタイプ
- ログイン画面をリセットするかどうか

次のセッション・タイプを選択できます。

- New Desktop セッション

  New Desktop が標準の環境です。

- フェイルセーフ・セッション

  フェイルセーフ・セッションは，起動時の問題を修正するための漢字端末エミュレータ 1 面に限定された環境です。

- DECwindows セッション

  DECwindows セッションは従来の DECwindows 環境です。

ログイン画面のリセットは，ログイン画面に対するユーザ設定を無効とする場合，あるいは X 端末環境でログイン・ボックスを取り除いてログイン処理を中止する場合に有用です。

2.1.2 フロントパネル

図 2–1 に示すフロントパネルは，アプリケーションおよびその他多くの機能への高速なアクセスを提供します。この節では， DECwindows デスクトップを使い慣れたユーザに対して，フロントパネルの特徴について説明します。基本的な操作方法は次のとおりです。

- フロントパネルの移動

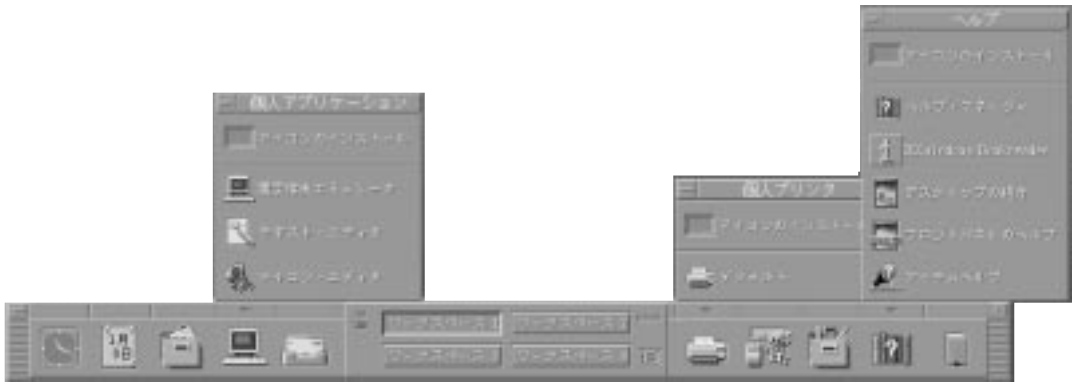
  左右いずれかの移動ハンドルにカーソルを合わせてマウスの左ボタン (MB1) を押すと，フロントパネルを移動することができます。フロントパネルは上下の移動はできますが，回転はできません。

- アプリケーションの起動

  フロントパネルの[時計]以外のアイコンは，**シングル**・クリックするだけでアイコンに対応したアプリケーションを起動することができます。

- 各アイコンに関する情報の表示

図 2–1 **フロントパネル**



アイコンにカーソルを合わせてマウスの右ボタン (MB3) を押すと，そのアイコンについて説明したヘルプの表示，あるいはサブパネルの追加や削除を行うすることができます。

- [時計]アイコン

  [時計]アプリケーションは現在の時刻を表示します。ただし，[時計]はフロントパネルにある他のアプリケーションとは異なり，個別のアプリケーションではありません。[時計]はウィンドウ・マネージャの一部であり，フロントパネルの環境設定ファイルの日付制御定義を編集することによってカスタマイズすることができます。編集方法については，『共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』を参照してください。 DECwindows の[時計]アプリケーションには，アプリケーション・マネージャの[DECwindows アプリケーション]からアクセスすることができます。

- アイコンの上にある矢印

  矢印は，サブパネルやメニューがあることを示します。カーソルを矢印に合わせてシングル・クリックすると，サブパネルが表示されます。サブパネルに表示される[アイコンのインストール]項目を使用すると，そのメニューにアプリケーションを追加することができます。サブパネルを閉じる場合は，サブメニューを開いた際に下向きに表示された矢印にカーソルを合わせて，シングル・クリックします。

- サブパネルの移動

サブパネルはマウスの左ボタンを使用して移動することができます。カーソルをサブパネルのメニュー・バーに合わせて左ボタンを押したまま，サブパネルを新しい位置にドラッグして，ボタンを離します。

- フロントパネルとワークスペースの関係

  ワークスペースは最大 64 面まで使用することができます。すべてのワークスペースは同一のフロントパネルを使用し，各ワークスペースに表示されます。

- アプリケーションとワークスペースの関係

  同一のアプリケーションを複数のワークスペースに配置することができます。たとえば[テキスト・エディタ]を 2 つのワークスペースに配置したり，[時計]を各ワークスペースに配置することが可能です。これには，図 2–2 に示す[ウィンドウ]メニューで，[配置するワークスペース]あるいは[すべてのワークスペースに配置]のいずれかを選択します。アプリケーションの[ウィンドウ]メニューは，メイン・ウィンドウの左上のコントロールをクリックすると表示されます。

- ワークスペースの管理

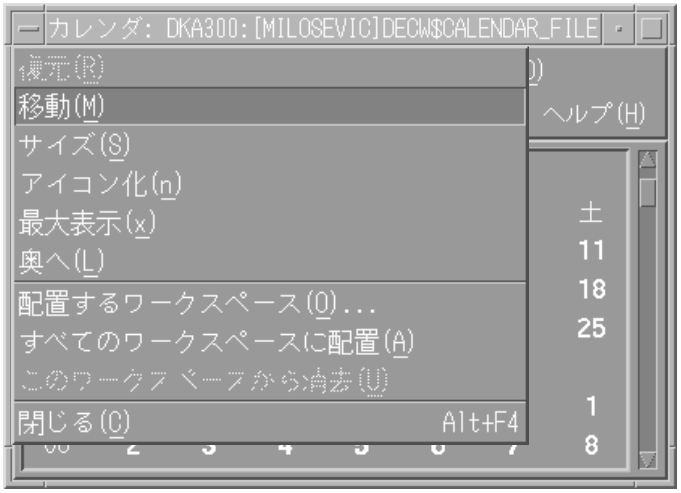
  カーソルをワークスペースのコントロール・ボタンに合わせて，マウスの右ボタン (MB3) を押すと，ワークスペースの追加，削除，名前変更のためのメニューが表示されます。

2.1.3 アプリケーション・マネージャ

アプリケーション・マネージャはシステムで利用可能なアプリケーションやツールを 1 つにまとめたものです。アプリケーション・マネージャは，表 2–1 に示す New Desktop で提供されるアプリケーションおよびユーザが作成するアプリケーション (第 4.4 節を参照) の各アプリケーション・グループをサポートしています。

アプリケーション・マネージャ画面を表示するには，図 2–1 に示す[アプリケーション・マネージャ]アイコンをシングル・クリックします。アプリケーション・マネージャ画面でグループのアイコンをダブル・クリックすると，グループを選択することができます。そのグループ内の各アプリケーションを表すアイコンを含む画

図 2–2 **ウィンドウ・マネージャのメニュー**



面が表示されます。この画面でアイコンをダブル・クリックすると，対応するアプリケーションを起動することができます。

表 2–1 構成済みのアプリケーション・グループ

グループ	内容
DECwindows アプリケーション	DECwindows Motif V1.2-3 以前のメール・プログラム，カレンダ，ファイルビュー，カード管理その他の全アプリケーション
DECwindows ユーティリティ	大部分の標準 X ユーティリティ
デスクトップ・アプリケーション	CDE アプリケーション
デスクトップツール	ファイルの比較，論理名の表示，イメージの表示など，ユーザ共通の処理を行うツール

アプリケーション・マネージャについての詳細は，オンライン・ヘルプあるいは『共通デスクトップ環境: ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

2.1.4 電卓

New Desktop の電卓アプリケーションには，次の機能があります。

- 3 モード: 科学計算用 (標準)，論理計算用，財務計算用
- 科学計算モードで 3 種の三角法
- 10 進数， 2 進数， 8 進数， 16 進数の 4 つの数値計算
- 各モードにつき，数値を記憶する 10 個のメモリ

  数値はメモリから呼び出したり，表示領域と指定したメモリとの間での交換が可能です。

New Desktop の電卓には，[個人アプリケーション]サブパネルからアクセスすることができます。詳細はヘルプを参照してください。

DECwindows デスクトップの電卓も使用可能です。アプリケーション・マネージャの[DECwindows アプリケーション]グループからアクセスすることができます。

2.1.5 ファイル・マネージャ

ファイル・マネージャは各ファイルをアイコンで表示します。ドラッグ・ドロップ機能を使用して，ファイルを簡単に操作することができます。またファイルへの高速なアクセスができるよう，画面の背景に配置することも可能です。また異なるディレクトリあるいは同一ディレクトリ内のファイルを同時に表示することもできます。

2.1.5.1 ファイルの表現方法

ファイル・マネージャでは次の 4 種のファイル表現方法をサポートしています。

- 拡大アイコン
- 縮小アイコン
- ファイル名のみ
- ディレクトリ階層構造の表示

ユーザはいずれかの表現方法を選択することができます。ディレクトリの階層構造内を頻繁に移動する場合は，ディレクトリ階層構造の表示を選択するとよいでしょう。

注意

ファイル・マネージャで拡張子.EXE や.COM が付いているファイルをクリックして，実行可能プログラムやコマンド・プロシージャを起動した場合，対応する漢字端末エミュレータのウィンドウが起動され，プログラムあるいはコマンド・プロシージャの出力が表示されます。漢字端末エミュレータのウィンドウは，実行可能プログラムやコマンド・プロシージャのタイプとは無関係に作成されます。漢字端末エミュレータのウィンドウを表示しない場合は，その実行可能ファイルやコマンド・ファイルを起動するための新規のアクション定義ファイルと対応するアクション (stub)・ファイルを作成する必要があります。アクション定義ファイルとアクション・ファイル作成方法についての詳細は，第 4.1 節を参照してください。

2.1.5.2 ファイルのフィルタリングと並べ替え

いくつかの条件によるファイルのフィルタリングおよび並べ替えが可能です。フィルタ・オプションの設定は，ファイル・マネージャのメニュー・バーで[表示]を選択し，[表示]メニューの[フィルタ・オプションの設定]を選択してください。各種のデータ型のフィルタのオンおよびオフが可能です。たとえば， COM_FILE 型のファイルだけを表示したり， COM_FILE 型以外の全ファイルを表示したりすることができます (第 3.4.2.1 項を参照)。フィルタ・オプションでは，明示的なファイル型 (たとえば.RDB) だけでなく，ファイルのバージョン別にフィルタリングすることもできます。すべてのバージョンのファイルを表示したり，最新バージョンだけを表示させることができます。

並べ替えの条件の設定は，ファイル・マネージャのメニュー・バーで[表示]を選択し，[表示]メニューで[表示オプションの設定]を選択します。アルファベット順，データ型順，変更日付順，サイズ順の並べ替えを選択することができます。

ファイル・マネージャの機能についての詳細は，そのオンライン・ヘルプ，『共通デスクトップ環境: ユーザーズ・ガイド』，『共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』を参照してください。

2.1.6 ごみ箱

ファイル・マネージャでは，[ごみ箱]アイコンにファイルをドロップすることができます。[ごみ箱]に移動したファイルは実際には削除されず，ディスク使用量は元のままの状態となります。ファイルを削除するには，ごみ箱の内容をシュレッドする必要があります。シュレッドされていないごみ箱内のファイルは，元に戻すことができます。

2.1.7 ヘルプ・ビューア

ヘルプ・ビューアはフロントパネル (図 2–1 を参照) ならびに各 CDE アプリケーションからアクセスすることができ， New Desktop 内の全 CDE アプリケーションのヘルプを表示します。アプリケーションのヘルプに加え，ヘルプに関するヘルプ，デスクトップの紹介，アイテム・ヘルプなど，他の数種のヘルプも用意されています。

アイテム・ヘルプを使用するには，[ヘルプ]サブパネルから[アイテム・ヘルプ]を選択し，カーソルを表示させたい項目に移動してシングル・クリックします。最大サイズのウィンドウにヘルプが表示されます。

ヘルプ・ビューアについての詳細は，そのオンライン・ヘルプと『共通デスクトップ環境: ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

2.1.8 アイコン・エディタ

アイコン・エディタは，[漢字端末エミュレータ]アイコンの上にあるサブパネルから起動することができ，新規アイコンの作成あるいは既存のアイコンの編集をすることができます。アイコンのサイズの変更，ホットスポットの追加，画面のイメージを取り込んでの編集などが可能です。

アイコン・エディタについての詳細は，そのオンライン・ヘルプと『共通デスクトップ環境: ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

2.1.9 印刷ダイアログ

フロントパネルの[プリンタ]アイコン (図 2–1 を参照) は，デスクトップ用のデフォルト・プリンタをアクセスするよう設定することができます。デフォルト・プリンタは，システムの SYS$PRINT 論理名の値によって定義することができます。

[印刷ダイアログ]を使用して，デフォルト・プリンタの異なる印刷ジョブ・オプションを選択することができます。[印刷ダイアログ]を起動するには，フロントパネルのアイコンをクリックします。

デフォルト・プリンタに指定したオプションを使用して，デフォルト・プリンタにファイルを印刷する場合は，印刷したいファイルのアイコンをドラッグて[印刷ダイアログ]アイコンにドロップします。

デフォルト・プリンタとは異なるプリンタを使用する場合は，第 3.4.5 項を参照してください。

2.1.10 テキスト・エディタ

テキスト・エディタは完全な機能を持つテキスト・エディタで，漢字端末エミュレータのアイコンの上にあるサブパネルからアクセスすることができます。これは標準のテキスト編集機能だけでなく，ドラッグ・ドロップ機能などの高度な機能も持っています。ドラッグ・ドロップ機能を使用して，テキストの移動，テキストのコピー，ファイル全体の別のファイルへの書き込みを行うことができます。

デフォルト・エディタとして別のエディタを使用したい場合は，第 3.4.6 項を参照してください。

2.1.11 セッション・マネージャ

セッション・マネージャは，スタイル・マネージャの[起動]メニューから起動することができます。[起動]メニューで，アプリケーションの次回のセッションの構成を選択することができます。表 2–2 に[起動]メニューのオプションを示します。

表 2–2 起動メニューのオプション

オプション	説明
[このセッションを再開]	次回ログインする場合に，ログアウトした際のセッションの構成に可能なかぎり近いセッションを再開します。
[ホームセッションを開始]	次回ログインした場合に，ホームセッションとして定義した構成のセッションを開始します。ホームセッションを定義していない場合は，システムのデフォルト・セッションを開始します。
[ログアウト時に決定]	ログアウトする場合に，次回に起動するオプションとして[このセッションを再開]あるいは[ホームセッションを開始]のいずれかを選択することができます。
[ログアウト確認]	ログアウトの確認のメッセージの表示あるいは非表示を指定することができます。
[ホームセッションを設定]	現在のセッションをホーム・セッションとして選択することができます。セッション起動中はどの時点でも選択が可能です。セッション起動中に行ったカスタマイズも含まれます。

2.1.12 スタイル・マネージャ

スタイル・マネージャで，デスクトップ環境の次の構成要素を制御することができます。

- フォント・サイズ
- 背景 (各ワークスペース)
- 使用言語，クリックの特性を含むキーボードの属性
- マウスの属性
- ビープ音の特性
- 画面特性

  画面のロック時に画面の消去，あるいは背景機能の使用を選択することができます。
- ウィンドウの動作設定

  ウィンドウをアクティブにする方法 (ポインタの移動あるいはクリック) など。
- 起動属性

  第 2.1.11 項の説明を参照。
- セキュリティ

  個人のデスクトップの使用を許可されたユーザの設定。

2.2 DECwindows アプリケーションの起動

DECwindows Motif の旧バージョンで提供されるすべてのアプリケーションが，New Desktop に含まれています。デフォルト設定では，そのうちのいくつかをフロントパネルから起動することができ，アプリケーション・マネージャからはすべてのアプリケーションを起動することができます。フロントパネルから起動可能なアプリケーションは，次のとおりです。

- カレンダ
- メール・プログラム

- 漢字端末エミュレータ

DECwindows アプリケーションは，漢字端末エミュレータからも起動することができます。 DECwindows アプリケーションのオプション製品 (別途購入された DECwindows アプリケーション) も，漢字端末エミュレータから起動することができます。

表 2–3 は各アプリケーションの起動方法をまとめたものです。

表 2–3 DECwindows **アプリケーションの起動方法**

起動する場所	**起動方法**
フロントパネル	アイコンあるいはサブパネルからアプリケーションを選択して**シングル**・クリックします。
アプリケーション・マネージャ	フロントパネルから[アプリケーション・マネージャ]アイコンを**シングル**・クリックし，続いてアプリケーション・グループのアイコンをダブル・クリックし，さらに該当のアプリケーションのアイコンをダブルクリックします。
漢字端末エミュレータ	システムで定義されているアプリケーション名によってアプリケーションを実行します。

2.3 アプリケーション起動の簡素化

アプリケーション・マネージャあるいはフロントパネルに配置されていないアプリケーションも起動することができます。ファイル・マネージャからそのアプリケーションのデフォルト・アイコン (ファイル名の下に稲妻のマークがあるアイコン) をドラックして，次のいずれかの場所にドロップしてください。

- アプリケーション・マネージャの新規アプリケーション・グループ
- フロントパネルの[個人アプリケーション]サブパネルの[アイコンのインストール] (そのサブパネルに新規アプリケーションのアイコンが作成されます)
- デスクトップ (ワークスペースの背景)

アプリケーションのアイコンを上記のいずれかの位置に移動すると，その移動した位置からアプリケーションを起動することができます。

この方法でアイコンを移動した場合，アプリケーションを起動することはできますが，移動したアプリケーションには New Desktop の一部であるアプリケーションと同等レベルの統合性はありません。たとえば，移動したアプリケーションには独自のアイコンがなく，そのアプリケーションを起動するたびに新たに漢字端末エミュレータが作成されます。アイコンについては， New Desktop で用意されているアイコンのなかから異なるアイコンを選択したり，新しいアイコンを作成したりすることができます。また，漢字端末エミュレータが不要な場合は消去することができます。また，そのアプリケーションを New Desktop に統合する場合は，自動的に指定する引数を設定することもできます。

最小限の統合については第 4.1 節を参照してください。新規アプリケーション・グループの作成方法については，第 4.4 節を参照してください。

2.4 CDE **ユーザ・ドキュメント**

New Desktop の CDE 構成要素についての説明は，ヘルプ・システムおよび別売の印刷版の CDE ドキュメントに記載されています (第 1.8.1 項を参照)。

次の CDE ユーザ・ドキュメントが提供されています。

- 『共通デスクトップ環境: ユーザーズ・ガイド』
- 『共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』

3

New Desktop の管理

本章では次の事項について説明します。

- DECwindows と New Desktop の起動シーケンス (第 3.1 節)
- デフォルトのデスクトップの変更 (第 3.2 節)
- New Desktop のディレクトリ構造 (第 3.3 節)
- 環境とアプリケーションのカスタマイズ (第 3.4 節)
- New Desktop のエラー・ログの使用 (第 3.5 節)
- New Desktop 環境における色の使用
- New Desktop のフォントの使用 (第 3.7 節)
- X 端末その他の遠隔ディスプレイの使用 (第 3.8 節)
- 複数画面の使用 (第 3.9 節)
- New Desktop で作成されるプロセスの管理 (第 3.10 節)
- CDE システム管理関連ドキュメント (第 3.11 節)

3.1 DECwindows と New Desktop の起動シーケンス

DECwindows の起動コマンド・プロシージャである SYS$MANAGER:DECW$ STARTUP.COM は，従来の DECsindows デスクトップあるいは New Desktop のいずれかを起動します。 OpenVMS Alpha システムでは， New Desktop がデフォルトで起動します。

New Desktop のアプリケーション起動フェーズで SYS$MANAGER:CDE$ STARTUP.COM が実行され，次の手順を実行します。

1. New Desktop で使用する一連の論理名を定義します。

2. New Desktop で使用するいくつかの実行可能イメージ (ログイン) およびライブラリをインストールします。

いったんログインを起動すると，ログインはセッション・マネージャを起動し，続いてセッション・マネージャ用のウィンドウ・マネージャを起動します。DECwindows のログイン・プロセスについての詳細は，『日本語 DECwindows Motif for OpenVMS 環境設定の手引き』を参照してください。

3.2 デフォルトのデスクトップの変更

デフォルトのデスクトップを New Desktop から DECwindows デスクトップに変更するには， SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM ファイルを変更してからデスクトップを再起動します。

デフォルトのデスクトップを DECwindows デスクトップに変更するには，次の手順を実行してください。

1. SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM ファイルがない場合は， SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.TEMPLATE を SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM という名前の新規ファイルにコピーします。
2. SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM のグローバル・シンボル DECW$START_NEW_DESKTOP を次のように "FALSE"に定義します。

   ```
   $ DECW$START_NEW_DESKTOP == "FALSE"
   ```

3. 次のコマンドを使用して，デスクトップを再起動します。

   ```
   $ @SYS$MANAGER:DECW$STARTUP RESTART
   ```

DECwindows デスクトップを起動している場合に，デフォルトを New Desktop に戻したい場合は，上記の手順に従って， DECW$START_NEW_DESKTOP の値を "FALSE"ではなく "TRUE"に定義するようにしてください。

ログイン時にいずれかのデスクトップを選択できるようにしたい場合は，グローバル・シンボル DECW$START_NEW_DESKTOP を変更しないでください。第 2.1.1 項の記述に従って，ログイン時にログイン・マネージャの[オプション]メニューを使用してデスクトップを選択してください。

3.3 New Desktop のディレクトリ構造

New Desktop 環境で使用される必須ファイルは，かなり複雑なディレクトリの階層構造をしています。 New Desktop はファイルの位置を示す検索パスと検索順序を使用して，各ディレクトリ間を移動して各種の操作用のファイルにアクセスします。検索パスはディレクトリ指定を示す一覧を含む論理名であり， New Desktop の起動時に定義されます。

一般的に任意のデータ・ファイルは， 3 つの位置で検索されます。その位置と検索順序は次のとおりです。

1. *disk*$:[*user*.DT...]

   ユーザのホーム・ディレクトリにあるユーザ固有のディレクトリ

2. CDE$USER_DEFAULTS:[*...] (カスタマイズ可)

   システム全体で有効なディレクトリで，システム管理者がカスタマイズすることができます。

3. CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[*...] (カスタマイズ不可)

   システム全体で有効なディレクトリで，インストレーション時にすべてのファイルのデフォルト・コピーが置かれます。

すなわち，ユーザ固有のディレクトリで見つかったファイルは，システム全体で有効でカスタマイズ可能なディレクトリのファイルよりも優先され，さらに，システム全体で有効なカスタマイズ可能なディレクトリのファイルは，システム全体で有効なインストール済みのディレクトリのファイルよりも優先されるということです。

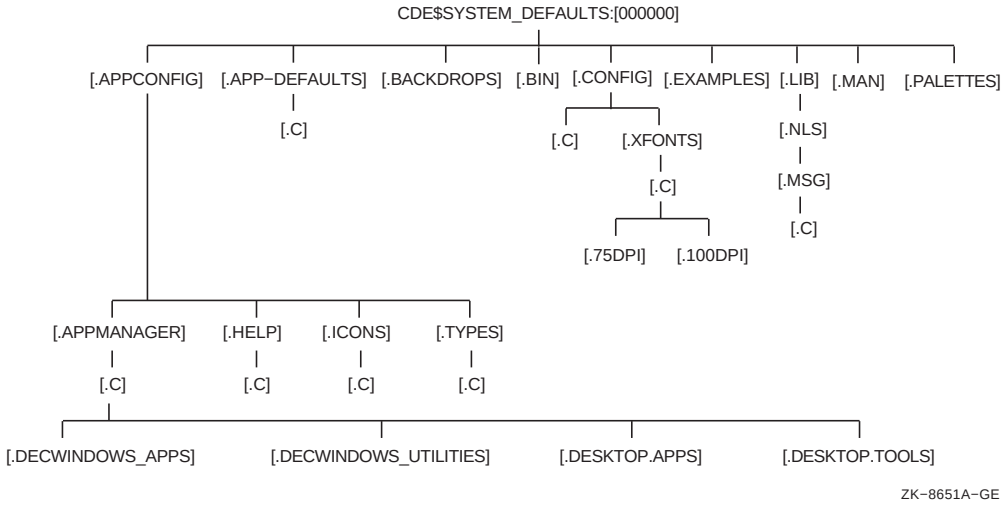
注意

CDE$USER_DEFAULTS **ディレクトリ構造は，インストレーション時には作成されません。システム全体のカスタマイズ設定を追加したい場合は，対応するディレクトリを作成する必要があります。**

3.3.1 システムのデフォルトの構成ディレクトリ

CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[*...]は， New Desktop のシステム・ディレクトリ構造であり，図 3–1 および表 3–1 に示すように読み出し専用ディレクトリであり，このディレクトリにリソース・ファイル，アプリケーション・ファイル，デフォルト・ファイル，構成ファイル，アプリケーション支援ファイルが置かれています。各ファイルは，将来のバージョンのインストレーション時に上書きされるため，編集しないようにしてください。また，これらのディレクトリからのファイルの読み込みおよび実行は可能ですが，アプリケーションがこれらのディレクトリにファイルを作成することはありません。

図 3–1 CDE$SYSTEM_DEFAULTS ディレクトリの構造



3.3.2 複数のロケール付きのディレクトリ構造

図 3–1 の[.C]ディレクトリには，システムにインストールされているデフォルトの C ロケールの実行に必要なロケール専用ファイルが入っています。追加ロケールをインストールした場合は，各[.C]ディレクトリと同一のレベルに対応するディレクトリが存在します。たとえば，システムに日本語ロケールをインストールした場合は，[.APP-DEFAULTS]のディレクトリ構造に[.C]と[.JA_JP_*]の両方が存在します。日本語ロケールに固有のファイルは[.JA_JP_*]に置かれ，[.C]ディレクトリ内の同一名称のファイルよりも先にアクセスされます。

表 3–1 CDE$SYSTEM_DEFAULTS のディレクトリ

ディレクトリ	内容
[.APPCONFIG]	フロントパネルの構成ファイルを含むアプリケーション管理ファイル，ヘルプ・ファイル，サンプル・ファイル，アイコン・ファイル，データ型定義ファイル。[.APPMANAGER]ディレクトリにはいくつかのサブディレクトリが含まれ，それぞれ異なるアプリケーション・グループに対応してします。各サブディレクトリには，そのグループ内の各アプリケーション当たり 1 つのアクション (stub)・ファイルが含まれています。
[.APP-DEFAULTS]	New Desktop が提供するアプリケーション用のアプリケーション・デフォルト (リソース)・ファイル。
[.BACKDROPS]	New Desktop が提供する背景機能関連ファイル。
[.BIN]	New Desktop の実行可能ファイル (バイナリ)。
[.CONFIG]	セッション・マネージャやウィンドウ・マネージャのリソースなど， New Desktop の各種機能のグローバル・リソース設定用のシステム構成ファイル。フォント別名ファイルは，[.XFONTS]サブディレクトリ構造に含まれています。
[.EXAMPLES]	CDE プログラミング・リソースの使用法を示すサンプル・ファイル。
[.LIB]	各国語化したメッセージ・カタログ・ファイル
[.MAN]	変更されていない，前処理された New Desktop 用の UNIX のマニュアル・ページ。
[.PALETTES]	New Desktop が提供するカラー・パレット・ファイル。

3.3.3 システム全体で有効なカスタマイズ用の構成ファイル

次のディレクトリは， New Desktop のシステム全体で有効な構成ディレクトリです。

```
CDE$USER_DEFAULTS:[*...]
```

表 3–1 に示すディレクトリは， CDE$USER_DEFAULTS:[*...]ディレクトリ構造に対応するディレクトリを持つことができます。システム全体で有効なカスタマイズ設定を行う場合は，最初にカスタマイズするファイルを CDE$SYSTEM_DEFAULTS から CDE$USER_DEFAULTS ディレクトリ構造の同一ディレクトリにコピーし，続いてそのファイルを編集してください。対応するディレクトリを作成する必要があります。

CDE$USER_DEFAULTS 論理名は， CDE$USER_SPECIFIC 論理名と CDE$USER_COMMON 論理名が入っている検索パスです。ノード固有の変更は， CDE$USER_SPECIFIC:[*...]ディレクトリ構造の該当するサブディレクトリに対して行ってください。クラスタ全体に有効な変更は， CDE$USER_COMMON:[*...]ディレクトリ構造の該当するサブディレクトリに対して行ってください。

表 3–2 は，ノードあるいはクラスタのシステム・デフォルト値のカスタマイズ方法を説明したものです。

表 3–2 ノードあるいはクラスタのデフォルト値のカスタマイズ方法

システムのタイプ	方法
ノード	変更したいデフォルト値が入っているファイルを， CDE$SYSTEM_DEFAULTS 内のディレクトリから CDE$USER_SPECIFIC 内の同名のディレクトリにコピーしてから，編集します。
クラスタ	変更したいデフォルト値が入っているファイルを， CDE$SYSTEM_DEFAULTS 内のディレクトリから CDE$USER_COMMON 内の同名のディレクトリにコピーしてから，編集します。

ユーザまたはアプリケーションが CDE$USER_DEFAULTS からの読み込みを行う場合は，最初に CDE$USER_SPECIFIC:[*...]を検索し，続いて CDE$USER_COMMON:[*...]を検索します。

ユーザまたはアプリケーションが CDE$USER_DEFAULTS:[*...]へのファイルの書き込みを行う場合は， CDE$USER_SPECIFIC:[*...]ディレクトリ構造に書き込まれます。 CDE$USER_COMMON:[*...]に書き込む場合は， CDE$USER_COMMON を指定して書き込みを行う必要があります。

3.3.4 ユーザのカスタマイズ設定用の構成ディレクトリ

New Desktop に最初にログインすると，表 3–3 に示すようなユーザ固有の構成ディレクトリ構造が作成されます。次に示すように，この階層構造の最上位ディレクトリがホーム・ディレクトリに置かれます。

disk$:[*user*.DT]

このディレクトリ構造には，各ユーザの固有の情報が置かれます。このディレクトリ内の情報は，システム固有の構成ディレクトリ (CDE$USER_DEFAULTS:[*...]) に存在するリソースあるいはカスタマイズ設定を無効にしたり，補足したりします。

disk$:[*user*.DT...]ディレクトリ構造には，エラー・ログ，ユーザが定義したアプリケーション・マネージャ用の構成ファイル，セッションの状態，保存および復元情報，ユーザが設定した背景機能，ヘルプ構成ファイル，アイコン，パレットが置かれます。

表 3–3 最初のログイン時に作成されるユーザ用ディレクトリ

ディレクトリ	内容
disk$:[*user*.DT.APPMANAGER]	個人アプリケーション・グループ
disk$:[*user*.DT.DESKTOP]	デスクトップ (背景) にドロップしたアイコンを復元するための情報
disk$:[*user*.DT.HELP]	個人用ヘルプ・ファイル
disk$:[*user*.DT.ICONS]	個人用アイコン・ファイル
disk$:[*user*.DT.PALETTES]	個人用パレット・ファイル
disk$:[*user*.DT.SESSIONS]	セッションの状態と保存および復元情報の作業領域
disk$:[*user*.DT.TMP]	New Desktop が作成する一時ファイル
disk$:[*user*.DT.TRASH]	ごみ箱に移動したファイルとその処理に関する情報
disk$:[*user*.DT.TYPES]	個人用アクション定義

3.3.5 データ・ファイルの優先順位

New Desktop アプリケーションが読み込むデータ・ファイルの優先順位は次のとおりです。

1. *disk*$:[*user*.DT...]
2. CDE$USER_SPECIFIC:[*...]
3. CDE$USER_COMMON:[*...]
4. CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[*...]

3.4 環境とアプリケーションのカスタマイズ

New Desktop 環境は各種の方法でカスタマイズすることができます。ほとんどのカスタマイズ設定はリソース・ファイルの変更によって行います。変更はファイルを直接編集するか， xrdb ユーティリティを使用するか，スタイル・マネージャで間接的に変更するかのいずれかの方法で行います。

また，アクションの追加や変更によっても環境をカスタマイズすることができます。[アクション作成]アプリケーションを使用することで，新規アクションの追加あるいは既存のアクションの変更が可能です (第 4.1 節を参照)。また，アクション定義ファイルとその対応ファイルを作成あるいは編集することによっても，アクションの追加，変更が可能です。

3.4.1 New Desktop とリソース・ファイルの使用

New Desktop は X ウィンドウ環境と同様に，リソース・ファイルを使用してグローバル・リソースとアプリケーション固有のリソースを定義します。グローバル・リソースは， New Desktop にログインした際に読み込まれます。アプリケーション固有のリソースは，そのアプリケーションを起動した際に読み込まれます。

DECwindows デスクトップで現在使用中のほとんどのリソース・ファイルは，New Desktop でも引き続き使用されます。システム全体で有効なリソースの DECW$SYSTEM_DEFAULTS_JA_JP および DECW$SYSTEM_DEFAULTS 論理名と，ユーザ固有のリソースの DECW$USER_DEFAULTS 論理名も引き続き検索され，グローバルなユーザ・デフォルト・ファイル DECW$USER_DEFAULTS:DECW$XDEFAULTS.DAT もログイン時に読み込まれます。

ただし New Desktop の場合は多少異なります。グローバルなシステム全体で有効なリソースは， CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.JA_JP_*]ディレクトリの SYS.RESOURCES ファイルおよび SYS.FONT ファイルから読み込まれます。ユーザ専用グローバル・リソースは，DECW$USER_DEFAULTS:DECW$XDEFAULTS.DAT ファイルおよび*disk*$:[*user*.DT.SESSIONS]のサブディレクトリにあるユーザの DT.RESOURCES ファイルから読み込まれます。サブディレクトリの選択は，使用しているセッションのタイプ (現在のセッションあるいはホーム・セッション) に応じて異なります。

DT.RESOURCES ファイルには， New Desktop のスタイル・マネージャを実行して指定されたカスタマイズ設定が入っています。このリソース・ファイルは，基本的に DECwindows デスクトップのセッション・マネージャの[オプション]プルダウン・メニューで作成する DECW$SMB_*.DAT ファイルと同一の役割を持っています。一部の例外を除き， DECwindows セッション・マネージャの[オプション]プルダウン・メニューでカスタマイズ可能なものは， New Desktop のスタイル・マネージャでもカスタマイズすることができます。

New Desktop に含まれている CDE アプリケーション用のアプリケーション固有のリソースは， CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APP-DEFAULTS.JA_JP_*]ディレクトリに置かれており，リソース・ファイルが DECW$SYSTEM_DEFAULTS_JA_JP: および DECW$SYSTEM_DEFAULTS: ディレクトリに見つからない場合に，このディレクトリが検索されます。 New Desktop のディレクトリの完全な階層構造については，第 3.3 節で説明しています。

注意

*hostList: **や***keyboardDialect: **などのすべてのリソース識別子は大文字と小文字が区別されます。通常，コロン** (:) **の次に指定する値は大文字と小文字も区別はありませんが，アプリケーションが値を解釈する方法によって異なります。ファイル名のリソース値は，大文字と小文字も区別はありません。**

3.4.2 New Desktop でのアクションの使用

アクションとは，多くの場合，名前および実行可能コマンド付きのアイコンから構成されるものです。ファイル・マネージャでは特定のファイルに対して実行できる動作を，ファイル・マネージャおよびフロントパネルからアクションを使用して実行できるように，アイコンで表現することができます。アクションは，アクション定義ファイルの検索パス DTDATABASESEARCHPATH で指定される任意のディレクトリに置かれる，アクション・定義ファイル (ファイル型.DT および.FP) で定義されます。アクションについての詳細は，第 4.1 節を参照してください。

3.4.2.1 データ型の指定

ファイル・マネージャで表示されるファイルにはすべて，対応するアクションを 1 つ以上持っています。どのアクションがどのファイルに適用されるかは，データ型によって決定されます。最も一般的なデータ型の指定は，ファイル名のパターンです。たとえば，拡張子.COM が付くファイルのデータ型は COM_FILE で，**開く** (編集) と**実行**というアクションを持っています。実行がコマンド・プロシージャのデフォルトのアクションであり，拡張子.COM が付いているファイルのアイコンをダブル・クリックすると，そのファイルが実行されます。アクション・データベースは[アクション作成]を使用するか，アクション・データベースを定義する.DT ファイルを編集することによってカスタマイズすることができます。

3.4.2.2 アクション (stub)・ファイル

アクション・ファイルは，アクションと同名の空のファイルです。アクション・ファイルは，実行アクセス権が有効になっていることが必要です。

ファイル・マネージャではアクション・ファイルを使用して，アクションを表すアイコンへの参照を行います。アクション作成アプリケーションでは，[ファイル]のプルダウン・メニューで[保管]オプションを選択した場合，ユーザの SYS$LOGIN ディレクトリに自動的にアクション・ファイルを作成します。アクション・ファイルはアプリケーション・グループに移動したり，デスクトップ・ウィンドウに置くことができます。

注意

アクション名は大文字と小文字が区別されます。アクション・ファイル名と一致させ，ファイル・マネージャおよびアプリケーション・マネージャの両方で使用できるよう，必ず小文字を使用してください。

3.4.3 セキュリティの設定値

DECwindows デスクトップでは，セッション・マネージャの[オプション]のプルダウン・メニューから[セキュリティ]にアクセスすることができます。一度セキュリティ・アクセスを指定すると，変更内容が DECW$USER_DEFAULTS:DECW$SMB_SECURITY.DAT ファイルに保存され，リソース sm.host_list: によって参照されます。

最初に New Desktop にログインした場合は，セッション・マネージャ (dtsession) が既存の DECW$USER_DEFAULTS:DECW$SMB_SECURITY.DAT ファイルを読み込んで，そのリソース (sm.host_list:) を New Desktop の適切なリソース (*hostList:) に移動します。リソースは，ホーム・セッションを保存した場合，あるいはセッションを終了した場合に DT.RESOURCES ファイルに保管されます。

また，スタイル・マネージャが提供するグラフィカル・ユーザ・インタフェースを使用しても，セッションへのセキュリティ・アクセス権を変更することができます。スタイル・マネージャのメニューバーで[Security]を選択し，アクセス権を持つユーザの追加あるいは削除を行うことができます。

3.4.4 キーボードの設定値

DECwindows デスクトップ環境に DECW$USER_DEFAULTS:DECW$SMB_KEYBOARD.DAT ファイルがある場合は，最初にログインしたときにキーボード言語リソース値 (keyboard_dialect) が New Desktop セッションに移されます。新しいリソース名は*keyboardDialect です。

キーボード言語と入力方法はスタイル・マネージャで変更することができます。[キーボード]アイコンを選択すると，利用可能なすべてのキーボード・マップを含むリストボックスが表示されます。キーボード・マップを選択すると，直ちに有効となります。ホーム・セッションを保存した場合，あるいはセッションを終了した場合に，リソースが DT.RESOURCES ファイルに保存されます。

3.4.5 印刷の管理

印刷ダイアログを使用すると， New Desktop で DECwindows のカスタマイズ用の印刷ウィジェットにアクセスして，印刷ジョブを渡すことができます。ユーザが[了解]をクリックすると印刷ダイアログは，デフォルトで*disk*$:[*user*.DT.TMP]DTPRINTINFO ファイルにアプリケーションの状態を保存します。*disk*$:[*user*.DT.TMP]ディレクトリが存在しない場合，またはユーザが印刷ジョブを渡す前に[了解]をクリックしない場合は，印刷ダイアログで選択した設定値は現在の印刷ジョブには使用されません。

印刷ダイアログが表示されない場合，または印刷ジョブが渡されない場合は，[*username*.DT.TMP]の最新バージョンのアプリケーション状態ファイルを削除して，コマンドを再実行してください。

3.4.5.1 プリンタの追加と[個人プリンタ]サブパネル

プリンタはデスクトップではアイコンで表示されています。デフォルトのプリンタを変更することができ，また，アクション定義ファイル，アクション (stub)・ファイル，各追加プリンタのアイコンがある場合は，[個人プリンタ]サブパネルに[プリンタ]アイコンを追加することもできます。この 3 つのファイルを作成する最も簡単な方法は，[アクション作成]アプリケーションを使用することです (第 4.1.4 項を参照)。

次のファイルに， New Desktop のプリンタ用アクション定義ファイルのテンプレートが入っています。

```
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APPCONFIG.TYPES.JA_JP_*]PRINTER.DT_TEMPLATE
```

プリンタ用アクションの定義方法については，このファイルをお読みください。

次の手順に従って，[個人プリンタ]サブパネルに[プリンタ]アイコンを追加することができます。

1. ファイル・マネージャで[プリンタ]アイコンを表示します。
2. [個人プリンタ]サブパネルを表示します。
3. ファイル・マネージャから[プリンタ]アイコンをドラッグして，[個人プリンタ]サブパネルの[アイコンのインストール]にドロップします。

3.4.5.2 プリンタ・サブパネルのコントロール定義ファイルの作成

[個人プリンタ]サブパネルの一番上の[アイコンのインストール]に[プリンタ]アイコンをドロップすると，プリンタ・サブパネルのコントロール定義ファイルがサブパネルの一番下に自動的に作成されます。

プリンタ・サブパネルのコントロール定義ファイルのテンプレートは，次のファイルに入っています。

```
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APPCONFIG.TYPES.JA_JP_*]PRINTER.FP_TEMPLATE
```

プリンタ・サブパネルのコントロール定義ファイルの作成方法については，このファイルをお読みください。

3.4.5.3 デフォルトのシステム・プリンタの変更

デフォルトのシステム・プリンタを変更するには，次の行を SYS$MANAGER:SYSTARTUP_VMS.COM ファイルに追加します。

```
$ DEFINE/SYSTEM/EXECUTIVE_MODE SYS$PRINT プリンタ名
```

3.4.5.4 デフォルトの個人プリンタの変更

このデフォルトのプリンタは，フロント・パネルの[プリンタ]アイコンに設定されているプリンタです。このプリンタはデフォルトで， SYS$PRINT 論理名の値によって定義されています。

デフォルトの個人プリンタを変更するには， LOGIN.COM ファイルに次の行を追加してください。

```
$ DEFINE SYS$PRINT printer-name
```

あるいは，次のように[印刷ダイアログ]の[プリンタ]のリストから別のプリンタを選択することによっても変更することができます。

1. フロントパネルの[プリンタ]アイコンをクリックして，[印刷ダイアログ]ボックスを表示します。
2. プリンタのリストから新しいデフォルトのプリンタを選択して，クリックします。
3. [了解]をクリックします。

なお，印刷ダイアログのデフォルトのプリンタを変更しても，ファイル・マネージャの[選択済み]ポップアップ・メニューの[印刷]オプションで設定されているデフォルトのプリンタは変更されません。ファイル・マネージャが使用するデフォルトのプリンタは，次の手順で変更することができます。

1. 印刷したいファイルのアイコンをクリックします。
2. ファイル・マネージャのメニュー・バーの[選択済み]をクリックして，[選択済み]メニューを表示します。
3. [印刷...]をクリックして[印刷ダイアログ]ボックスを表示します。

4. プリンタのリストから，ファイル・マネージャ用の新しいデフォルトのプリンタを選択してクリックします。
5. [了解]をクリックします。

[印刷ダイアログ]で設定したデフォルトのプリンタとその他のオプションは，次に変更するまで有効です。

3.4.5.5 印刷ダイアログのコマンド行オプション

印刷ダイアログでは，表 3–4 のようなコマンド行オプションを受け付けます。これらのオプションを印刷コマンドに指定して，アクション作成アプリケーションの[データ型の追加]ダイアログ・ボックスに入力することができます。また，ファイルのアイコンにアクセスできない場合に，このオプションを New Desktop 環境で指定したオプションとともに使用して，漢字端末エミュレータからファイルを印刷することができます。漢字端末エミュレータから印刷ダイアログを使用して，データ型の印刷アクションのデバッグを行うこともできます。

表 3–4 印刷ダイアログのコマンド行オプション

オプション	説明
-session *sessionfile*	セッション・ファイルをロードし，クライアントをデスクトップの元の状態に復元します。セッション・ファイル名はデフォルトで，ログアウト時にデスクトップが決定します。
-state *statefile*	状態ファイルをロードし，クライアントをデスクトップのアプリケーションの元の状態に復元します。状態ファイル名はデフォルトで*disk*$:[*user*.DT.TMP]DTPRINTINFO です。
-interface	印刷ダイアログのインタフェースを表示します。この値はデフォルトで FALSE です。
-unmanage	ユーザが[了解]ボタンを押したときに印刷ダイアログ・インタフェースの管理を終了します。この値はデフォルトで TRUE です。
-printer *print-queue*	印刷ジョブ要求を受け付けるプリンタ名を指定します。アプリケーション状態ファイルに保管されているプリンタ名が，このオプションよりも優先されます。この値はデフォルトで，デフォルト・プリンタの値に設定されます。

(次ページに続く)

表 3–4 (続き) 印刷ダイアログのコマンド行オプション

オプション	説明
-default *print-queue*	印刷ジョブ要求を受け付けるデフォルト・プリンタ名を指定します。アプリケーション状態ファイルに保管されているプリンタ名が，このオプションよりも優先されます。この値はデフォルトで，システムの論理名 SYS$PRINT の値，または -printer オプションで指定されるプリンタ名に設定されます。
filename	印刷するファイルのパス名です。この引数を -interface オプションとともに使用すると，ユーザが[了解]をクリックしたときにファイルが印刷されます。
-usage	コマンド行のオプションを表示します。

3.4.5.6 印刷ダイアログのコマンド行による起動

漢字端末エミュレータのウィンドウから印刷ダイアログを実行するには，次のシンボルを定義します。

```
$ PRINTDIALOG :== $CDE$PATH:PRINTDIALOG
```

印刷ダイアログを表示するには次のコマンドを入力します。

```
$ PRINTDIALOG -interface
```

ファイルを印刷するには次のコマンドを入力します。

```
$ PRINTDIALOG filename
```

3.4.6 デフォルトのエディタの変更

New Desktop のデフォルトのエディタは CDE テキスト・エディタです。別のエディタに変更したい場合は次の手順に従ってください。

1. CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APPCONFIG.TYPES.JA_JP_*]USER-PREFS.DT ファイルを，ユーザの*disk*$:[*user*.DT.TYPES]サブディレクトリにコピーします。
2. コピーしたファイルの "ACTION TextEditor"の指定を変更します。

日本語 EVE エディタを使用する場合は， MAP_ACTION を dtpad から dxeve に変更します。漢字端末エミュレータのウィンドウで TPU エディタを実行する場合は， MAP_ACTION を dtpad から tpuedit に変更します。

dxeve および tpuedit はともに，あらかじめ設定されているアクションです。これらのアクションは，カスタマイズした TPU セクション・ファイルあるいはコマンド・ファイルでの編集に習熟したユーザには，不十分である場合があります。カスタマイズしたセクション・ファイルやコマンド・ファイルで編集する場合は，アクション定義ファイル (第 4.1 節を参照) に edit コマンドを特に指定して，新規アクション名に TextEditor アクションをマップする必要があります。

3.4.7 ウィンドウの色と画面背景

DECwindows デスクトップのリソース・ファイル (DECW$SMB_WINDOW_COLOR.DAT, DECW$SMB_BACKGROUND_COLOR.DAT) に入っている，ウィンドウの色と画面背景の設定は， New Desktop のリソース・ファイルには読み込まれません。

New Desktop では，ウィンドウの色と画面背景のカスタマイズは，スタイル・マネージャの[カラー]ダイアログ・ボックスを使用して行います。各ワークスペースについて異なる背景を指定することができますので，各ワークスペースの識別に便利です。また，[カラー]ダイアログ・ボックスは第 3.6 節の説明のように，カラー・ディスプレイのトラブルの解決にも利用することができます。

3.4.8 ウィンドウ・マネージャのカスタマイズ設定

DECwindows デスクトップでは，ウィンドウ・マネージャの構成のカスタマイズ設定は， DECW$MWM.DAT と DECW$MWM_RC.DAT の 2 つのファイルに指定されています。 New Desktop のウィンドウ・マネージャでは，それぞれ DTWM.DAT と SYS.DTWMRC の 2 つの同様のファイルに指定されています。

3.4.8.1 ウィンドウ・マネージャのリソース・ファイル (DTWM.DAT)

ウィンドウ・マネージャのデフォルトのリソース・ファイル DTWM.DAT は，CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APP-DEFAULTS.JA_JP_*]ディレクトリに置かれています。このファイルに保管されているデータは，ポインタのフォーカス，アイコン・ボックス，アイコン・ボックスの配置，アイコンの色，フロントパネルの使用，ウィンドウの境界の影付け，ウィンドウ・メニューの外観，ワークスペースの背景の指定などウィンドウ・マネージャの各種の外観に影響します。次の例は DTWM.DAT ファイルの一部です。

```
Dtwm*Dtstyle*iconImage:      Fpstyle
Dtwm*Dthelpview*iconImage:   Fphelp
Dtwm*backdrop*image: SkyLight
Dtwm*ws0*backdrop*image: SkyLight
Dtwm*ws1*backdrop*image: WaterDrops
Dtwm*iconBoxGeometry:                        1x4+16+20
Dtwm*iconBoxSBDisplayPolicy:                 horizontal
```

DECwindows のウィンドウ・マネージャのリソース・ファイル (DECW$MWM.DAT) に定義されているリソースの大部分は，該当するリソースを DTWM.DAT に追加して，アプリケーションのクラス名を Mwm から Dtwm に変更することによって， New Desktop のウィンドウ・マネージャでも利用することができます。なお， DECwindows ウィンドウ・マネージャのリソース・ファイル (DECW$MWM.DAT) に対して行ったカスタマイズは， New Desktop のウィンドウ・マネージャのリソース・ファイル (DTWM.DAT) に自動的に継承することはできません。ユーザあるいはシステム管理者が DTWM.DAT を編集する必要があります。

すべてのアプリケーションのリソース・ファイルと同様，ユーザ専用にカスタマイズした上記のリソース・ファイルは， DECW$USER_DEFAULTS ディレクトリ (通常はユーザのホーム・ディレクトリ) に置かれていることが必要です。ウィンドウ・マネージャのリソース・ファイルに行った変更を有効にするには，ウィンドウ・マネージャを再起動する必要があります。

ウィンドウ・マネージャのリソースについての詳細は， Dtwm マニュアル・ページを参照してください。

3.4.8.2 ウィンドウ・マネージャのリソース構成ファイル (SYS.DTWMRC)

New Desktop のウィンドウ・マネージャのリソース構成ファイル SYS.DTWMRC は， CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.JA_JP_*]ディレクトリに置かれています。これは， New Desktop のウィンドウ・マネージャの動作の大部分を制御する，ウィンドウ・マネージャのリソース・ファイル (DTWM.DAT) とともに使用される，補足的なリソース・ファイルです。

DECwindows デスクトップでは，ウィンドウ・マネージャの補足的な構成は，DECW$MWM_RC.DAT ファイルに設定されます。このリソース・ファイルに保管されているデータは，ウィンドウ・マネージャのルート・ウィンドウ・メニュー，カスタマイズしたキー・バインドの記述，マウスのボタンのバインドの記述その他の属性に影響します。 DECW$MWM_RC.DAT に対して行ったカスタマイズ設定は， New Desktop に自動的に継承することはできません。次の手順で，DECW$MWM_RC.DAT ファイルに対して以前行ったカスタマイズ設定を New Desktop の SYS.DTWMRC ファイルに組み込むことができます。

1. CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.JA_JP_*]SYS.DTWMRC を *disk*$:[*user*.DT]DTWMRC.DAT にコピーします。
2. ファイルを編集します。以前 DECW$MWM_RC.DAT に対して行った変更点その他を組み込むことができます。
3. ウィンドウ・マネージャを再起動して変更を有効にします。

DTWMRC.DAT には，一連の新しいワークスペース・マネージャ機能 (たとえば f.create_workspace) など複数のワークスペース環境をサポートする拡張機能が提供されています。 DTWMRC.DAT のカスタマイズについて，またこの拡張機能についての詳細は， DTWMRC マニュアル・ページを参照してください。

3.4.9 アプリケーションの自動起動

DECwindows デスクトップのセッション・マネージャに，ログイン時にどのアプリケーションを起動するかを指定するための[自動起動...]オプションがあります。その他のカスタマイズ設定は， SYS$LOGIN:DECW$LOGIN.COM ファイルに追加挿入することができます。

New Desktop では，セッションへのログイン時に異なった方法でアプリケーションを起動する手法を提供しています。[このセッションを再開]と[ホームセッションを開始]という 2 つのオプションがあり，ともに起動したいデフォルトの一連のアプリケーションを起動し，続いてそのセッションの状態を保存します。

第 2.1.11 項の説明のように，スタイル・マネージャの[起動]メニューにこれらの 2 つのオプションがあります。

アプリケーションの側で， New Desktop にそのアプリケーションの再起動の方法を通知する必要があります。 New Desktop の CDE アプリケーションの場合は，表示するウィンドウ，ウィンドウを表示する位置，現在の値などの詳細な情報を通知します。 DECwindows アプリケーションの場合は，一般的にアプリケーションの再起動に十分な情報を通知するだけで，状態に関する情報は保管されません。

たとえば， DECwindows Notes などのオプションの DECwindows アプリケーションの場合，まったく情報を通知しないため，再起動されません。自動的に再起動することができないアプリケーションについては，*disk*$:[*user*.DT]SESSIONETC.COM というコマンド・プロシージャを使用して起動することができます。このプロシージャは，従来の DECwindows 環境の DECW$LOGIN.COM プロシージャに類似したものです。

3.5 New Desktop のエラー・ログの使用

New Desktop にはデフォルトで，セッション起動用とセッション用の 2 つのログ・ファイルが提供されています。また，シンボルを定義する場合に使用するログイン・プロセス用のログ・ファイルも提供されています。次に，各ログ・ファイルについて説明します。

- ログイン用ログ・ファイル

  ログイン・プロセス用のログ・ファイルを作成するには， SYS$MANAGER: DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM ファイルに，作成したいログ・ファイル名を指定する DECW$LOGINLOG シンボルを定義します (これは，従来の DECwindows デスクトップのログイン・プロセス用のログ・ファイルの作成方法と同様です)。たとえば，次のように定義すると，

SYS$MANAGER:LOGIN.LOG ファイルにログイン用ログ・ファイル・メッセージが書き込まれます。

```
$ DECW$LOGINLOG == "SYS$MANAGER:LOGIN.LOG"
```

- セッション起動用ログ・ファイル

  ログイン後セッション・マネージャ起動前に，ログ・ファイル SYS$LOGIN:DECW$SM.LOG を使用して，セッション起動に関する情報が表示されます。既存のセッションに関する追加情報がこのファイルに追加されます。このファイルは，従来の DECwindows 環境の同名のファイルに類似したものです。

  このログ・ファイルが不要な場合は, SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM ファイルの DECW$SESSIONLOG シンボルを，次の例のように "FALSE"に定義します。

```
$ DECW$SESSIONLOG == "FALSE"
```

- セッション用エラー・ログ

  セッション・マネージャが起動すると，エラーはすべてセッション用のエラー・ログ・ファイル*disk*$:[*user*.DT]ERRORLOG に書き込まれます。このセッションで実行中の New Desktop アプリケーションはすべて，各ステータスとエラーに関する情報を，記入日時とともにこのファイルに書き込みます。また，アプリケーションの出力 (SYS$OUTPUT) に送信されるデータは，次の場合を除きエラーログ・ファイルに取り込まれます。

  – アプリケーションが，出力表示用にそのアプリケーションの漢字端末エミュレータを使用する場合。
  – 出力が SYS$OUTPUT 以外のファイルに送信される場合。
  – そのアプリケーションを実行中のユーザのアカウントが， New Desktop にログインしたユーザのアカウントと異なる場合。
  – New Desktop のセッション・マネージャが実行中のシステムとは異なるシステム上でアプリケーションを実行中の場合。

ログインするたびに，新規の ERRORLOG. ファイルが作成されます。前のバージョンのファイル名は ERRORLOG.OLD に変更され，さらに前のバージョンのファイル名は ERRORLOG.OLDER に変更されます。各ファイルのバージョンは 1 つだけで，最新の 3 バージョンのファイルだけが保管され，それ以前のエラーログ・ファイルは自動的に削除されます。

[デスクトップツール]アプリケーション・グループの[エラーの監視]アクションにより， ERRORLOG. ファイルを簡単に表示することができます。

3.6 New Desktop 環境における色の使用

New Desktop では，色の割り当ては集中管理されています。カラー・マップ・エントリ一式が，セッション起動時にあらかじめ割り当てられます。ウィジェットのカラー・リソースのデフォルト値が，これらのカラー・マップ・エントリにマップされます。ウィジェットのカラー・リソースが特に指定されていないアプリケーションはすべて，共用カラー・マップ・エントリを使用します。この方法により，共用カラー・マップ・エントリのピクセル値を変更することによって，全アプリケーションの色を動的に変更することができます。

New Desktop では，セッション・マネージャはデスクトップ用カラー・サーバとして機能します。セッション・マネージャは， X サーバのカラー・マップを一連の色セットに分割してその保管および制御を行います。色セットは，表 3–5 に示すように各リソースの色から構成されます。

表 3–5 色セットのリソース

リソース名	説明
Background	アプリケーションの背景色
Foreground	アプリケーションの前景色
topShadowColor	アプリケーションのコントロール (ボタン) とウィンドウ枠の左と上の境界線の色

(次ページに続く)

表 3–5 (続き) 色セットのリソース

リソース名	説明
bottomShadowColor	アプリケーションのコントロールとウィンドウ枠の右と下の境界線の色
selectColor	アプリケーションのコントロールが選択されたときの強調表示に使用する色

スタイル・マネージャは最大 8 色の色セットを組み合わせて，カラー・パレットを作成します。これらの色セットが適用されるウィジェットは，色セット ID リソースにより決まります。色セットは全ウィジェット，ダイアログ・ボックス，これらのリソースをベースにしたテキスト・ウィジェットのいずれかに適用することができます。

各色セットの色は，選択された背景色をベースとして決定されます。各色セットの背景色は，スタイル・マネージャの[カラー]ダイアログの色ボタンで表示されます。[色の数]に設定されている値によって， 2 〜 8 個のボタンが表示されます。[色の数]オプションは，図 3–2 に示すスタイル・マネージャの[カラー]メニューにあります。

デスクトップの色は，カラー・パレットの一覧から選択し，ボタンに表示されている色セットを[変更...]ダイアログで変更することによって設定することができます。

色ボタンを選択して，[変更]ダイアログでスライダを動かすと，そのアプリケーションがダイナミック・カラーをサポートしている場合は，その色で表示されているアプリケーションの色が変化します。スライダを動かしても色が変化しない場合は，アプリケーションの色は New Desktop が制御しているのではなく，アプリケーションが制御していると考えてよいでしょう。この場合は，アプリケーションの色リソースを変更すれば変更することができます。

図 3–2 スタイル・マネージャの「カラー」メニュー

3.6.1 使用できる色の数の変更

アプリケーションで必要な色の数と New Desktop で必要な色の数の合計数 (両方とも同じ色であってもその合計数) を，表示できる最大色数以上に設定することもできます。アプリケーションが必要な色全色を設定できない場合は，次のような現象が発生します。

- 「カラー・マップ・エントリを割り当てられません...」などのエラーが発生します。
- エラーは発生しないが，設定と異なる色が表示されたり，デスクトップ起動時にデスクトップの色が変化します。

これらの現象が発生する場合は，図 3–3 の[使用する色の数]ダイアログを使用して，アプリケーションにできる限り多くの色数を設定してください。デスクトップが使用する色の数は，[使用する色の数]ダイアログの設定により異なります。デスクトップに使用する色の数が少ないほど，アプリケーションで使用できる色の数

が多くなります。[使用する色の数]オプションについては，表 3–6 で説明しています。

図 3–3 [**使用する色の数**]**メニュー**

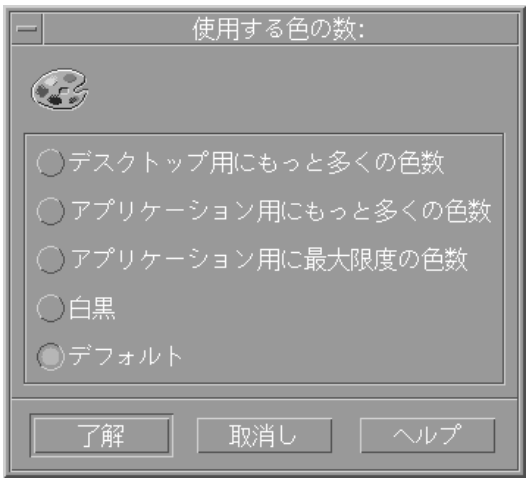


表 3–6 [**使用する色の数**]**のオプション**

オプション	**説明**
デスクトップ用にもっと多くの色数	デスクトップに最多色表示を指定します。カラー・パレットには 8 色の色セットが使用され，白黒を含む最大 42 色を指定することができます。
アプリケーション用にもっと多くの色数	デスクトップに中程度の色数を指定します。カラー・パレットには 4 色の色セットが使用され，白黒を含む最大 22 色を使用することができます。
アプリケーション用に最大限度の色数	デスクトップに使用する色数を少なくするよう指定します。カラー・パレットには 2 色の色セットが使用され，白黒を含む最大 12 色を使用することができます。

(**次ページに続く**)

表 3–6 (続き) [使用する色の数]のオプション

オプション	説明
白黒	白黒表示を指定します。カラー・パレットには 2 色だけが使用され，この非動的な色構成では，使用できるパレットは BlackWhite と WhiteBlack だけです。
デフォルト	ディスプレイの色の数に基づいた色構成をカラー・サーバが選択できるようにします。デフォルトは通常，[アプリケーション用にもっと多くの色数]です。

注意

カラー・カスタマイザのサンプル・プログラムでは，類似した手法で動的なカラー環境を提供しています。カラー・カスタマイザは，管理するカラー・リソース用の追加色セットを割り当てますが，これによりアプリケーションで使用できる色の数がさらに制限されるため，New Desktop の動的なカラー環境に不要な相互作用が発生する原因となることがあります。

New Desktop のカラー・マップの管理方法についての詳細は，[マニュアル・ページ・ビューア]を使用して dtsession マニュアル・ページを参照してください。

3.6.2 色の重複の回避

全アプリケーションがデフォルトの色を使用することによって，全アプリケーションについてデスクトップが一貫した色を管理できるようにすることが最善の方法です。ただし，常にこの方法が可能であるとはかぎりません。アプリケーションが，新バージョンの Motif ライブラリで動作する OSF/Motif アプリケーションではない場合は，新しいダイナミック・カラーモデルを利用することはできません。また，カラー・リソースを明示的に定義してある場合は，共有ダイナミック色は使用されません。これらのアプリケーションは共存できるはずですが，アプリケーションにあらかじめ定義された色と重複するパレットが選択された場合には，望ましくない影響を与える可能性があります。

アプリケーションが，そのアプリケーション用に割り当てられていないカラー・マップ・エントリを変更することによって，正常に動作しなくなることがあります。変更したものがデスクトップのダイナミック色のエントリであれば，これは全アプ

リケーションに影響を与えるため，スタイル・マネージャの現在のパレットを選択して，適切な色に設定し直す必要があります。

色が重複するとテキストが読みづらくなったり，見えなくなったりすることがあります。また，アプリケーションのインタフェースから，ボタンが消えてしまったように見えることもあります。これは前景色と背景色が共に白の場合など，アプリケーションのボタンの前景色が，背景色と類似した色に設定されてしまったことが原因です。

セッション・マネージャでは，デスクトップの前景色と背景色に影響を与えるいくつかのリソースがあります。また，多くのアプリケーションには，前景色と背景色を設定するためのリソースがあります。ただし，以上の問題を解決する最も簡単な方法は，スタイル・マネージャで別のパレットを選択すること ([変更...]ダイアログ・ボックスを使用して現在のパレットを変更すること) です。

セッション・マネージャのリソースを変更する場合は，次の例のようにアプリケーションのデフォルト設定ファイルを DECW$USER_DEFAULTS にコピーします。

```
$ COPY CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APP-DEFAULTS.JA_JP_*]DTSESSION.DAT -
_$ DECW$USER_DEFAULTS:DTSESSION.DAT
```

このファイルのリソース文字列を変更するか新たに追加した後， New Desktop を終了してから再度ログインしてセッション・マネージャを再起動します。セッション・マネージャはデフォルトで，ユーザがログインするたびに前景リソースと背景リソースをロードします。これは次のデフォルト・リソースにより実行されます。

```
dtsession*writeXrdbColors: true
```

前景色と背景色は，ユーザが選択したパレットの色から動的に決定されます。これは，セッション・マネージャの次の 2 つのデフォルト・リソースにより実行されます。

```
dtsession*dynamicColor: true
dtsession*foregroundColor: "DYNAMIC"
```

*dynamicColor リソースは，パレットを変更すると色も動的に変化するかどうかを制御します。*foregroundColor リソースは，*foreground リソースが“BLACK”または“WHITE”に明示的に指定されているのか，あるいは現在パレットに基づいて算出されるのかを制御します。“DYNAMIC”に指定すると，次のリソースがしきい値を制御するようになり，このしきい値以上の値で*foreground リソースが白に設定されます。

```
*foregroundThreshold: 70
```

これは，次のファイルに指定されています。

```
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APP-DEFAULTS.JA_JP_*]DT.DAT
```

注意

***foregroundThreshold リソースのデフォルト値を変更して，特定のパレットの前景色を設定した場合，他のパレットの前景色が正常に表示されないことがあります。デフォルト値 70 は，デフォルトのパレットのインストール済みの色セットと正しく動作するため指定されています。**

アプリケーションのリソース・ファイルに前景リソース指定を追加することによって，アプリケーションの前景色を黒あるいは白とは別の色に変更することができます。デフォルトの前景色指定はもっとも一般的な形式に定義されているため，アプリケーション専用の前景リソースを別の色に指定すると無効になります。

```
DECW$TERMINAL.main.terminal.foreground: goldenrod
```

たとえば，上記のように指定した場合，次のものが無効になります。

```
*foreground: #FFFFFFFFFFFF (白)
```

この例では goldenrod という色が，変更後作成されるすべての漢字端末エミュレータの前景に適用されます。その他のすべてのアプリケーションの前景色は，白のままとなります。

3.7 New Desktop のフォントの使用

New Desktop のアプリケーションが使用するフォントは，一般的なフォント名で参照されます。これらのフォント名は，実際のフォント名ではなくフォントの別名です。これらの別名は，フォント別名ファイルによって実際のフォント名にマップされます。 New Desktop のログイン・プロセスが起動すると，現在選択されている言語とディスプレイの解像度に基づいて，該当するフォント別名ファイルを選択します。 New Desktop は接続されている X サーバに，フォント・パスをリセットして新しいフォント・ディレクトリを組み込むよう指示します。これはログイン・プロセスが， X サーバと同じシステム上で実行中の場合にのみ可能です。ログイン・プロセスが，ディスプレイのノード名と現在のトランスポート型を調べて， X サーバと同じシステムであるかどうかを判断します。

注意

フォント別名ディレクトリは，トランスポートが LOCAL に設定 (デフォルト設定) されているか，ディスプレイのノード名が 0 に設定されている場合にのみ，フォント・パスに追加されます。

遠隔ディスプレイでは， New Desktop のフォントは New Desktop のフォント別名が遠隔ディスプレイ用に定義されている場合にのみ使用されます。

3.7.1 アプリケーションのフォントのサイズの変更

スタイル・マネージャの[フォント]オプションで，全 CDE アプリケーションで使用するフォントのサイズを選択することができます。選択値は，変更後起動する各アプリケーションに影響しますが，すでに実行中の CDE アプリケーションには影響しません。また既存の DECwindows アプリケーションにも影響しません。

3.8 X 端末その他の遠隔ディスプレイの使用

New Desktop を X 端末などの遠隔ディスプレイとともに使用する場合，ウィンドウ・マネージャやフォント別名など，一部の構成要素に特別に注意する必要があります。

3.8.1 New Desktop のウィンドウ・マネージャの選択

ほとんどの X 端末には， X 端末自体で実行するローカルなウィンドウ・マネージャなど，いくつかのローカル機能を提供しています。 New Desktop のワークスペース (ウィンドウ)・マネージャは， New Desktop の中心部分をなすもので， New Desktop を正しく動作させるために必ず使用しなければなりません。ほとんどのローカルの X 端末用ウィンドウ・マネージャは，起動時に遠隔ウィンドウ・マネージャに従属することができますが，この機能は標準オプションではない場合があります。

たとえば，弊社の VXT 2000 X Terminal には[遠隔ウィンドウ・マネージャ使用可]オプションがありますが，これは標準ではありません。 New Desktop のウィンドウ・マネージャを使用するには，[ターミナル・マネージャ...]ダイアログ・ボックスの[カスタマイズ]オプションにある[遠隔ウィンドウ・マネージャ使用可]オプションをオンにする必要があります。他の X 端末のこれに相当するオプションについては，ご使用の X 端末のマニュアルを参照してください。

3.8.2 フォント別名ファイルへのアクセス

X 端末あるいは X サーバがローカル・システムで実行されていない環境では，フォント・パスは New Desktop のフォント別名ディレクトリをログイン・プロセス中に組み込むように変更されません。この結果， X サーバは New Desktop のアプリケーションで使用するフォント名を認識しません。ほとんどのアプリケーションは同一の代替フォントを使用し，スタイル・マネージャの[フォント]オプションを使用してサイズを変更することは**できません**。アプリケーションは正しく実行されますが，多くのアプリケーションのフォントのサイズとスタイルは， New Desktop アプリケーションのものとは異なります。

この問題を避けるためには， X サーバが利用できる New Desktop のフォント別名ファイルを作成する必要があります。その 1 つの方法は， UNIX システム上で稼動中のフォント・サーバを使用することです。その UNIX システムが CDE (共通デスクトップ環境) をサポートしている場合には，正しいフォント別名ファイルを設定する必要があります。サポートしていない場合は，フォント別名ファイルを OpenVMS Alpha システムから UNIX システムにコピーすることができます。デフォルトの C ロケールのフォント別名ファイルは，次のとおりです。

```
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.XFONTS.C.100DPI]DECW$FONT_ALIAS.DAT
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.XFONTS.C.75DPI]DECW$FONT_ALIAS.DAT
```

以上の各ファイルを UNIX システムの該当するフォント別名ディレクトリにコピーして，ファイル名を fonts.alias に変更してください。フォント・パスの変更方法についての詳細は， UNIX の X サーバとフォント・サーバ関連のドキュメントを参照してください。フォント・サーバが New Desktop のフォント別名ファイルを認識するようになったら， X 端末から遠隔システムのデフォルトのフォント・パスに，そのフォント・サーバを追加してください。

その他の言語では，次のファイルがフォント別名ファイルです。

```
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.XFONTS.language.100DPI]DECW$FONT_ALIAS.DAT
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.XFONTS.language.75DPI]DECW$FONT_ALIAS.DAT
```

C 以外の言語では，その言語のフォント別名の次に必ず， C ロケールのフォント別名を入れてください。

注意

本書の作成時点では， OpenVMS **フォント・サーバは用意されていませんが，** OpenVMS Alpha **用のフォント・サーバが他ベンダから提供されています。**

フォント・サーバにアクセスできない場合は，フォント別名ファイルを X 端末あるいは遠隔 X サーバのフォント・パスに直接含めることができます。これは，遠隔システムの X サーバがアクセスできるディレクトリに，必要なフォント別名ファイルをコピーすることで可能となります。遠隔 X サーバが OpenVMS Alpha システム上で稼動中の場合は，フォント別名ファイルが置かれる正しいディレクトリは次の各ディレクトリです。

```
SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_100DPI]
SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_75DPI]
SYS$COMMON:[SYSFONT.DECW.USER_COMMON]
```

フォント別名ファイルのコピー後は，フォント・パスをリセットする必要があります。これは，セッションをログアウトしてから再度ログインすることで可能です。

注意

弊社の X 端末は，OpenVMS の LAT フォント・デーモンを使用してフォント別名ファイルを読み込むことはできません。OpenVMS Alpha システムでは，NFS あるいは TFTP を使用してフォント別名ファイルにアクセスする必要があります。

3.8.3 言語の切り替え

遠隔ディスプレイでは，フォント・パスはログイン時に選択されたロケール用のフォント別名ファイルを動的に組み込むようには変更されません。言語を切り替えるたびに，X 端末や遠隔ディスプレイのフォント・パスを編集する必要があります。

3.9 複数画面の使用

New Desktop では，1 台の X ディスプレイに複数画面を使用することができます。この構成は，デュアルヘッド・ディスプレイとも呼ばれます。複数画面の作成と管理方法についての詳細は，付録 B を参照してください。

3.10 New Desktop で作成されるプロセスの管理

New Desktop は数多くのアプリケーションで構成されており，これらのアプリケーションのほとんどは，特に指定しなくても独立プロセスとして起動します。プロセスの論理名やグローバル・シンボルなどのほとんどのプロセスの状態データは，独立プロセスには渡されません。通常，DECW$DISPLAY および LANG の各論理名だけが渡されます。その他のプロセスの論理名は特別にシンボルを付けて渡すことができ，あるいは独立プロセスの代わりにサブプロセスを指定することもできます。

3.10.1 プロセスの論理名の独立プロセスへの引き渡し

独立プロセスに他のプロセスの論理名を渡す必要がある場合は， New Desktop の特殊なメカニズムを利用することができます。このメカニズムは，個人アプリケーションのセットアップ・ファイル SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM に定義する CDE$DETACHED_LOGICALS シンボルを使用して動作します。たとえば，次の定義により論理名 MYLOGICAL が作成されたすべての独立プロセスに渡されます。

```
$ CDE$DETACHED_LOGICALS == "MYLOGICAL"
```

3.10.2 サブプロセスの作成の指定

SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM ファイルに CDE$SPAWN_PROCESSES シンボルを定義することによって，独立プロセスではなく全プロセスをサブプロセスとして作成することができます。次の定義により，全プロセスはサブプロセスとして作成されます。

```
$ CDE$SPAWN_PROCESSES == "TRUE"
```

特定のプロセスのクォータは，そのプロセスおよびそのサブプロセスで共有されます。サブプロセスの作成を指定した場合は， Authorize ユーティリティを使用してプロセス・クォータの一部の増加が必要となる場合があります。特に， PRCLM, PGFLQUOTA, BYTLM の増加が必要となる場合があります。

3.10.3 プロセスのデバッグ

デバッグ処理で， New Desktop の各プロセスが起動している実際の DCL コマンドを表示したい場合があります。次のシンボルを定義することによって，ユーザのエラー・ログ・ファイルにこの情報を記録することができます。

```
$ CDE$LOG_PROCESSES = "TRUE"
```

デフォルト設定では，この情報はユーザのエラーログ・ファイルに記録されません。なお，たとえば 1 つの背景に対して短時間で複数のスクリーン・セーバを選択した場合など，対話型でプロセスを作成している場合，エラーログ・ファイルが著しく大きくなることに注意してください。

3.10.4 プロセスをプロセス名別に識別する

New Desktop および DECwindows デスクトップの両方とも，明確に定義される方法でプロセス名を付けます。 SHOW SYSTEM コマンド， SHOW USERS/FULL コマンドのいずれかを使用して，システムのプロセス一覧を表示することができます。

表 3–7 に， New Desktop で作成される New Desktop 固有のプロセス名を示します。

表 3–7 New Desktop のプロセス名

プロセス名[1]	用途
DTLOGIN	ログイン・マネージャ
DTGREET	ログイン用ユーザ・インタフェース・アプリケーション
DTHELLO_*n*	ログイン時に表示される挨拶画面
DTSESSION	セッション・マネージャ
DTWM	ワークスペース (ウィンドウ)・マネージャ
user$CDE*n*	New Desktop で作成される独立プロセス

[1] プロセス名の n は 1 桁以上の数値を表し，*user* はユーザ名を表します。

表 3–8 に， DECwindows デスクトップで作成され DECwindows 固有のプロセスを示します。

表 3–8　DECwindows デスクトップのプロセス名

プロセス名[1]	用途
DECW$LOGINOUT	ログイン・マネージャ
WAITFORSM_*n*	セッション・マネージャ起動中に X 接続を保持します。
DECW$SESSION	セッション・マネージャ
DECW$MWM	ウィンドウ・マネージャ
VUE$*user_n*	サブプロセス

[1] プロセス名のnは 1 桁以上の数値を表し，*user*はユーザ名を表します。

表 3–9 に，両デスクトップで共用するプロセス名を示します。

表 3–9　両デスクトップの共用プロセス名

プロセス名[1]	用途
DECW$TE_*n*	漢字端末エミュレータのコントローラ
_FTA*n*	漢字端末エミュレータのユーザ・プロセス
_WSA*n*	ログイン前または再起動中のプレースホールダ・プロセス
user_n	サブプロセス

[1] プロセス名のnは 1 桁以上の数値を表し，*user*はユーザ名を表します。

3.11　CDE システム管理関連ドキュメント

CDE(共通デスクトップ環境) のシステム管理についての詳細は，関連するオンライン・ヘルプおよびオンライン版の CDE ドキュメント『共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』を参照してください。このオンライン版ドキュメントにアクセスする方法またはその印刷版ドキュメントを入手する方法については，表 1–2 を参照してください。

4

New Desktop のアプリケーションの統合

本章では次の事項について説明します。

- CDE ドキュメントで定義されている，次の 3 つの統合レベル
  - 最小限の統合 (第 4.1 節)
  - 推奨レベル (第 4.2 節)
  - オプション (第 4.3 節)
- 新規アプリケーション・グループの作成 (第 4.4 節)
- 他社のアプリケーションの登録 (第 4.5 節)
- New Desktop への UNIX のリファレンス・ページ (マニュアル・ページ) の移植 (第 4.6 節)
- アプリケーションの統合関連の CDE ドキュメント (第 4.7 節)

注意

アプリケーションの統合は必ずしも必要ありません。 New Desktop **の既存の** DECwindows **アプリケーションは，まったく変更を加えずに実行することができます。**

4.1 最小限の統合

最小限の統合を行うと，アプリケーションを 1 つ以上の対応するアクションを用いて CDE デスクトップから起動することができるようになります。これには特定のアプリケーション構成ファイルが必要です。[アクション作成]アプリケーションを使用して，各アプリケーションごとに次の構成ファイルを作成すれば，ほとんどのアプリケーションに対して最小限の統合を実現することができます。

- アイコン・ファイル
- アクションおよびデータ型の定義ファイル
- アクション (stub)・ファイル

アプリケーションのなかにはアクション作成では最小限の統合を完了できないものがあります。たとえば，コマンド行にパラメータなどのファイル名ではない引数が必要な場合，[アクション作成]を使用してアプリケーション用のアクションを作成することはできません。また，そのデータ型が[開く]，[印刷]以外のアクションを持っている場合も，アプリケーションに[アクション作成]を使用することはできません。一般的に，[アクション作成]は最小限の統合に必要なファイルの作成に使用することができ，そのファイルを編集して[アクション作成]では指定できない追加情報を指定するようにします。エディタで新規ファイルを作成しなければならない場合もあります。

4.1.1 CDE **アクション関連用語**

アプリケーションの統合用に構成ファイルを作成するプロセスを理解するために，CDE インタフェースと CDE ドキュメントで次の用語がどのように使用されているかを理解することが重要です。

- アクション

  アクションとは，アプリケーション・マネージャあるいはファイル・マネージャのアイコンのダブルクリックにより，アプリケーションに対して発生する処理のことです。アプリケーションの構成ファイルをアプリケーション・ファイルに対応付けることにより，このアクションが起動できるようになります。[アクション作成]の[アクション名]フィールドは，アプリケーション用に選択するアイコンとともに表示されるアイコン名のことです。

- アクション定義ファイル

  このファイルにはアクションの定義，さらにオプションとしてアプリケーションと対応付けしたいデータ型の定義が入っています。このファイルにデータ型定義が入っている場合は，アクションおよびデータ型定義ファイルと呼ばれることがあります。

次は，[マニュアル・ページ・ビューア]のアクション定義ファイル DTHELP.DT の例です。

```
ACTION dtmanpageview
{
LABEL           Man Page Viewer
ARG_COUNT       0
ICON            Dthover
TYPE            COMMAND
WINDOW_TYPE     NO_STDIO
EXEC_STRING     cde$system_defaults:[bin]dthelpview -man \
                -xrm "Dthelpview*manBox*columns: 100"
DESCRIPTION     The Man Page Viewer (Dtmanpageview) action \
                displays a man page in a Quick Help viewer window.
}
```

- アクション (stub)・ファイル

  アクション (stub)・ファイルは， CDE 上で各アクション定義ファイルに対して必要とされるファイルです。アクション・ファイルは，アクション定義ファイルをアイコン・ファイルと対応付けして，アイコンがファイル・マネージャあるいはアプリケーション・マネージャに表示されるようにします。アクション・ファイルはアクション定義ファイルと同じファイル名ですが，拡張子 DT が付いていません。たとえば， DTPAD. は DTPAD.DT アクション定義ファイルのアクション・ファイルです。

4.1.2 OpenVMS Alpha **上でのアクション定義ファイルの作成**

[アクション作成]アプリケーションを使用して，または直接エディタで編集して，アプリケーション統合用にアクション定義ファイルを作成する場合は， OpenVMS Alpha 上では次の必要条件に従ってください。

- アイコン名

  アプリケーション用に指定したアクションが，アプリケーション・マネージャのアプリケーション・グループにアイコンとして表示される場合は，アクション名は OpenVMS ファイル名として有効な文字のみで構成され，すべて小文字にする必要があります。[アクション作成]はアクション名を自動的に小文字に変更します。

- アプリケーションを実行するためのコマンド行

  [アクション作成]アプリケーションの[アクションを開いた (ダブルクリックした) 場合のコマンド：]フィールドには，アクション定義ファイルの EXEC_STRING が入ります。このフィールドには，有効な OpenVMS コマンド行を入力する必要があります。コマンド行が$， RUN， MCR のいずれかで始まり，その次に空白が来るか@で始まる場合は，そのコマンドは変換されず DCL コマンドとして処理されます。コマンド行が有効な OpenVMS または UNIX のファイル名で始まる場合は，外部コマンドが自動的に生成されます。また，コマンド行の全オプションは大文字あるいは小文字を入力時のままとするために，暗黙のうちに引用符が付けられます。

  コマンド行が，デバイス名もディレクトリ名もないファイル名だけで始まる場合は，次のデフォルトの実行ディレクトリ内のファイルとして処理されます。

  CDE$USER_DEFAULTS:[BIN]
  CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[BIN]

  論理名 CDE$PATH が，これらのディレクトリを指す検索リストとして定義されます。ファイルが存在しない場合は，そのコマンドは変換されず DCL コマンドとして処理されます。

- コマンド行の引数

  コマンド行のファイル引数は[アクション作成]で指定することができます。[アクション作成]で引数を入力する場合，[アクションを開いた (ダブルクリック) した場合のコマンド：]フィールドに，$*n*という構文で指定します。たとえば，第 1 引数を$1，第 2 引数を$2 と指定します。残りの引数はすべて$*で表します。引数の指定方法についての詳細は，『共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』の第 9 章および第 10 章を参照してください。

[アクション作成]には，引数指定に関して次のような制約があります。

- 対応する引数を指定しないとプロンプト用文字列がサポートされません。
- [拡張機能]オプションの[アクションを開く時にユーザに尋ねる内容]フィールドを使用すれば，一番目の引数にだけプロンプト用文字列を入力することができます。
- 引数のデータ型を指定する方法はありません。

- アクションに CWD キーワードを組み込んで，デフォルトのディレクトリを設定することはできません。

引数を指定する場合は，必ず正しい引数型を使用してください。デフォルトではプロンプト用引数 (構文: %"*prompt string*"%) の型は String で，明示的に指定した引数 (構文: %Arg_*n*["*optional prompt string*"]%) の型は File です。デフォルトの引数の型を使用したくない場合は，次のように指定して別の型を指定することもできます。

%(File)"*prompt string*"%
%(String)Arg_1%

%Args%キーワードは%Arg_*n*%キーワードに類似していますが，全引数を空白で区切ったリストがアクションに渡される点が異なります。いずれのキーワードが適切であるかは，各自の DCL コマンドに応じて異なります。

4.1.3 アクション作成の概要

『共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』の第 9 章の説明のように，アクション作成は次の処理を実行します。

- コマンドを実行するアクション定義の作成。
- *disk*$:([*user*.DT.TYPES]*action-name*.DT ファイルの作成。このファイルには，アプリケーション用に作成されたアクションおよびデータ型の定義が格納されます。
- ユーザのホーム・ディレクトリにアクション・ファイルを作成します。アクション・ファイルはアクションと同名の実行可能ファイルです。

  ファイル・マネージャでは，アクション・ファイルはアプリケーションのアイコンとして表されます。このアプリケーションのアイコンをダブルクリックすると，アプリケーションが起動します。

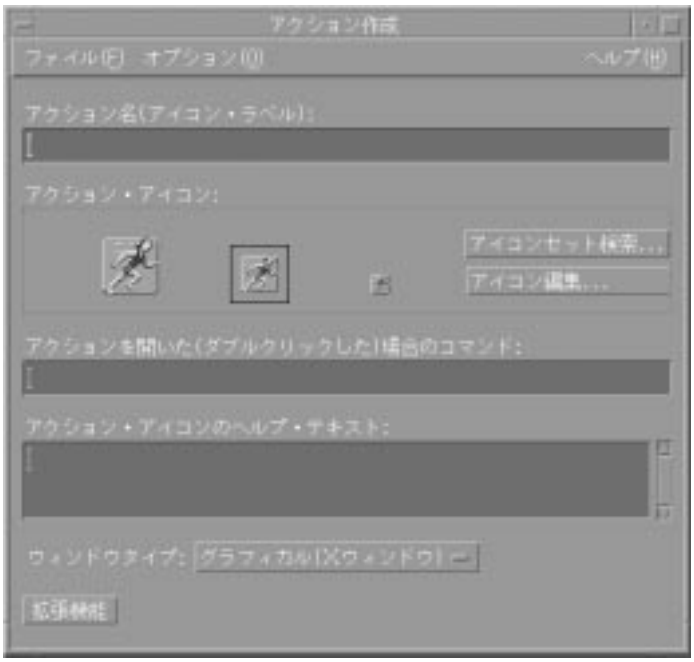
  アクションを作成する際は，そのアイコンにドロップできるデータ型を指定することによって，アクションのアイコンのドロップ・ゾーンを作成することができます (オプション)。

- アプリケーションのデータ・ファイル用に 1 つ以上のデータ型を作成 (オプション)。
- データ型ごとに[開く]アクションを作成。
- データ型ごとに[印刷]アクションを作成 (オプション)。
- アクションのデータベースとデータ型のロード。これによりアクションとデータ型が直ちに有効になります。

4.1.4 アクション作成を使用したアプリケーションの統合

アプリケーション・マネージャの[デスクトップツール]アプリケーション・グループから，[アクション作成]アプリケーションを起動することができます。図 4–1 は，アクション作成アプリケーションのメイン・ウィンドウです。

図 4–1 **アクション作成のメイン・ウィンドウ**



アクション作成のメイン・ウィンドウの左下にある[拡張機能]オプションを選択すると，追加のフィールドが表示されます。これらの追加フィールドは，図 4–2 に示されています。表 4–1 に，アクション作成のメイン・ウィンドウと[拡張機能]ウィンドウの各フィールドについての説明をまとめています。

表 4–1 **アクション作成フィールド**

フィールド名	用途
基本機能のフィールド	
アクション名 (アイコン・ラベル):	これは，アプリケーションのアイコンの隣に表示されるアイコン名です。

(**次ページに続く**)

表 4–1 (**続き**) **アクション作成フィールド**

フィールド名	**用途**
基本機能のフィールド	
アクション・アイコン:	このアイコンでアプリケーションを表します。[アイコンセット検索]を使用すると， New Desktop に組み込まれているアイコン集からアイコンを選択することができます。また，[アイコン編集]を使用すれば，既存のアイコンを変更したり，アイコンを新規作成することができます。
アイコンを開いた (ダブルクリックした) 場合のコマンド:	アクセスしたいアプリケーション名で，これには 1 つ以上のファイル引数を演算子として指定することができます。引数は`$filename`という形式で指定しなければなりません。例：`DIFF $1 $2`
アクション・アイコンのヘルプ・テキスト:	このヘルプがアクション・アイコンのアイテムヘルプになります。テキストは，テキスト・フィールドで自動的に改行されます。行を空白，バックスラッシュ (\)，[Return]キーで終了すると行が続くことを特に指定できます。バックスラッシュがない場合は次行以降の行は表示されません。
ウィンドウタイプ:	ここでは，アプリケーションが必要とするウィンドウ関連のサポートを選択します。 3 つのウィンドウ・タイプまたはウィンドウなしのいずれかを選択することができます。
拡張機能	アプリケーションがデータ・ファイルを使用し，データ・ファイル用に 1 つ以上のデータ型を作成したい場合は，このフィールドを選択します。アクション作成ウィンドウが拡大して，拡張機能フィールドが追加されて表示されます。
拡張機能フィールド	
アクションを開く時にユーザに尋ねる内容:	アプリケーションのコマンド行が必要なファイル引数，あるいは任意のファイル引数を持つ場合に，プロンプトを表示します。持たない場合は空白のままとなります。
このアクションに使用するデータ型:	アクションに任意のデータ型を使用できる場合は，[すべてのデータ型]を選択します。既存のデータ型を変更したり，データ型を新規作成したい場合は，[上記リストのみ]を選択してから[追加]を選択します。 (最初，[このアクションに使用するデータ型:]のボックス内は空白です。) [追加]を選択すると，[データ型を追加]ダイアログ・ボックスが表示されます。

図 4–2 **アクション作成の拡張機能を表示したメイン・ウィンドウ**

4.1.5 アクション作成を使用したデータ型の作成と変更

アクション作成アプリケーションには，既存のデータ型の変更や新規作成のための[データ型の追加]ダイアログ・ボックスがあります。図 4–3 は[データ型の追加]ダイアログ・ボックスで，各フィールドの説明は表 4–2 にまとめてあります。

図 4–3　**「データ型の追加」ダイアログ・ボックス**

表 4–2 **アクション作成の[データ型の追加]ダイアログ・ボックス**

フィールド	用途
データ型ファミリ名:	既存のデータ型を同じ名前のまま変更したい場合は，このフィールドを空欄にします。新しいデータ型を作成したい場合は，データ型名を入力します。(名前には空白を挿入しないようにしてください。名前はアプリケーションのユーザには見えず，アクションとデータ型のデータベースで，データ型定義の識別に使用されます。)
識別する特性:	[識別する特性]ダイアログ・ボックスを表示させるには，[アイコン編集]ボタンをクリックします。
データ型アイコンのヘルプテキスト:	このヘルプがアクション・アイコンのアイテムヘルプになります。
データ型アイコン:	[アイコンセット検索...]で， New Desktop に組み込まれているアイコン集からアイコンを選択することができます。また[アイコン編集]を使用すれば，既存のアイコンを変更したり，アイコンを新規作成することができます。
データ型を開くコマンド:	このコマンドは，[アイコンを開いた (ダブルクリックした) 場合のコマンド]と同じもので，このフィールドに表示されます。
データ型を印刷するコマンド:	アプリケーションのデータ型に合った[印刷ダイアログ]のコマンド行を入力してください。

2 つ目のプロンプト[識別する特性]に[アイコンの編集...]ボタンをクリックすると，図 4–4 のような[識別する特性]ダイアログ・ボックスが現れます。表 4–3 は，このダイアログ・ボックスの各フィールドについての説明をまとめたものです。

[データ型の追加]ダイアログ・ボックスの[識別する特性]フィールドに，データ型の特性が次のコードで表示されます。

- d — ディレクトリ
- r — 読み取り可
- w — 書き込み可
- ! — 論理演算子 NOT
- & — 論理演算子 AND

図 4–4 **[識別する特性]ダイアログ・ボックス**

表 4–3 **アクション作成**: **[識別する特性]ダイアログ・ボックス**

フィールド	用途
ファイル，フォルダ：	このデータ型は，ファイルやフォルダのどちらか一方にしか適用できません。
ファイル名のパターン：	ファイル名に基づいたデータ型。
アクセス権のパターン：	アクセス権の読み込み，書き込み，実行または削除。これらのアクセス権の[どちらでも可]オプションは，アクセス権があってもなくても無関係ということです。アクセス権のテストは OpenVMS アクセス制御リスト (ACL) を認識しません。
内容：	検索パターン，内容の型やファイル中のオプションの開始点。表示を変更または更新すると，この機能によって性能が大幅に劣化することがありますので注意してください。

4.1.6 [アクション作成]アプリケーションによるアイコンの編集

[アクション作成]アプリケーションからアイコン・エディタを呼び出してアイコン・ファイルを編集しても，編集内容はアイコン・エディタ終了時に自動的に表示されません。アイコン・エディタ終了後，[アイコンセット検索...]を選択して，新しく編集したアイコンを選択して表示を変更し，編集したアイコンをアクションに対応付けする必要があります。

いろいろなサイズのアイコンを編集したい場合は，[アイコンセット検索]を選択する前に，編集をすべて完了しておくようにしてください。[アイコンセット検索]選択時に，編集アイコンセットが全部揃っていない場合は，足りないアイコンは表示されず，[アクション作成]アプリケーション内からは作成することができません。

4.2 推奨レベルの統合

推奨レベルの統合とは，アプリケーションがその他の CDE 構成要素と統合して，CDE デスクトップとより一貫性があるようにすることです。推奨レベルの統合を行うと，ご利用のアプリケーションの次のような機能向上が達成されます。

- ドラッグ・ドロップ機能ならびに保存および復元機能などアプリケーションに便利な機能を提供 (第 5 章を参照)。
- アプリケーションの国際化を実現。

- CDE スタイルのエラー・メッセージを表示。
- CDE フォントを使用 (第 5 章を参照)。
- CDE スタイルのヘルプの組み込み (第 5 章を参照)。

推奨レベルの統合にはコード変更が必要になることがしばしばあります。この節では，各国語のユーザ・インタフェースを提供するためのリソースと， CDE スタイルのエラー・メッセージについて簡単に説明します。また，第 5 章では，機能を向上するこの他のプログラミング・リソースについて説明しています。

4.2.1 国際化

New Desktop では，各国語のユーザ・インタフェースを提供しています。通貨の数値データや日付のフォーマット化用のシンボルと規則など，言語やその他のその国の文化に独特の属性はロケールと呼ばれるファイルに定義されています。各ロケールを，アプリケーションが特定言語で出力する全テキストが入ったメッセージ・カタログとリソース・ファイルが補佐します。ロケール・ファイルとメッセージ・カタログを作成するには，本書の表 4–4 で簡単に説明している DEC C XPG4 地域化ユーティリティを使用してください。

ユーザは，ユーザ・インタフェース用言語をログイン時に指定することができます。ログイン画面で[オプション]を選択してから，[言語]を選択してください。システムにインストールされ，ロケール・ファイルに定義されている言語が表示されます。ここで，ご使用のシステムのユーザ・インタフェース用言語を選択できます。

注意

デフォルトのロケールは C **ロケールです。本書で記載されているファイル指定のなかの***lang***は，ロケール変数を表します。** CDE **ドキュメントでは**%L **と**<lang>**がロケール変数を表します。**

表 4–4 DEC C XPG4 **現地化ユーティリティ**

ユーティリティ	用途
GENCAT	メッセージ・カタログ・ファイルに，1 つ以上のメッセージ・テキストのソース・ファイルを統合します。メッセージ・テキストのソース・ファイルのファイル型にはデフォルトの.MSG が使用され，メッセージ・カタログ・ファイルのファイル型にはデフォルトの.CAT が使用されます。 GENCAT 構文は次のとおりです。 `GENCAT msgfile [,...] catfile`
ICONV	ICONV は，指定するオプションによって変換テーブル・ファイルをコンパイルしたり (ICONV COMPILE)，あるコードセットから他のコードセットに文字を変換 (ICONV CONVERT) したりします。変換テーブル・ファイルは，あるコードセットの文字をどのように他のコードセットの文字に変換するかを定義したものです。
LOCALE	指定するオプションによって次のように動作します。 • LOCALE COMPILE は，バイナリのロケール・ファイルをコンパイルします。 • LOCALE LOAD は，ロケール名を読み出し専用の共有グローバル・データとしてシステム・メモリにロードします。 • LOCALE SHOW は，システムのロケールの詳細を表示します。 • LOCALE UNLOAD は，システム・メモリからロケール名をアンロードします。

ロケール・ファイルは，論理名SYS$I18N_LOCALEで定義されるディレクトリに存在します。 DEC C XPG4 地域化ユーティリティについての詳細は，『OpenVMS 新機能説明書』を参照してください。

4.2.2 アプリケーションからのエラー・メッセージの表示

ユーザが，エラーや警告のメッセージが通常は，メッセージ・フッタ，エラー・ダイアログ・ボックスまたは警告ダイアログ・ボックスに表示され，必要に応じてさらに詳しい説明がオンライン・ヘルプで表示されるものと考えているため， New Desktop のアプリケーションでは，これらのメッセージをこのような一般的な形式で表示しています。アプリケーションが出力するエラー・メッセージの詳細および

メッセージ・ダイアログとオンライン・ヘルプのリンク付けに関する詳細は，『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

4.3 オプションで行う統合

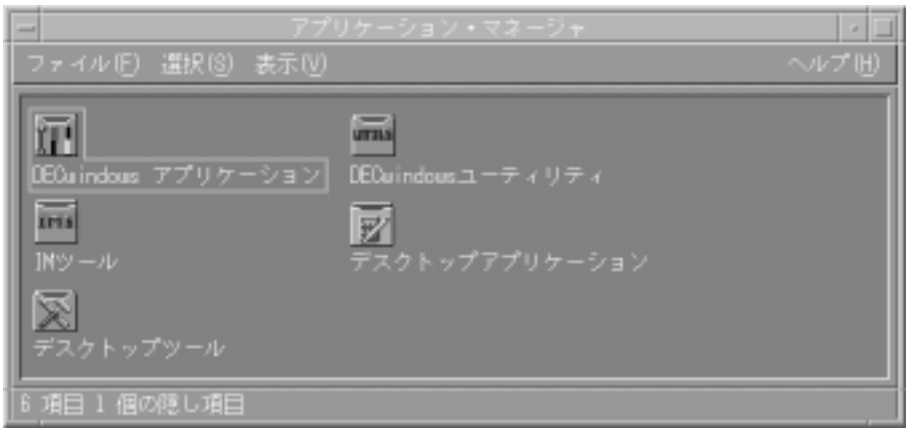
オプションで行う統合では，特定のグラフィカル・ユーザ・インタフェース機能を提供したり，複数のワークスペースを管理したりするなどの特殊なタスクを実現するための， CDE サービスを統合することができます。また，カスタム・ウィジェットでは，グラフィカル・ユーザ・インタフェース機能，ワークスペース・マネージャ API では複数のワークスペースを管理するための機能を提供しています。これらの CDE サービスについての詳細は，本書の第 5 章と付録 B，および CDE ドキュメントの『共通デスクトップ環境: プログラマ概要』と『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

4.4 新規アプリケーション・グループの作成

New Desktop には，図 4–5 のように[DECwindows アプリケーション]，[IM ツール]，[DECwindows ユーティリティ]，[デスクトップ・アプリケーション]，[デスクトップ・ツール]の 5 つのアプリケーション・グループが用意されています。デスクトップ・アプリケーションとは CDE アプリケーションのことで，デスクトップ・ツールとは CDE ツールのことです。

アプリケーション・グループとは，アクション (stub)・ファイルが入っている単なるディレクトリのことです。アプリケーション・マネージャがあるディレクトリがアプリケーション・グループであるということを認識するためには，そのディレクトリが DTAPPSEARCHPATH 論理名で定義されるアプリケーション・グループのルート・ディレクトリの 1 つに置かれていなければなりません。*disk*$:[*user*.DT.APPMANAGER]ディレクトリは，アプリケーション・グループのルート・ディレクトリの 1 つです。

図 4–5 **アプリケーション・マネージャ画面**



アプリケーション・マネージャで管理するアプリケーション・グループを次の方法で作成し，追加することができます。

1. 新規アプリケーション・グループ名をディレクトリ名にしたディレクトリ，たとえば*disk*$:[*user*.DT.APPMANAGER.MY_TOOLS]を作成します。
2. 図 4–6 のように，フォルダ・アイコンと小文字で中央に下線が入ったデフォルトの新規アプリケーション・グループ名がまず最初に表示されます。フォルダ・アイコンとデフォルトのグループ名を変更するには，CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APPCONFIG.TYPES.JA_JP_*]ディレクトリの NEWGROUP.DT_TEMPLATE ファイルを，*disk*$:[*user*.DT.TYPES]*newgroup*.DT に，同じファイルが既に入っていないことを確認してからコピーします。このファイルを，ファイルに入っている指示に従って変更します。
3. [デスクトップアプリケーション]グループにある[アクション作成]アプリケーションを実行して，次のファイルを作成します。
   a. たとえば SYS$LOGIN:CALCULATOR などのアクション (stub)・ファイル。
   b. たとえば*disk*$:[*user*.DT.TYPES]CALCULATOR.DT などのアクションおよびデータ型定義ファイル。

[アクション名 (アイコン・ラベル)]と[アクションを開いた (ダブルクリックした) 場合のコマンド]の，最低 2 つのフィールドに入力するようにしてください。たとえば，[アクション名]に CALCULATOR，[アクションを開いた (ダブルクリックした) 場合のコマンド]に RUN SYS$SYSTEM:DECW$ CALCULATOR を入力します。

4. 次のいずれかの方法で，新規アプリケーションにアイコンを設定します。
   - [アイコンセット検索...]あるいは[アイコン編集...]を選択しないで，デフォルトのアイコンを指定します。
   - [アイコンセット検索...]を選択してプロンプトに応え， New Desktop に組み込まれているアイコンを選択します。
   - [アイコン編集...]を選択してプロンプトに応え，既存のアイコンを編集するか，新規アイコンを作成します。

   この例では，デフォルトのアイコンを使用しています。
5. アクション (stub)・ファイルを SYS$LOGIN から *disk*$:[*user*.DT.APPMANAGER.MY_TOOLS]へ移動します。
6. [ファイル]プルダウン・メニューの[保管]オプションで，[アクション作成]のなかの新規アプリケーション・グループを使用可にします。あるいは，[アクション作成]を終了して，[アクションの再読込み]を使用し，新規アプリケーション・グループを使用可能にすることもできます。アプリケーション・マネージャの[デスクトップツール]を選択してから，[アクションの再読込み]をダブルクリックしてください。
7. アプリケーション・マネージャを選択します。

   図 4–6 のように， my_tools というアイコン名が付いた，新規ファイルのフォルダ・アイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックすると，[Calculator](電卓) というアイコン名のアクション・アイコンが表示されます。電卓を起動するには，このアイコンをダブルクリックします。
8. グループにアプリケーションを追加する場合は，アプリケーションごとに手順 3 〜 6 を繰り返してください。

この手順を実行するたびに，新規.DT ファイルが*disk*$:[*user*.DT.TYPES]ディレクトリに追加されます。 MY_TOOLS.DT などのファイルを 1 つ作成して，このファイルに全アクションをまとめることも可能です。ファイルが 1 つだけだと，アプリケーション・グループの管理がしやすくなります。

図 4–6 新規アプリケーション・グループが表示されたアプリケーション・マネージャ画面

4.5 他社のアプリケーションの登録

アプリケーションの登録とは， CDE ドキュメントで使用されている用語で， New Desktop にアプリケーションをインストールして組み込むことを表します。アプリケーションの組み込みに必要な各ファイルを登録パッケージと言います。アプリケーションの登録についての詳細は，『共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』の第 4 章で説明しています。

アプリケーション登録のプロセスは， UNIX システムと OpenVMS Alpha システムでは異なります。最大の違いは， CDE アプリケーション dtappintegrate が

New Desktop には組み込まれていないことです。ただし，その他の New Desktop のプロセスはほとんど同じです。

アプリケーションが次の構成要素を持つようになると， New Desktop に完全に登録されたことになります。

- アプリケーション・マネージャの最上位にある独自のアプリケーション・グループ。
- そのアプリケーションを起動するアクション。このアクションは，アプリケーション・グループのアイコンで表されます。
- データ・ファイル用のデータ型 (オプション)。

登録パッケージは，次の要素で構成されます。

- New Desktop にアプリケーションを組み込むために作成されるファイル。ファイルの数とファイルの型は，アプリケーションの種類とユーザが選択する統合レベル (最低限，推奨，オプション) によって異なります。
- 新規アプリケーション・グループを図 4–7 のように， CDE$USER_DEFAULTS:[APPCONFIG.APPMANAGER.JA_JP_*]ディレクトリに入れるための，新規ディレクトリ・ファイルとその関連ファイル。

登録パッケージのインストール・プロシージャは，次のタスクを実行しなければなりません。

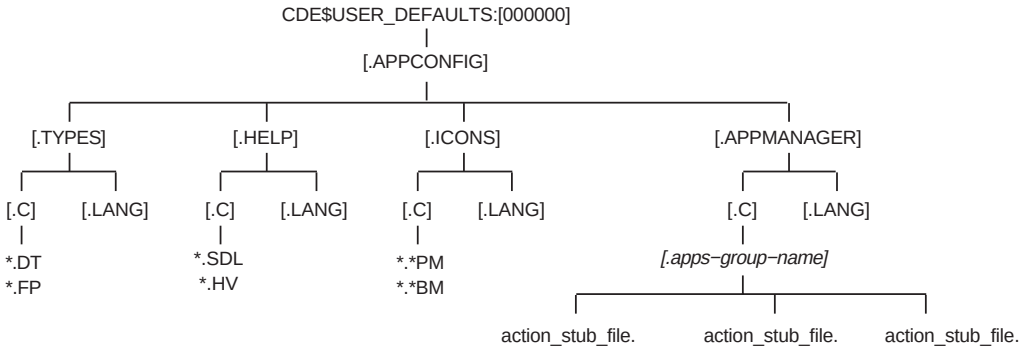
- CDE$USER_DEFAULTS:[*...]ディレクトリ構造に適切なディレクトリが入っているか確認するためにテストを行います。このディレクトリ構造には，次の型のファイルが入るはずです (図 4–7 を参照)。
  - *.DT
  - *.FP
  - *.SDL
  - *.HV
  - *.PM
  - *.BM

  - アクション・ファイル
  - Readme ファイル

  以上のディレクトリが存在しない場合は，インストール・プロシージャが作成しなければなりません。

- システムに組み込む 1 つ以上のアプリケーションのために作成したアプリケーション・グループ用のファイルをインストールします。
- 各アプリケーション用に作成したアプリケーション統合ファイルを，CDE$USER_DEFAULTS ディレクトリ構造の該当するディレクトリにインストールします。
- アプリケーションの実行可能ファイル，共有可能イメージ，リソース・ファイルを，順に SYS$SYSTEM， SYS$SHARE， CDE$USER_DEFAULTS にインストールします。

図 4–7　CDE$USER_DEFAULTS **ディレクトリ構造**



インストール完了後にセッションを再起動すると，次の手順で新規アプリケーション・グループを呼び出して，グループのなかのアプリケーションを起動することができます。

1. アプリケーション・マネージャを表すアイコンをシングル・クリックします。
2. インストールした新規アプリケーション・グループを表すアイコンをダブル・クリックします。そのグループに入っている各アプリケーションのアイコンが表示されます。
3. 起動したいアプリケーションをダブル・クリックします。

4.6 New Desktop への UNIX リファレンス・ページの移植

UNIX システムで作成したリファレンス・ページ (マニュアル・ページ) を， New Desktop のリファレンス・ページに追加したい場合は，次の方法で追加することができます。

- UNIX システムで次のようにリファレンス・ページをフォーマットして，その出力を取り込みます。

  ```
  % man dtwmrc > dtwmrc.1
  ```

- dcp， ftp その他のコピー用コマンドで， OpenVMS システムにフォーマット済みのファイルをコピーします。

  次の例では dcp でコピーしています。

  ```
  % dcp dtwmrc.1 node"user password"::'cde$system_defaults:[man]'
  ```

  次の例では ftp でコピーしています。

  ```
  ftp node
  ftp> cd cde$system_defaults:[man]
  ftp> put dtwmrc.1
  ftp> bye
  ```

コピーしたリファレンス・ページは，アプリケーション・マネージャの[デスクトップ・アプリケーション]グループの[マニュアル・ページ・ビューア]を選択すると，表示させることができます。

4.7 アプリケーション統合関連の CDE ドキュメント

アプリケーション統合についての詳しい説明は，特に[アクション作成]のヘルプなどの，関連するオンライン・ヘルプや次の CDE ドキュメントを参照してください。

- 『共通デスクトップ環境: プログラマ概要』
- 『共通デスクトップ環境: 上級ユーザ及びシステム管理者ガイド』

オンライン版ドキュメントにアクセスする方法，あるいはこれらの印刷版を入手する方法については，本書の表 1–2 をご覧ください。

5

New Desktop のプログラミング・リソース

DECwindows Motif for OpenVMS Alpha では， DECwindows Motif for OpenVMS VAX のプログラミング・リソースに加えて， New Desktop のプログラミング・リソースが用意されています。これらのリソースには， CDE API および統合サービスのサブセット，追加の CDE リソースが含まれます。

本章では，次の事項について説明します。

- New Desktop がサポートする標準 (第 5.1 節)
- API およびアプリケーション統合サービス (第 5.2 節)
- 保存および復元機能 (第 5.3 節)
- アクション作成アプリケーション (第 5.4 節)
- サポートされているファイル型 (第 5.5 節)
- CDE 標準フォント (第 5.6 節)
- ヘルプのプログラミング (第 5.7 節)
- スクリーン・セーバ (第 5.8 節)
- ヘッダ・ファイル (第 5.9 節)
- CDE サンプル・プログラム (第 5.10 節)
- CDE プログラミング関連ドキュメント (第 5.11 節)

5.1 New Desktop がサポートする標準

New Desktop は次の標準をサポートします。

- CDE Motif 1.0 ツールキット (OSF/Motif リリース 1.2.5)

  New Desktop では， CDE Motif 1.0， OSF/Motif バージョン 1.1.3， XUI 用の各ツールキットの実行時サポートを提供します。以上のツールキットで構築された DECwindows アプリケーションは， New Desktop 環境で稼動します。

- X11 R5
- UIL コンパイラ

  UIL コンパイラはサポートされていますが， CDE アプリケーションは UIL を使用しません。したがって，.uid ファイルは CDE アプリケーションのどれとも関連性がありません。

- Motif のリソース・マネージャ (Mrm)
- ICCCM (Inter-Cliebt Communication Convention Manual)
- CDE プログラミング・ライブラリ (本書の第 5.2 節を参照)

5.2 API サービスおよびアプリケーション統合サービス

表 5–1 は， New Desktop で利用できる CDE アプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) および CDE アプリケーション統合サービスのサブセットをまとめたものです。これらは，次の共有可能ライブラリ (論理名 SYS$LIBRARY で定義される) に含まれています。

- CDE$LIBDTSVC.EXE
- CDE$LIBDTHELP.EXE
- CDE$LIBDTWIDGET.EXE

また，対応するヘッダ・ファイルについても表 5–1 で説明しています。 CDE API の全ルーチンについては，付録 C を参照してください。 New Desktop ではほとんどの CDE API ルーチンをサポートしていますが，いくつかのものはサポートしていません。サポートされていないものについては注意書きがあります。

これらの新規 API サービスおよびアプリケーション統合サービスに加え，DECwindows Motif の全 API サービスと全アプリケーション統合サービスも New Desktop で利用できます。

表 5–1 New Desktop の CDE API サービスおよびアプリケーション統合サービス

サービスの種類	**説明**
CDE$LIBDTSVC.EXE	**デスクトップ・サービス**
便利なドラッグ・ドロップ形式の API	OSF/Motif R1.2 のドラッグ・ドロップ・サービスの上位にある便利な機能。これらの機能は OSF/Motif R1.2 のドラッグ・ドロップ・サービスを簡素化したもので，内容には変更ありません。
アクション刷新 API	アクションデータベースおよびデータ型定義データベースの初期化とロード，アクション・データベースの問い合わせ，アクションの起動，アクションのステータス情報を受け取って引数を返すためのコールバックの登録に利用します。
セッション・マネージャ API(dtsession)	このサービスには保存および復元機能が含まれます。
ワークスペース・マネージャ API (dtwm)[1]	ワークスペース情報の取得，現在のワークスペースの設定など。
ヘッダ・ファイル[2]	Action.h， Dnd.h， Dts.h， Dt.h， Saver.h， Session.h， Wsm.h
詳細は，『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド』を参照してください。	
CDE$LIBDTHELP.EXE	**ヘルプ・ウィジェットのサポート**
DtHelpDialog	メニュー・バー，トピック・ツリー，ヘルプ・トピック表示領域を含む一般ヘルプ・ダイアログ。
DtHelpQuickDialog	トピック表示領域および 1 つ以上のダイアログ・ボタンを最下部に持つクイック・ヘルプ・ダイアログ。
ヘッダ・ファイル[2]	Help.h， HelpQuickD.h， HelpDialog.h
詳細は，『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド (ヘルプ・システム編)』を参照してください。	

[1] 一部の機能はサポートされていません。

[2] DECW$INCLUDE: にあります。

(次ページに続く)

表 5–1 (続き) New Desktop の CDE API サービスおよびアプリケーション統合サービス

サービスの種類	説明
CDE$LIBDTWIDGET.EXE	**カスタム・ウィジェット**
DtSpinBox	数値またはテキスト値を増減できるコントロール内の矢印ボタンとテキスト・フィールドとを結合します。
DtComboBox	テキスト・フィールド用の 1 つ以上の有効な選択肢を表示するコントロール内のリスト・ボックスとテキスト・フィールドとを結合します。
DtMenuButton	メニュー・バーの外にメニューのカスケード化を行う機能です。
DtEditor	シンプルなテキスト・エディタの機能を組み込みます。
ヘッダ・ファイル[2]	Spinbox.h, ComboBox.h, MenuButton.H, Editor.h
詳細は, 『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド』を参照してください。	

[2] DECW$INCLUDE: にあります。

表 5–2 は, New Desktop に組み込まれていない CDE API サービス, アプリケーション統合サービス, ツールをまとめたものです。

表 5–2 組み込まれていない CDE API, アプリケーション統合サービス

CDE 構成要素	名称
アプリケーション・ビルダ	dtappbuilder
カレンダ・マネージャ API	libcsa
メッセージ交換サービス (ToolTalk)	libtt
多目的インターネットメール拡張機能 (MIME) サポート	libdtmail
漢字端末エミュレータ API	libdtterm
ウィンドウ対応 Korn シェル	dtksh

以上の各ルーチンのアプリケーションでの使用例については, 第 5.10 節に説明のサンプル・プログラムを参照してください。

5.3 保存および復元機能

New Desktop には，セッションの保存および復元ユーティリティ機能が備わっています。この機能がご利用のアプリケーションに組み込まれている場合は，アプリケーションの状態がセッション・マネージャ終了時に保存され，セッションの再起動時に復元されます。

XmAddWMProtocol()関数を使用して，アプリケーションの最上位用 WM_PROTOCOLS 特性に WM_SAVE_YOURSELF アトムを設定してください。DECW$UTILS ディレクトリにある xprop ユーティリティ・プログラムを使用して，ウィンドウの特性を表示することができます。

XmAddWMProtocolCallback()関数を使用して，アプリケーションが WM_SAVE_YOURSELF クライアント・メッセージを受信したときのコールバック・プロシージャを宣言します。セッション・マネージャがクライアントの WM_SAVE_YOURSELF メッセージをアプリケーションに送ると，このコールバック関数が呼び出されます。

アプリケーションは，保存および復元処理中はユーザと対話するべきではありません。たとえば，保存および復元処理中は，ダイアログ・ボックスは表示するべきではありません。

SESSION.C サンプル・プログラムが目安として提供されています。このサンプル・プログラムは，切り替えボタン付きのメイン・ウィンドウを作成し，保存および復元ルーチンの実行中にボタンの状態を保存します。

サンプル・プログラムは次のディレクトリにあります。

```
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[EXAMPLES.DTSESSION]
```

サンプル・プログラムが入ったディレクトリに関する一般的な説明は，第 5.10 節を参照してください。

5.4 アクション作成アプリケーション

アプリケーションを New Desktop から起動するためには，アプリケーション構成ファイルをいくつか作成してインストールしておかなければなりません。ほとんどのアプリケーションの構成ファイルは，アクション作成アプリケーションで作成およびインストールすることができます。アクション作成アプリケーションはこれらのファイルの作成処理を自動化するもので，アプリケーション・マネージャ内の[デスクトップツール]アプリケーション・グループから起動することができます。

アクション作成についての詳細は，本書の第 4.1 節を参照してください。

5.5 サポートされているファイル型

New Desktop には，事前に構成されたアイコンと関連アクションが付いたファイル型のセットが用意されています。これらのアイコンとアクションは，アクション作成，アクション・データベース，実行管理ツールを使用して変更することができます。

ファイル型の例として，実行可能ファイル (拡張子.EXE 付き) あるいはデータ・ファイル (拡張子.TXT 付き) があります。アクションの例としては，ファイルが実行可能型の場合，ファイルの**実行**や，ファイルがデータ・ファイルの場合の**印刷**または編集するための**開く**があります。

5.6 CDE 標準フォント

CDE は，アプリケーション用とインタフェース用の 2 種類の標準フォントを定義します。アプリケーション・データにはアプリケーション用フォントを， Motif ウィジェットにはインタフェース用フォントを使用します。

New Desktop に組み込まれている CDE 標準アプリケーション用フォントは，あらゆる CDE プラットフォームで使用できる汎用フォントです。これらのフォントは，ふつう X フォント別名メカニズムによって，各 CDE プラットフォーム

上で別々のフォントにマッピングされます。これらのリソース用のフォントは APP-DEFAULTS ファイルに指定します。

CDE 標準インタフェース用フォントは， Motif ウィジェットでアプリケーション開発がしやすいように，アプリケーションのウィンドウが他の CDE デスクトップのクライアント・ウィンドウと同様の外観で，ユーザがスタイル・マネージャを利用してこれらのフォントのサイズを自由に変更できるようになっています。 Motif フォント・リストのリソース仕様を変更することによって，組み込まれているフォントを無効にする場合は，ユーザがそのアプリケーションのフォントをカスタマイズできるような追加機能を用意する必要があります。

以上のガイドラインを守ることによって，アプリケーションはあらゆる CDE プラットフォームに適切なフォントを提供します。詳細は，『共通デスクトップ環境: プログラマ概要』および『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

5.7 ヘルプのプログラミング

New Desktop のヘルプ・システムは，アプリケーションのオンライン・ヘルプの開発および表示を実現する完全なシステムです。本節では，ヘルプ開発用に用意されているプロセスやツールについて簡単に説明しています。 OpenVMS 独特の特徴については，この節で完全に説明しています。ヘルプ開発プロセス， SGML マークアップ言語，ヘルプ記述タスク，プログラミング・タスクについての詳細は，『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド (ヘルプ・システム編)』を参照してください。

次の New Desktop プログラミング構成要素が，ヘルプの開発用に用意されています。

- ヘルプ・コンパイラ・インタフェース (DTHELPTAG.COM)
- ヘルプ・ユーティリティ機能 (CDE$LIBDTHELP.EXE)
- ヘルプ・タグの使用例

5.7.1 ヘルプ開発用プロセス

オンライン・ヘルプはファイル拡張子.HTG 付きのテキスト・ファイルに記述されます。 HelpTag という名前の SGML マークアップ言語を使用して，テキストの各要素のフォーマット方法を指定します。

HelpTag は，見出し，段落，リストなどの要素のフォーマットを指定するタグ集です。ヘルプ・テキストを作成し，そのテキストの要素に適切なタグでラベルを付けた後， DTHELPTAG.COM コマンド・プロシージャでこれらのタグ付きファイルを処理します。 DTHELPTAG.COM コマンド・プロシージャはヘルプ・ビューアで表示させることができる実行時ヘルプ・ファイル (拡張子.SDL) を生成します。

略式 SGML と正式 SGML の 2 種類のスタイルの SGML が用意されており，どちらも HelpTag マークアップ言語と共に使用できます。略式スタイルの方が簡単かつ迅速にコード化できます。

5.7.2 ヘルプ・コンパイラ・インタフェース

ヘルプ・コンパイラ・インタフェースは， DTHELPTAG.COM から起動する 3 つの実行可能ファイルで構成されます。これらの実行可能ファイルについては表 5–3 で説明していますが， CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[BIN]ディレクトリに入っており，このディレクトリは CDE$PATH 論理名で参照されます。

表 5–3 DTHELPTAG.COM **実行可能ファイル**

ファイル名	用途
DTHELP_CTAG1.EXE	正式 SGML によるヘルプ・トピック用のパーサ
DTHELP_HTAG1.EXE	略式 SGML によるヘルプ・トピック用のパーサ
DTHELP_HTAG2.EXE	上記のどちらか 1 方のパーサ実行後に分散ファイル拡張のために実行します。

DTHELPTAG.COM の主な機能は，ヘルプのソース・ファイルをコンパイルすることです。 DTHELPTAG.COM は次のタスクにも使用できます。

- DTHELPTAG.COM が生成する全中間ファイルの削除。

- ヘルプ・ボリュームに関連する全ファイルのリストアップ。

DTHELPTAG.COM は UNIX 版 dthelptag シェル・スクリプトから移植されたものです。 DTHELPTAG.COM は，その UNIX 版に組み込まれているファイル圧縮・解凍以外の全機能をサポートします。

5.7.3 DTHELPTAG.COM のフォーマットとオプション

DTHELPTAG.COM のフォーマットは次のとおりです。

@CDE$PATH:DTHELPTAG [*option*] *filename*

ここで*filename*には，入力するヘルプのソース・ファイル名を指定します。

DTHELPTAG.COM オプションは先頭にハイフン (-) を付ける必要がありますが，各オプションについては表 5–4 で説明しています。

表 5–4 DTHELPTAG.COM **のオプション**

オプション	用途
-formal	正式 SGML によるヘルプ・トピックに使用するパーサを指定します。-formal を指定しない場合，略式 SGML のヘルプ・トピック用のパーサが使用されます。
-nooptimize	HelpTag マークアップの実行時フォーマットへの変換中に通常発生する，一部の最適化をオフにします。このオプションを使用すると変換プロセスの時間が短縮されます。
-memo	ヘルプ・ファイルの作者のメモ書きをメモ・タグ (<memo>) を付けてファイルに挿入します。
-debug	中間ファイルを保存します。保存しない場合は削除されます。
-clean	特定のヘルプ・ボリューム用に DTHELPTAG.COM により生成されたファイルをすべて削除します。
-files	特定のヘルプ・ファイルに関連するすべてのファイルを一覧表示します。表示されるファイルには， DTHELPTAG.COM コマンド・プロシージャ実行中に生成された中間ファイルと，ヘルプ・ファイルに組み込まれるグラフィック・ファイルも含まれます。

(**次ページに続く**)

表 5–4 (**続き**)　DTHELPTAG.COM **のオプション**

オプション	用途
-help	DTHELPTAG.COM 用のコマンド行ヘルプを呼び出します。

5.7.4　ヘルプ・ユーティリティ機能

アプリケーション・プログラマの方のために New Desktop には，Motif アプリケーションに[ヘルプ]ダイアログ・ボックスを付け加えることができるヘルプ API が用意されています。New Desktop のヘルプ・ライブラリ (CDE$LIBDTHELP.EXE) には，次の 2 種類のヘルプ・ダイアログ・ボックスが用意されています。

- 一般のヘルプ・ダイアログ・ボックス (DtCreateHelpDialog())

  メニューバー，トピック・ツリー，トピック表示領域のある一般的なヘルプ・ダイアログボックス。

- クイック・ヘルプ・ダイアログ・ボックス (DtCreateQuickHelpDialog())

  クイック・ヘルプ・ダイアログ・ボックスは，トピック表示領域とその一番下に 1 個以上のボタンだけしかないダイアログ・ボックスです。

New Desktop のヘルプ API についての詳細は，『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド (ヘルプ・システム編)』を参照してください。

5.7.5　HelpTag **のサンプル・プログラム**

HelpTag のサンプル・ファイルは次のディレクトリに入っています。

```
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[EXAMPLES.DTHELP]
```

次の例では，HelpTag の -files オプションの使用法を示すサンプル・ファイルを使用しています。

```
$ @CDE$PATH:DTHELPTAG -files HELPDEMO.HTG
```

上記のコマンドの実行により次のメッセージが出力されます。

```
Workfile is --> HELPDEMO.HTG
MARKUP PARSER (with non-canonical SGML enhancements)
(c) Copyright 1993, 1994 Hewlett-Packard Company
(c) Copyright 1993, 1994 International Business Machines Corp.
(c) Copyright 1993, 1994 Sun Microsystems, Inc.
(c) Copyright 1993, 1994 Unix System Labs, Inc., a subsidiary of Novell, Inc.
CDE HelpTag Formatting System. - Version B.00.00  (DTD Version A.01.23)
Interface generated from help.if on Thu Dec 28 09:01:10 1995
helpdemo.htg
Warning: could not open locale translation database.
[.graphics]AppWithHelp.xwd
 [.graphics]cauticon.pm
[.graphics]clock.xwd
[.graphics]clouds.xpm
[.graphics]bee.xwd
[.graphics]deadjim.xwd
[.graphics]GeneralHelp.xwd
[.graphics]head-down.xwd
[.graphics]helpchar.ent
[.graphics]helpicon.ent
[.graphics]helplang.ent
[.graphics]helpShelf.pm
[.graphics]integral.bm
[.graphics]noteicon.pm
[.graphics]QuickHelp.xwd
[.graphics]rooster.xpm
[.graphics]Snapshot.bm
[.graphics]Snapshot.xwd
[.graphics]speaker.pm
[.graphics]shuttle2.xwd
[.graphics]sunset.xwd
[.graphics]tribe.xwd
[.graphics]warnicon.pm
[.graphics]xload.xwd
Exiting HelpTag Utility...
$
```

5.8 スクリーン・セーバ

New Desktop には，スクリーン・セーバを追加することができます。スクリーン・セーバのサンプル・プログラムが CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[EXAMPLES.DTSCREEN]ディレクトリにあります。

スクリーン・セーバの作成は次の手順で行ってください。

1. スクリーン・セーバ・アプリケーションを作成します。
2. スクリーン・セーバを起動するアクションを作成します。
3. 新しいスクリーン・セーバのアクションを，利用可能なスクリーン・セーバのリストに追加します。これには，次の行を SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM ファイルに追加します。

   ```
   DTSCREENSAVERLIST == "SampleScreenSaver"
   ```

   リストの各スクリーン・セーバ名は，スペースで区切ります。
4. セッションを再起動します。

以上の手順を完了すると，新しいスクリーン・セーバがスタイル・マネージャの[スクリーンセーバ]オプションの利用可能なスクリーン・セーバのリストに追加されます。

新しいスクリーン・セーバの作成についての詳細は，上記サンプル・ディレクトリの README. ファイルを参照してください。

5.9 ヘッダ・ファイル

表 5–5 は， New Desktop に付属の CDE 構成要素用のヘッダ・ファイルをまとめたものです。これらのヘッダ・ファイルを利用することにより，アプリケーション開発者がデスクトップ API (ドラッグ・ドロップ，保存および復元，ワークスペース・マネージャなど)，ヘルプ・サービスおよびカスタム・ウィジェットを活用することができます。

ヘッダ・ファイルはディレクトリ DECW$INCLUDE にあり，サンプル・ディレクトリのソース・ファイル中で次の構文により参照されます。

#include <DT/*filename*.H>

ここで DT は DECW$INCLUDE として定義されている論理名です。

注意

include **は必ず小文字で指定し，それに続く句は必ず括弧** (<>) **で囲ってください。**

表 5–5 CDE **ヘッダ・ファイル**

ファイル名	**機能**
デスクトップ・サービス API	
DT/ACTION.H	アクション関連の構造体および関数
DT/DND.H	ドラッグ・ドロップ関数
DT/DT.H	CDE バージョン情報， DtInitialize および DtAppInitialize 関数
DT/DTS.H	データ型定数および関数
DT/SAVER.H	スクリーン・セーバ API 関数
DT/SESSION.H	セッション・マネージャ API (保存および復元) 機能
DT/WSM.H	ワークスペース・マネージャ API に関連するデータおよび関数
ヘルプ・サービス	
DT/HELP.H	dtfile ヘルプの関数を定義。
DT/HELPQUICKD.H	クィック・ヘルプ・ダイアログのリソースおよび関数

(**次ページに続く**)

表 5–5 (**続き**) CDE **ヘッダ・ファイル**

ファイル名	**機能**
カスタム・ウィジェット (libdtwidget.exe **に記述**)	
DT/COMBOBOX.H	コンボ・ボックスのウィジェット用
DT/EDITOR.H	エディタのウィジェット用
DT/MENUBUTTON.H	メニュー・ボタンのウィジェット用
DT/SPINBOX.H	スピン・ボックスのウィジェット用

5.10 CDE サンプル・プログラム

New Desktop には CDE サンプル・プログラムが用意されており，表 5–6 で説明しています。サンプル・プログラムには， New Desktop で提供される各種 CDE API やその他のプログラミング・リソースの使用法が示されています。各サンプル・ディレクトリには README. ファイルが入っています。これはサンプル・プログラムと，そのディレクトリ用のサンプル・プログラムを構築するために利用できるコマンド・ファイル (*nnnn.com*) について説明しているファイルです。

最上位のサンプル・ディレクトリへは，次の例のように CDE$EXAMPLES 論理名で参照することができます。

```
$ DIR CDE$EXAMPLES
Directory CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[EXAMPLES]

 DTACTION.DIR;1      DTDTS.DIR;1         DTHELP.DIR;1
 DTSCREEN.DIR;1      DTSESSION.DIR;1     DTWIDGET.DIR;1
 DTWSM.DIR;1
```

以上のサンプル・プログラム用のヘッダ・ファイルは，次の形式で組み込まれています。

```
#include <DT/filename.H>
```

ここで DT は， DECW$INCLUDE として定義された論理名です。

表 5–6 CDE **サンプル・プログラム**

プログラム名	**用途**
DTACTION	あるファイルに対してアクションを実行する，アクション API の使用法を示すデモ・プログラムです。アプリケーションは， 2 つのテキスト入力フィールドを表示します。最初のフィールドにアクション名を入力し，2 番目のフィールドにアクションを実行する対象となるファイル名を入力して，[RETURN]キーを押します。
DTDTS	Dts データ表示 API の使用法を教えるプログラムで，データ型，アイコン名，およびプログラムに各ファイルが渡した対応アクションを表示します。ファイルの対応アクションの実行には， dtaction クライアントを使用することができます。
DTHELP	CDE ヘルプ・システム Helptag 言語の使用法および CDE ヘルプ・ファイルの作成方法を教えるプログラムで，コンパイルしたヘルプ・ファイル (HELPDEMO.SDL) は，ヘルプ・ビューアで表示することができます。
DTSCREEN	スクリーン・セーバ API のサンプル・プログラム (SCREENSAVER.EXE) が入っています。これは， DT スクリーン・セーバ API を使用した単純なスクリーン・セーバの例で，デスクトップの全ユーザまたはご自分のセッションでこのスクリーン・セーバを利用可能にする手法を教えます。(あるいは， New Desktop に用意されているスクリーン・セーバ集から 1 つ選んで，デスクトップ・セッションで使用することもできます。これらのスクリーン・セーバは，スタイル・マネージャの[スクリーンセーバ]ダイアログからプレビューしたり，選択することができます。)
DTSESSION	セッションのメカニズムと API を示すプログラムです。 SESSION.EXE プログラムは， DtSession API を使用して Dt Session 管理プロトコルをサポートするアプリケーションの一例です。このアプリケーションでは，セッション終了時に現在の状態 (切り替えボタンの値) が保存されます。セッションが再開されると切り替えボタンの状態が復元されます。保存および復元についての詳細は，本書の第 5.3 節を参照してください。
DTWIDGET	ウィジェット・ライブラリのデモが入っています。 CONTROLS.EXE プログラムでは DtSpinBox， DtComboBox， DtMenuButton の各制御，EDITOR.EXE プログラムでは DtEditor ウィジェットのデモを実行します。
DTWSM	ワークスペース・マネージャ API のデモが入っています。 OCCUPY.EXE プログラムは CDE ワークスペース内にアプリケーションが存在するかどうかの問い合わせと設定の方法を紹介します。 WSINFO.EXE プログラムは，アプリケーションの現在のワークスペースの属性情報を問い合わせる方法を紹介します。

5.11 CDE プログラミング関連ドキュメント

CDE プログラミング関連ドキュメントには，コンテキスト・ヘルプ付きの CDE ヘルプ・システム，オンライン CDE ドキュメント，オンライン・リファレンス・ページ (マニュアル・ページとも呼ばれる) などがあります。印刷版 CDE ドキュメントも用意されています。

5.11.1 CDE プログラミング関連ドキュメント

次の CDE プログラミング関連ドキュメントがオンラインで用意されています。

- 『共通デスクトップ環境: プログラマ概要』
- 『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド』
- 『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド (ヘルプ・システム編)』
- 『共通デスクトップ環境: プログラマーズ・ガイド (国際化対応編)』
- 『共通デスクトップ環境: スタイル・ガイド』

これらのドキュメントへのアクセス，または印刷版の取り寄せ方法については，表 1–2 を参照してください。

5.11.2 リファレンス・ページ

CDE リファレンス・ページ (マニュアル・ページ) は，インストレーション時のオプションとしてキットに付属しています。なお，リファレンス・ページに記述されているコマンドの中には， New Desktop ではまだ実現されていないものがあります。

リファレンス・ページはいくつかの章に分かれています。 OpenVMS Alpha システムでは表 5–7 のように，セクションを表すファイル拡張子が付いています。

表 5–7 **リファレンス・ページの各章**

章番号	**内容**	**ファイルの拡張子**[1]
1	アプリケーション	*filename*.1
3	ライブラリ/プログラミング	*filename*.3
4	プログラミング	*filename*.4
5	ファイル・フォーマットを含む	*filename*.5

[1] リファレンス・ページの第 2 章 (.2) は CDE システム・コールについて説明していますが， New Desktop ではまだ実現されていません。

リファレンス・ページにアクセスする方法については，表 1–2 を参照してください。

A

New Desktop と CDE との相違

本付録では， OpenVMS Alpha の New Desktop と UNIX システムの CDE との最も大きな相違点について説明します。 OpenVMS Alpha に組み込まれていないいくつかの機能を除いて， New Desktop では CDE と同様の外観を実現しています (表 5–1 を参照)。

共通する構成要素間の相違点は，主としてオペレーティング・システムの相違によるものです。たとえば，ファイル名の指定が異なっていますし， New Desktop では環境変数ではなく論理名を使用しているなどです。

A.1 全般的な相違

ファイル名は必ず OpenVMS のファイル指定方式で表示され，また受け付けられます。ただし， UNIX パス指定も New Desktop のあらゆるアプリケーションの入力として使用することができます。たとえば/sys$manager/login.com は，SYS$MANAGER:LOGIN.COM に相当します。

いくつかの CDE ファイルはシンボリック・リンクの使用によって， UNIX システムの複数の場所に現れます。 New Desktop では，ファイルは 1 ヶ所にしか現れません。アプリケーション専用のディレクトリ階層構造に置かれたアプリケーション専用ファイルに対するシンボリック・リンクをシステム・ディレクトリに作成する dtappintegrate アプリケーションはありません。新規アプリケーション・ファイルは， CDE$USER_DEFAULTS:[*...]システム・ディレクトリに置かれる必要があります。

OpenVMS のファイル名は大文字と小文字を区別しません。ファイル名を別のコンテキストで使用する場合，たとえばアクションとアクション (stub)・ファイルとの

対応付けに使用する場合や，パレットや背景の記述リソース名として使用する場合には，小文字で指定しなければなりません。

A.2 ログイン・マネージャの相違

New Desktop のログイン・プロセスのユーザ・インタフェースは CDE のものと基本的に同じですが， OpenVMS Alpha のログイン・マネージャ dtlogin の仕様は異なっています。主な相違は次のとおりです。

- OpenVMS のログイン・マネージャは， 1 つの X ディスプレイしか管理することができません。ログイン・マネージャは，ディスプレイを管理するための異なるサブプロセスを作成せず，ログイン・マネージャのプロセスはユーザがログインすると終了します。
- New Desktop は，セッションを実行する代替システムを選択するための chooser アプリケーションを提供していません。
- New Desktop は，ログイン・マネージャのイメージを提供していません。代わりに，共有可能イメージである CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[BIN]DECW$LOGINOUT.EXE が， OpenVMS のログイン・プロセスである SYS$SYSTEM:DECW$LOGINOUT.EXE により，動的に起動されます。 DECwindows あるいは New Desktop のログイン・プロセスは， RUN SYS$SYSTEM:DECW$STARTLOGIN コマンドにより起動されます。
- Xsetup， Xstartup， Xrese， dtprofile などの CDE で使用されるいくつかのスクリプトは， New Desktop ではサポートされていません。代わりに， SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM と SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_SERVER_SETUP.COM の各プロシージャにカスタム構成情報が定義されています。
- New Desktop では，システム全体で有効な環境変数は論理名としてサポートされます。ただし， CDE 環境変数のうちのユーザ変数 (XMUSER*と DTUSER*) はサポートされていません。
- ログイン時に「New Desktop を起動中です。」と表示するログインへの移行アプリケーションである dthello は， Xsession スクリプトからでなく dtlogin から直接に起動されます。コマンド行引数を dthello に渡すことはできません。

- New Desktop ではログイン用ログ・ファイルは，/usr/dt/config リソース・ファイルの Dtlogin.errorLogFile リソースではなく，SYS$MANAGER:DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM ファイル (第 3.5 節を参照) を使用して，オプションで有効とすることができます。
- New Desktop では，セッション起動用ログ・ファイルは$HOME/.dt/startlog ではなく， SYS$LOGIN:DECW$SM.LOG です。

New Desktop のログイン・プロセスは XSESSION.COM ファイルを使用して dtsession プロセスを起動し， New Desktop では特殊な起動コマンド・ファイルの処理用に CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[BIN.XSESSION_D]ディレクトリを使用します。さらに， New Desktop は各国語対応バージョンを含む標準リソース・ファイル・セットをサポートしています。

A.3 ファイル・マネージャの相違

OpenVMS のファイル・マネージャは，次の部分で UNIX のものとは異なっています。

- ファイルのバージョン

  UNIX システムにはファイルのバージョンはありません。 OpenVMS Alpha システムでは，ファイルの全バージョンを表示するか，最新バージョンだけを表示するかを選択することができます。ファイルを選択してから[選択済み]メニューの[パージ]を選択すると，ファイルをパージすることができます。どのバージョンのファイルを選択しても，そのファイルの全バージョンがパージされます。

- [保護]ダイアログ・ボックス

  OpenVMS システムでは付加的な保護コードが利用可能です。

- ディレクトリの更新

  UNIX システムでは変更されたディレクトリは自動的に更新されます。OpenVMS Alpha システムでは，ファイル・マネージャでファイルの移動，削除，コピーなどの操作を行うことによってディレクトリを変更した場合，ディレクトリの表示が自動的に更新されます。ディレクトリの変更が別のプロセス

によるものであるかどうかを確認するには，[表示]メニューの[更新]オプションを選択します。

- OpenVMS Alpha システムでは，ルート・ディレクトリに相当するものはありません。

  1 台のディスクあるいは論理名で定義された論理ディスクから別のディスクに移動することはできません。

- 追加プロセスの使用制限

  UNIX のファイル・マネージャでは，付加的な子プロセスを広範に使用します。 OpenVMS では，特定のファイル・システム操作のためにだけ付加的なプロセスを使用します。このため，ディレクトリの更新などの特定の操作では，処理が完了するまで待たないと別の処理を行うことができません。

A.4 印刷に関する相違

New Desktop の印刷機能は CDE の印刷機能とは異なっています。 CDE の現在の印刷機能は，基本部分で UNIX のラインプリンタ・コマンド lp(1) とラインプリンタ・デーモン lpd(8) に大きく依存しています。 CDE の印刷環境は標準化されていないため，この種のオペレーティング・システム固有の仕様を OpenVMS Alpha に移植するのは実用的ではありません。

OpenVMS Alpha では， New Desktop の印刷環境は[印刷ダイアログ]という新しいアプリケーションで構成されています。このアプリケーションは， UIL （ユーザ・インタフェース言語）と DECwindows 印刷ウィジェット (Motif ライブラリの DECWindows 拡張機能の一部) を使用して， OpenVMS Alpha の印刷機能を起動できるようになっています。

New Desktop の仕様は異なりますが，印刷機能の使い勝手が CDE を実行する UNIX で印刷する場合と大きく違わないよう， OpenVMS Alpha の印刷機能の CDE への統合を試みました。 OpenVMS Alpha でも，ファイル・アイコンをドラッグしてプリンタ・アイコンにドロップするか，ファイルを選択して[印刷ダイアログ]ボックスを選択することによって印刷ジョブを開始し，プリンタをデスクトップ上のオブジェクトとして管理することができるようになりました。

[印刷ダイアログ]の実行可能ファイルは，次のディレクトリに他の New Desktop 実行可能ファイルとともに置かれています。

```
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[BIN]PRINTDIALOG.EXE
```

A.5 メッセージ交換の相違

New Desktop のメッセージ交換機能は CDE の機能よりも制約があります。 UNIX の CDE で同期化している一部の動作は， New Desktop では同期化していなかったり，ユーザによる介入が必要な場合があります。この制約は次の場合に顕著に現れます。

- New Desktop では，フロント・パネルの通話中ランプと砂時計型カーソルとのタイミングがずれる場合があります。
- 第 A.3 節の説明のように，ファイルが自動的に更新されない場合があります。
- [アクション作成]アプリケーションから[アイコン・エディタ]を起動してアイコン・ファイルを編集し，[アイコン・エディタ]を終了した場合に，編集結果が表示されているアイコンに自動的に表示されません。 UNIX の CDE の場合は表示されます (第 4.1.6 項を参照)。
- New Desktop では，テキスト・エディタ dtpad はスタンドアローン・モードでのみ実行できます。

A.6 プロセス起動の相違

New Desktop で起動されるプロセスの大部分は，アクションに対応する実行文字列 (EXEC_STRING) とともにアクションを使用して起動されます。 New Desktop では，これらの EXEC_STRING は 1 つの有効な DCL コマンドであることが必要です。ファイル名で始まる文字列は，フォーリン・コマンド行に自動的に変換されます。

A.7 New Desktop と CDE のディレクトリ構造

この節では，New Desktop のディレクトリ構造と CDE ディレクトリ構造との相違について説明します。

CDE は UNIX システム用に開発されたもので，New Desktop でオンラインで用意されている CDE 関連ドキュメントは，UNIX パス指定を使用します。

A.7.1 システムのデフォルトの構成ディレクトリ

表 A–1 は，New Desktop のデフォルト構成ディレクトリに対応する CDE パス指定をまとめたものです。CDE ファイル・システムあるいはディレクトリ階層構造についての詳細は，マニュアル・ページ・ビューアにより表示できる dtfilsys.5 リファレンス・ページを参照してください。

[マニュアル・ページ・ビューア]はアプリケーション・マネージャの[デスクトップ・アプリケーション]グループにあります。dtfilsys.5 を表示させるには，マニュアル・ページ・ビューアを起動して，表示されるプロンプトで dtfilsys.5 を入力してください。

表 A–1 システムのデフォルトの構成ディレクトリ

OpenVMS のディレクトリ名	UNIX のパス指定
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[000000]	/usr/dt
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APP-DEFAULTS.*lang*[1]][2]	/usr/dt/app-defaults/<lang>
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APPCONFIG]	/usr/dt/appconfig

[1]OpenVMS のディレクトリ名やファイル名の*lang* (または%L) の値，ロケール名の点 (.) やアット・マーク (@) は，下線 (_) に変換されます。たとえば，UNIX の ja_JP.deckanji は OpenVMS の JA_JP_DECKANJI のことです。

[2] UNIX のアプリケーション用デフォルト・ファイルにはファイル拡張子がありません。OpenVMS では[APP-DEFAULTS]ディレクトリの各アプリケーション用デフォルト・ファイルには，ファイル拡張子.DAT が付いています。たとえば，/usr/dt/app-defaults/C/Dtpad は New Desktop では CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APP-DEFAULTS.C]DTPAD.DAT です。(これは構成ディレクトリ構造にあるリソース・ファイルには適用されません。)

(次ページに続く)

表 A–1 (続き) システムのデフォルトの構成ディレクトリ

OpenVMS のディレクトリ名	UNIX のパス指定
CDE$SYSTEM_DEFAULTS: -[APPCONFIG.APPMANAGER.*lang*[1]]	/usr/dt/appconfig/appmanager
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APPCONFIG.HELP.*lang*[1]]	/usr/dt/appconfig/help
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APPCONFIG.ICONS.*lang*[1]][3]	/usr/dt/appconfig/icons
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[APPCONFIG.TYPES.*lang*[1]]	/usr/dt/appconfig/types
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[BACKDROPS]	/usr/dt/backdrops[4]
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[BIN]	/usr/dt/bin
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG]	/usr/dt/config
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.*lang*[1]]	/usr/dt/config/<lang>
—	/usr/dt/dthelp[5]
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[EXAMPLES]	/usr/dt/examples[4]
—	/usr/dt/include[5]
DECW$INCLUDE:, DT:	/usr/dt/include/Dt[4]
SYS$MANAGER:CDE$STARTUP.COM	/usr/dt/install/dec/start.cde.dec
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[LIB]	/usr/dt/lib
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[MAN]	/usr/dt/man[4]
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[PALETTES]	/usr/dt/palettes[4]
—	/usr/dt/share[5]

[1]OpenVMS のディレクトリ名やファイル名の*lang* (または%L) の値，ロケール名の点 (.) やアット・マーク (@) は，下線 (_) に変換されます。たとえば， UNIX の ja_JP.deckanji は OpenVMS の JA_JP_DECKANJI のことです。

[3]ファイル名に複数のコンマ (.) がある，アイコンのピックスマップおよびビットマップのファイルは，OpenVMS ファイル指定に変換されています。ファイル名の 2 番目の点は， New Desktop では下線になります。たとえば， sysinfo.l.pm は SYSINFO.L_PM になります。

[4] UNIX システムでは backdrop ,examples, include, man, palettes の各ディレクトリのファイルのパス指定は，共有ディレクトリにリンク付けされます。 OpenVMS Alpha システムでは，上記と同じファイル用のディレクトリには実際のファイルが入っています。

[5]New Desktop にはこれに対応するディレクトリはありません。

A.7.2 ノードとクラスタの構成ディレクトリ

表 A–2 は，システム全体で有効となるようにカスタマイズしたリソース，アプリケーション・デフォルト，構成の各ファイルを入れるシステム管理者が作成するディレクトリをまとめたものです。対応する UNIX パス指定も記載してあります。

表 A–2 ノードとクラスタの構成ディレクトリ

OpenVMS のディレクトリ名	UNIX のパス指定
CDE$USER_DEFAULTS:[000000]	/etc/dt
CDE$USER_DEFAULTS:[APPCONFIG]	/etc/dt/appconfig
CDE$USER_DEFAULTS: - [APPCONFIG.APPMANAGER.*lang*]	/etc/dt/appconfig/appmanager/<lang>
CDE$USER_DEFAULTS:[APPCONFIG.HELP.*lang*]	/etc/dt/appconfig/help/<lang>
CDE$USER_DEFAULTS:[APPCONFIG.ICONS.*lang*]	/etc/dt/appconfig/icons/<lang>
CDE$USER_DEFAULTS:[APPCONFIG.TYPES.*lang*]	/etc/dt/appconfig/types/<lang>
CDE$USER_DEFAULTS:[BACKDROPS]	/etc/dt/backdrops
CDE$USER_DEFAULTS:[CONFIG]	/etc/dt/config
CDE$USER_DEFAULTS:[CONFIG.*lang*]	/etc/dt/config/<lang>
CDE$USER_DEFAULTS:[PALETTES]	/etc/dt/palettes

A.7.3 ユーザの構成ディレクトリ

表 A–3 は，個々のユーザがカスタマイズ設定用に使用するディレクトリをまとめたものです。

表 A–3 ユーザ構成ディレクトリ

OpenVMS のディレクトリ名	UNIX のパス指定
disk$:[*user*.DT]	$HOME/.dt
disk$:[*user*.DT.APPMANAGER]	$HOME/.dt/appmanager
disk$:[*user*.DT.HELP]	$HOME/.dt/help
disk$:[*user*.DT.ICONS]	$HOME/.dt/icons
disk$:[*user*.DT.PALETTES]	$HOME/.dt/palettes
disk$:[*user*.DT.SESSIONS]	$HOME/.dt/sessions
disk$:[*user*.DT.TMP]	$HOME/.dt/tmp
disk$:[*user*.DT.TYPES]	$HOME/.dt/types

A.7.4 フォント・ディレクトリ

表 A–4 は， New Desktop のフォント・ディレクトリとこれに対応する UNIX のパス指定をまとめたものです。

表 A–4 フォント・ディレクトリ

OpenVMS のディレクトリ名	UNIX のパス指定
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.XFONTS.JA_JP_DECKANJI.100DPI]	/usr/dt/config/xfonts/ja_JP.deckanji/100dpi
CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.XFONTS.JA_JP_DECKANJI.75DPI]	/usr/dt/config/xfonts/ja_JP.deckanji/75dpi

B

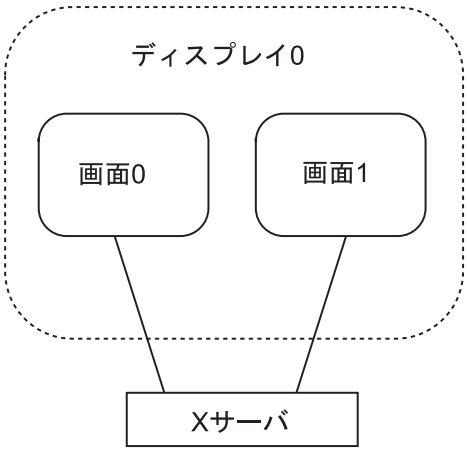
複数画面のサポート

この付録では， New Desktop でサポートしている複数画面について，また複数画面を使用できるようにするために必要な作業について説明します。

B.1 1 台のディスプレイ装置上の複数画面について

New Desktop では 1 台の X ディスプレイ装置に図 B–1 のような複数画面がサポートされています。この構成はデュアル・ヘッド・ディスプレイと呼ばれることがあります。

図 B–1 複数画面を持つ 1 台の X ディスプレイ装置



ZK-8679A-GE

この構成では X サーバが扱う各画面はデスクトップです。フロント・パネルは 1 つのデスクトップ (通常，ディスプレイ 0 の画面 0) にのみ表示されます。デスクトップの左右の外側にポインタを移動することによって，ポインタを画面から画面に移動することができます。ファイル・マネージャあるいはアプリケーション・マネージャ (dtfile) がその画面で起動されている場合にかぎり，その画面のデスクトップにアイコンを置くことができます。アイコンは 1 画面からドラッグして，別の画面にはドロップすることはできません。

ウィンドウ・マネージャの構成ファイルに特定の機能を追加することができ，これにより複数画面をより簡単かつ高速に構成したり，操作したりできるようになります。これらの機能 (第 B.2 節で説明) により，あらゆる画面のワークスペースの変更，作成が可能になります。

複数画面構成では， 1 つの画面がデフォルト画面または現在画面となります。アプリケーション・マネージャの[デスクトップ・ツール]グループの[デフォルト画面の設定]で，デフォルト画面を設定することができます。設定後，フロント・パネルあるいはファイル・マネージャのいずれか一方から起動するアプリケーションはすべて，デフォルト画面で起動されます。

注意

ファイル・マネージャ，アプリケーション・マネージャ，ごみ箱は，実際は同じ dtfile **アプリケーションから生成されるウィンドウです。使用中のセッションでは，このうち** 1 **種類の** dtfile **アプリケーションだけが使用中になります。ファイル・マネージャ，アプリケーション・マネージャ，ごみ箱のいずれかを最初に起動すると，その後これらのツールを呼び出す画面が定義され，常に同じ画面に呼び出されるようになります。**

B.2 ウィンドウ・マネージャの複数画面用機能

複数画面を使用するために必要なウィンドウ・マネージャの機能について，表 B–1 で説明しています。

表 B–1 ウィンドウ・マネージャの複数画面用の機能

機能	説明
f.screen [next | prev | back | *screen_number*]	ポインタを特定の画面番号の画面や次の画面 (nest), 1 つ前の画面 (prev), 前回使用した画面 (back) に移動します。この機能の引数は 1 種類だけしか指定できません。*screen_number*引数は，ポインタの移動先となる画面を表します。画面番号は画面 0 から始まります。 next や prev はポインタを管理対象となっている画面に移動します (管理対象となっていない画面はとばします)。 back を指定すると，ポインタを前回使用した画面に戻します。
f.create_workspace	画面に新規ワークスペースを作成します。新規ワークスペース名は自動的に生成され ws_*n*という形式で，*n*は整数です。
f.delete_workspace	現在のワークスペースを削除します。このワークスペースだけに常駐しているウィンドウは，次のワークスペースへ移動します。最後のワークスペースを削除する場合は，ウィンドウは最初のワークスペースへ移動します。
f.goto_workspace *workspace-name*	ワークスペース・マネージャが指定した名前のワークスペースに切り替えるようにします。指定した名前のワークスペースが存在しない場合は，何も起こりません。ワークスペースを追加したり削除したりすると，この機能に動的に影響します。
f.next_workspace	ワークスペース・マネージャが画面上の次のワークスペースに切り替えるようにします。最後のワークスペースが現在使用中の場合には，最初のワークスペースに切り替えます。
f.prev_workspace	ワークスペース・マネージャが画面上の前のワークスペースに切り替えるようにします。最初のワークスペースが現在使用中の場合には，最後のワークスペースに切り替えます。
f.action	指定したアクションをその画面に呼び出すようにします。

B.3 ウィンドウ・マネージャを複数画面管理用に構成する

ウィンドウ・マネージャの構成ファイルを，システム全体で，または 1 ユーザが使用できるように複数画面管理用に編集することができます。複数画面システムの全ユーザが使用できるようにカスタマイズしたワークスペース・メニュー (ルート・ウィンドウ・メニューとも言う) をセットアップするには，システムのウィン

ドウ・マネージャのデフォルト構成ファイルをユーザのデフォルト・ディレクトリにコピーして，コピーしたファイルを次の例のように変更してください。

```
$ COPY CDE$SYSTEM_DEFAULTS:[CONFIG.JA_JP_*]SYS.DTWMRC  -
_$ CDE$USER_DEFAULTS:[CONFIG.JA_JP_*]SYS.DTWMRC
$ EDIT CDE$USER_DEFAULTS:[CONFIG.JA_JP_*]SYS.DTWMRC
```

1 ユーザ用にカスタマイズしたワークスペース・メニューをセットアップするには，ユーザのウィンドウ・マネージャのデフォルト構成ファイルをdisk$:[user.DT]DTWMRC.DAT にコピーして，コピーしたファイルを次の例のように変更してください。

```
$ COPY CDE$USER_DEFAULTS:[CONFIG.JA_JP_*]SYS.DTWMRC -
_$ disk$:[user.DT]DTWMRC.DAT
$ EDIT disk$:[user.DT]DTWMRC.DAT
```

標準ではワークスペース・メニューは，次のソース・コードに示されているように SYS.DTWMRC に定義されています。

```
###
# Root Menu Description
###

Menu DtRootMenu
{
   "ワークスペース・メニュー"                f.title
   "奥のウィンドウを手前へ"                  f.circle_up
   "手前のウィンドウを奥へ"                  f.circle_down
   "再表示"                                  f.refresh
   "フロントパネルのアイコン化／復元"        f.toggle_frontpanel
   no-label                                  f.separator
   "ワークスペース・マネージャの再起動..."   f.restart
   no-label                                  f.separator
   "ログアウト..."                           f.action ExitSession
}
```

次の例では，複数画面構成で使用するようにカスタマイズした後のワークスペース・メニューの定義がどのようになるかを示しています。

```
###
# Root Menu Description
###

Menu DtRootMenu
{
   "ワークスペース・メニュー"                f.title
   "奥のウィンドウを手前へ"                  f.circle_up
   "手前のウィンドウを奥へ"                  f.circle_down
   "再表示"                                  f.refresh
   "フロントパネルのアイコン化／復元"        f.toggle_frontpanel
   no-label                                  f.separator
   "次の画面"                                f.screen next
   "前の画面"                                f.screen prev
   "ワークスペースの作成"                    f.create_workspace
   "次のワークスペース"                      f.next_workspace
   "前のワークスペース"                      f.prev_workspace
   "ワークスペースの削除"                    f.delete_workspace
   no-label                                  f.separator
   "スタイル・マネージャ"                    f.action dtstyle
   "ファイル・マネージャ"                    f.action DtfileHome
   no-label                                  f.separator
   "ワークスペース・マネージャの再起動..."    f.restart
   no-label                                  f.separator
   "ログアウト..."                           f.action ExitSession
}
```

B.4 複数画面の場合のスタイル・マネージャの使用

スタイル・マネージャにより，デスクトップの外観に関する種々の属性をカスタマイズすることができます。複数画面でスタイル・マネージャを使用する場合は，カラーと背景の 2 つのオプションは各画面の各ワークスペース毎に設定する必要があります。その他のオプションは全画面の全ワークスペースに適用されます。

スタイル・マネージャは一度に複数使用することはできません。変更は，スタイル・マネージャを実行しているワークスペースと画面に適用されます。

最初は，デフォルト画面以外のすべての画面には，デフォルトの X サーバのカラーマップがインストールされて，模様が入ったグレーの背景が表示されます。ここで，スタイル・マネージャの[カラー]ダイアログ・ボックスのカラー・パレットからどれでも選択して，画面の最初のワークスペースの色を設定することができます。その画面にワークスペースを追加作成する場合は，各ワークスペース毎にスタイル・マネージャからカラー・パレットを選択する必要があります。背景もこれと同様に機能します。

B.5 アプリケーションを特定の画面用にカスタマイズする

スタイル・マネージャでカスタマイズできる画面特有の属性に加え，コマンド行のオプションと画面固有のリソースを使用することによって，特定の画面用にアプリケーションをカスタマイズすることができます。

B.5.1 コマンド行のオプションの使用

ウィンドウ・マネージャは，複数画面の管理用にコマンド行の次のオプションをサポートしています。

- -multiscreen

  標準で複数画面管理がオンに設定されています。このオプションを使用してオフにすることができます。

- -screen [*screen-name* ...]

  このオプションにより，標準の画面番号の代わりに使用する画面名リストを指定することができます。指定後，画面固有のリソース設定時に空白で区切った画面名を指定することができます。標準では画面名は番号で，画面 0 はデフォルト画面を表します。

次の例では画面固有のリソース名を使用して 2 番目の画面 "screen1"を指定し，その画面にアイコン・ボックスを表示します。

```
$ MCR CDE$PATH:DTWM -screens "screen0" "screen1" -xrm -
_$ "*screen1*useIconBox: true"
```

以上のオプションは，ウィンドウ・マネージャで複数画面を管理する場合には不要です。

New Desktop に組み込まれている全 CDE アプリケーションは，次のコマンド行オプションをサポートしています。

- -display [node:display*x*[.screen*x*]]

  このオプションはアプリケーションを表示する画面を指定します。オプションの値に画面番号を指定することによって指定でき，標準では画面番号は 0 から始まります。

- -xrm "*resource_id:resource_value*"

  このオプションは X リソース・マネージャのオプションで，コマンド行によってアプリケーションの画面特有のカスタマイズ設定ができます。リソースの指定で画面番号 (または名前) を指定することによって設定することができます。

B.5.2 特定の画面またはワークスペース用のリソースの指定

画面固有のリソースは，特定画面に表示されるクライアントだけに適用されるウィンドウ・マネージャのリソースです。ワークスペース固有のリソースは，特定ワークスペースに表示されるクライアントだけに適用されるウィンドウ・マネージャのリソースです。

画面固有のリソースの構文は次のとおりです。

**screen_name*resource_id*: *resource_value*

標準では，画面番号が*screen_name*として使用されます。

次の例では，スタイル・マネージャが画面 0 の全クライアント用のカラー・パレット・リソースを指定します。

```
*0*ColorPalette: palette_name
```

ワークスペース専用リソースの構文は次のとおりです。

Dtwm[**screen_name*]* *workspace_id*resource_id*: *resource_value*

次の例では，ワークスペース wk1 にワークスペースのタイトルを指定します。このタイトルは，フロントパネルのワークスペース wk1 を表すワークスペース・ボタンに表示される値です。

```
Dtwm*0*ws1*title: MYWORKSPACE
```

C

CDE の API ルーチン

この付録では， CDE API の全ルーチンを，共有ライブラリ (論理名 SYS$LIBRARY が指す) ごと，各共有ライブラリのヘッダ・ファイルごとに，一覧表にまとめてあります。各ルーチンはそれぞれのヘッダ・ファイルに定義されています。ライブラリの各ルーチンはそれぞれ別の表にまとめてあります。

New Desktop には組み込まれていない CDE の API ルーチンが少数あり，その場合は各表に脚注が付いています。

パラメータと各ルーチンの使用法についての詳細は，それぞれのマニュアル・ページを参照してください。マニュアル・ページは，[デスクトップ・アプリケーション]グループの[マニュアル・ページ・ビューア]を選択するか，次の例のようなコマンド行を実行することによって表示することができます。

```
$ DTHELPVIEW == "$CDE$PATH:DTHELPVIEW"
$ DTHELPVIEW "-manPage" DtInitialize
```

C.1 CDE のデスクトップ・サービス API ルーチン

CDE$LIBDTSVC.EXE に入っている CDE のデスクトップ・サービス API ルーチンを表 C–1 にまとめてあります。

表 C–1 CDE$LIBDTSVC.EXE に入っている CDE のデスクトップ・サービス API ルーチン

API	ヘッダ・ファイル	ルーチン
API の初期化	Dt.h	DtInitialize
		DtAppInitialize
アクションの処理	Action.h	DtActionExists
		DtActionLabel
		DtActionDescription
		DtDbReloadNotify[1]
		DtDbLoad
		DtActionInvoke
		DtActionIcon
データ型指定	Dts.h	DtDtsLoadDataTypes
		DtDtsRelease
		DtDtsDataToDataType
		DtDtsFileToDataType
		DtDtsFileToAttributeValue
		DtDtsFileToAttributeList
		DtDtsBufferToDataType[1]
		DtDtsBufferToAttributeValue[1]
		DtDtsBufferToAttributeList[1]
		DtDtsDataTypeToAttributeValue
		DtDtsDataTypeToAttributeList
		DtDtsFreeDataTypeNames
		DtDtsFreeAttributeList
		DtDtsFreeAttributeValue
		DtDtsFreeDataType
		DtDtsDataTypeNames
		DtDtsFindAttribute

[1] New Desktop には組み込まれていません。

(次ページに続く)

表 C–1 (続き) CDE$LIBDTSVC.EXE に入っている CDE のデスクトップ・サービス API ルーチン

API	ヘッダ・ファイル	ルーチン
		DtDtsSetDataType
		DtDtsDataTypeIsAction
ドラッグ・ドロップ機能	Dnd.h	DtDndCreateSourceIcon
		DtDndDragStart
		DtDndVaDragStart
		DtDndDropRegister
		DtDndVaDropRegister
		DtDndDropUnregister
ワークスペース・マネージャ	Wsm.h	DtWsmAddWorkspaceFunctions
		DtWsmRemoveWorkspaceFunctions
		DtWsmGetWorkspaceInfo
		DtWsmFreeWorkspaceInfo
		DtWsmGetWorkspaceList
		DtWsmGetCurrentWorkspace
		DtWsmAddCurrentWorkspaceCallback[1]
		DtWsmRemoveWorkspaceCallback[1]
		DtWsmSetCurrentWorkspace[1]
		DtWsmGetWorkspacesOccupied
		DtWsmSetWorkspacesOccupied
		DtWsmOccupyAllWorkspaces
		DtWsmAddWorkspaceModifiedCallback[1]
		DtWsmGetCurrentBackdropWindow
セッションの保存および復元機能	Session.h	DtSessionSavePath
		DtSessionRestorePath

[1] New Desktop には組み込まれていません。

(次ページに続く)

表 C–1 (続き) CDE$LIBDTSVC.EXE に入っている CDE のデスクトップ・サービス API ルーチン

API	ヘッダ・ファイル	ルーチン
スクリーン・セーバ	Saver.h	DtSaverGetWindows

C.2 CDE のヘルプ・ウィジェット支援ルーチン

CDE$LIBDTHELP に入っている CDE のヘルプ・ウィジェット支援ルーチンを表 C–2 にまとめてあります。

表 C–2 CDE$LIBDTHELP.EXE に入っている CDE のヘルプ・ウィジェット・ルーチン

API	ヘッダ・ファイル	ルーチン
ヘルプ・ユーティリティ・ルーチン	Help.h	DtHelpSetCatalogName [1]
		DtHelpReturnSelectedWidgetId
一般のヘルプ・ダイアログ支援	HelpDialog.h	DtCreateHelpDialog
クィック・ヘルプ・ダイアログ支援	HelpQuickD.h	DtCreateHelpQuickDialog
		DtHelpQuickDialogGetChild

[1]New Desktop には組み込まれていません。

C.3 CDE のカスタム・ウィジェット支援ルーチン

CDE$LIBDTWIDGET に入っている CDE のカスタム・ウィジェット支援ルーチンを表 C–3 にまとめてあります。

表 C–3 CDE$LIBDTWIDGET.EXE に入っている CDE カスタム・ウィジェット・ルーチン

API	ヘッダ・ファイル	ルーチン
DtSpinBox ウィジェット支援	SpinBox.h	DtCreateSpinBox
		DtSpinBoxAddItem
		DtSpinBoxDeletePos
		DtSpinBoxSetItem
DtComboBox ウィジェット支援	ComboBox.h	DtCreateComboBox
		DtComboBoxAddItem
		DtComboBoxDeletePos
		DtComboBoxSetItem
		DtComboBoxSelectItem
DtMenuButton ウィジェット支援	MenuButton.h	DtCreateMenuButton
DtEditor テキスト・エディタ・ウィジェット支援	Editor.h	DtCreateEditor
		DtEditorAppend
		DtEditorAppendFromFile
		DtEditorChange
		DtEditorCheckForUnsavedChanges
		DtEditorClearSelection
		DtEditorCopyToClipboard
		DtEditorCutToClipboard
		DtEditorClearSelection
		DtEditorCopyToClipboard
		DtEditorCutToClipboard
		DtEditorDeleteSelection
		DtEditorDeselect
		DtEditorDisableRedisplay
		DtEditorEnableRedisplay

(次ページに続く)

表 C–3 (続き) CDE$LIBDTWIDGET.EXE に入っている CDE カスタム・ウィジェット・ルーチン

API	ヘッダ・ファイル	ルーチン
		DtEditorFind
		DtEditorFormat
		DtEditorGetContents
		DtEditorGetInsertionPosition
		DtEditorGetLastPosition
		DtEditorGetMessageTextFieldID
		DtEditorGetSizeHints
		DtEditorGoToLine
		DtEditorInsert
		DtEditorInsertFromFile
		DtEditorInvokeFindChangeDialog
		DtEditorInvokeFormatDialog
		DtEditorInvokeSpellDialog[1]
		DtEditorPasteFromClipboard
		DtEditorReplace
		DtEditorReplaceFromFile
		DtEditorReset
		DtEditorSaveContentsToFile
		DtEditorSelectAll
		DtEditorSetContents
		DtEditorSetContentsFromFile
		DtEditorSetInsertionPosition
		DtEditorTraverseToEditor
		DtEditorUndoEdit

[1]New Desktop には組み込まれていません。

索引

A

API 1–8
CDE 1–8, 5–2
組み込まれていない 5–4
DECwindows Motif 1–8
アクション刷新 5–3
セッション・マネージャ 5–3
便利なドラッグ・ドロップ機能 5–3
ルーチン C–2
ワークスペース・マネージャ 5–3

B

Bookreader 1–7

C

CDE 1–1
OpenVMS 仕様と UNIX 仕様との相違 A–1
CDE$DETACHED_LOGICALS シンボル 3–33
CDE$PATH 論理名 4–4
CDE$SPAWN_PROCESSES しんぼる 3–33
CDE$STARTUP.COM コマンド・プロシージャ 3–1
CDE$SYSTEM_DEFAULTS 論理名 . . . 3–3, 3–4
CDE$USER_COMMON 論理名 3–6
CDE$USER_DEFAULTS 論理名 3–6
ディレクトリ構造 4–21
CDE$USER_SPECIFIC 論理名 3–6
CDE$LIBDTHELP.EXE 共有可能ライブラリ 5–2
CDE$LIBDTSVC.EXE 共有可能ライブラリ 5–2
CDE$LIBDTWIDGET.EXE 共有可能ライブラリ 5–2
CDE$LOG_PROCESSES シンボル . . . 3–33
Common Desktop Environment
CDE を参照

D

DECW$BOOKREADER
Bookreader を参照 1–7
DECW$CALENDAR
カレンダを参照
DECW$CLOCK
時計を参照
DECW$MAIL
メール・プログラムを参照
DECW$MESSAGEPANEL
エラー監視を参照
DECW$MWM_RC.DAT ファイル 3–19
DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM コマンド・プロシージャ 3–2, 3–20, 3–33
DECW$START_NEW_DESKTOP グローバル・シンボル 3–2
DECW$STARTUP.COM コマンド・プロシージャ 3–1
DECW$TERMINAL
漢字端末エミュレータを参照
DT.RESOURCES ファイル 3–9, 3–11, 3–12
dtaction
アクション・ユーティリティを参照

DTAPPSEARCHPATH 論理名 4–16
dtcalc
電卓を参照
dtcreate
アクション作成アプリケーションを参照
DTDATABASESEARCHPATH ファイルの検索パス 3–10
dtfile
アプリケーション・マネージャを参照
ごみ箱を参照
ファイル・マネージャを参照
dthelpprint
ヘルプを参照
DTHELPTAG.COM コマンド・プロシージャ 5–8
dthelpview
ヘルプ・ビューアを参照
dticon
アイコン・エディタを参照
dtpad
テキスト・エディタを参照
dtsession
セッション・マネージャを参照
dtstyle
スタイル・マネージャを参照
dtwm
フロントパネルを参照
ワークスペース・マネージャを参照
DTWM.DAT ファイル 3–19
DT 論理名 5–12

G

GENCAT ユーティリティ 4–15

H

HelpTag マークアップ言語 5–8

I

ICCCM 5–2
ICONV ユーティリティ 4–15
ID
識別子を参照
Inter-Client Communication Conventions Manuals
ICCCM を参照

K

Korn シェル 5–4

L

LOCALE ユーティリティ 4–15

M

MIME 5–4
Motif のリソース・マネージャ (Mrm) . . . 5–2
Multipurpose Internet Mail Extensions
MIME を参照

N

New Desktop
アーキテクチャ 1–2
サポートする標準 5–2
～の定義 1–2

P

PS フォーマット 1–8

S

SYS$PRINT 論理名
～の変更 3–14
SYS.DTWMRC ファイル 3–19
SYS.FONT リソース・ファイル 3–9
SYS.RESOURCES リソース・ファイル 3–9

T

ToolTalk メッセージ交換サービス 5–4

U

UIL コンパイラ 5–2

X

X11 R5 5–2
XSESSION.COM コマンド・プロシージャ A–3

ア

アイコン
　アクションと対応した 4–3
　個人ファイル 3–8
アイコン・エディタ 1–7, 2–9
　CDE との相違 A–5
　アクション作成からの起動 4–13
アーキテクチャ
　New Desktop を参照
アクション 3–10, 4–2
　stub ファイル 4–2
　アイコンの選択 4–7
　アイコンのヘルプ 4–7
　ウィンドウのサポート 4–7
　～起動 A–5
　サンプル・プログラム 5–5
　実行するためのコマンド行 4–3, 4–4, 4–8
　定義ファイル 4–2
　　例 4–2
　名 4–7
アクション・データベースと実行管理ユーティリティ
　アクション作成アプリケーションを参照
アクション・ユーティリティ 1–7
アクション作成アプリケーション 1–7, 4–1, 4–3
　概要 4–5
　引数の指定 4–5
アクション刷新 API
　API を参照
アクセス権のパターン
　セキュリティを参照
アプリケーション
　各アプリケーションの項目も参照のこと。
　DECwindows
　　起動 2–11
　New Desktop への統合 4–1, 4–19
　　[アクション作成]を使用 4–6
　　オプション 4–16
　　最小限の～ 4–1
　　推奨レベル 4–13
　他社のものの登録 4–19
　特定の画面用にカスタマイズする . . . B–6
　ユーザ
　　New Desktop 1–6
アプリケーション・グループ 2–4
　個人ディレクトリ 3–8
　作成 4–16
アプリケーション・ビルダ 5–4
アプリケーション・プログラミング・インタフェース
　API を参照
アプリケーション・マネージャ . . . 1–7, 2–4, B–2
アプリケーション統合サービス
　CDE 5–2
　　組み込まれていない 5–4
　DECwindows Motif 1–8
　New Desktop 1–8
アプリケーションの統合
　アプリケーションを参照。

イ

色
　パレットも参照のこと。
　New Desktop での使用法 3–22
　数の変更 3–24
　重複の回避 3–26
　動的な 3–22
色セット
　リソース 3–22

印刷 2–9
CDE との相違 A–4
印刷ダイアログ 1–7, 2–9
インストール
新規アプリケーション 4–19
インストレーション
New Desktop 3–1

ウ

ウィジェット 5–3, C–4
カスタム 5–4
ウィンドウ・マネージャ
DECwindows 3–2, 3–17
New Desktop 3–6, 3–18
構成ファイル
New Desktop 用 3–19
複数画面用機能 B–2
ウィンドウ・マネージャ
構成ファイル
DECwindows 用 3–19

エ

エディタ
アイコン・エディタを参照
テキスト・エディタを参照
エラー・メッセージ 4–15
エラー・ログ 3–20
エラー監視 1–8
エラーの監視 3–22

カ

カスタマイズ
アプリケーション 3–9
環境 3–9
システム全体 3–6
カスタマイズ設定
ウィンドウ・マネージャ 3–17
ウィンドウの色 3–17
画面背景 3–17
キーボードの設定値 3–12
[自動起動]
New Desktop の対応する機能 . . 3–19
カスタマイズ設定 (続き)
セキュリティの設定値 3–11
デフォルトのエディタ 3–16
プリンタ 3–12
個人 3–14
システム全体で有効 3–13
ユーザ構成ディレクトリ A–8
ユーザの構成 3–7
カタログ
メッセージ 3–6, 4–14
カード管理 2–6
画面
現在 B–2
複数 3–32, B–1
カラー・マップ
X サーバ 3–22
カレンダ 1–7, 2–6, 2–11
カレンダ・マネージャ 5–4
漢字端末エミュレータ 1–7, 2–11
DECwindows アプリケーションの実
行 1–2

キ

起動
コマンド・プロシージャ 3–1
[自動起動]オプション 3–19
機能
ドラッグ・ドロップ C–3
保存および復元 1–6, 3–19, 5–5, C–3
キーボード
属性 2–11
設定値 3–12
共通デスクトップ環境
CDE を参照

ク

グラフィック
ピクセルマップ・ファイルを参照
ビットマップ・ファイルを参照

ケ

言語
　国際化を参照
検索パス
　CDE$PATH 4–4
　CDE$USER_DEFAULTS 3–6
　DTAPPSEARCHPATH 4–16
　DTDATABASESEARCHPATH ファイル 3–10
　データ・ファイル 3–3

コ

国際化 4–14
　言語の選択 2–1
　メッセージ・カタログ・ファイル 3–6
コマンド・プロシージャ
　CDE$STARTUP.COM 3–1
　DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM 3–2, 3–33
　DECW$STARTUP.COM 3–1
　DTHELPTAG.COM 5–8
　XSESSION.COM A–3
コマンド・プロシージャ
　DECW$PRIVATE_APPS_SETUP.COM 3–20
ごみ箱 1–5, 1–8, B–2
　ファイルの削除 2–8
コンパイラ
　UIL 5–2
　ヘルプ 5–8

サ

サブパネル
　移動 2–3
　表示 2–3
　プリンタ 3–13
サンプルプログラム
　プログラムを参照

シ

識別子
　ファイルも参照
　リソース
　　指定 3–10
実行文字列
　CDE との相違 A–5
　[アクションを開いた場合のコマンド：]フィールド 4–3, 4–4, 4–8
　引数の構文 4–5

ス

スクリーン・セーバ 5–12
　～ルーチン C–4
スタイル・マネージャ 1–8, 2–11
　複数画面の場合の使用 B–5

セ

セキュリティ
　DECwindows の設定値の保存 3–11
　アクセス権のパターン 4–13
　使用を許可されたユーザ 2–11
セッション
　起動オプション 2–10
　起動用ログ・ファイル 3–21
　この 3–19
　このセッション 2–10
　ホーム 3–19
　ホームセッション 2–10
　ログ・ファイル 3–21
セッション・マネージャ 1–8, 2–10
　フロントパネルとの比較 1–5

ツ

ツールキット
　OSF/Motif R1.1.3 5–2

テ

ディスプレイ
　デュアル・ヘッド 3–32
　複数画面 3–32
ディスプレイ装置
　複数画面 B–1
ディレクトリ
　CDE$USER_DEFAULTS 階層構造 4–21
　New Desktop のディレクトリ構造 . . . 3–3
　UNIX での相当する名称 A–6
　更新 A–3
　構造
　　CDE A–6
　システム構成ディレクトリのカスタマイズ設定 A–7
　システム構成のカスタマイズ 3–6
　システムのデフォルトの構成 3–4
　フォント A–9
　複数のロケール付き 3–5
　ユーザ構成のカスタマイズ設定 A–8
　ユーザのカスタマイズ設定用の構成 3–7
テキスト・エディタ 1–8, 2–10
　ウィジェット支援 C–5
　デフォルトの変更 3–16
デスクトップ
　デフォルトの変更 3–2
デスクトップ・サービス 5–3
　API ルーチン C–1
データ・ファイル
　～の優先順位 3–8
データ型
　アクセス権のパターン 4–13
　変更 4–9
　作成 4–9
　追加 4–8
　定義ファイル 4–2
　ファイル 4–13
　ファミリ 4–11
　フォルダ 4–13
データ型
　ファイル名のパターン 4–13
データ型指定
　ルーチン C–2
データ型の指定 3–11
電卓 1–7, 2–6

ト

登録パッケージ 4–19
ドキュメント
　CDE 1–10
　　注文番号 1–10
　　ユーザ 2–13
　CDE 関連 1–8
　DECwindows Motif 関連 1–8
　印刷版 1–8
　オンライン版 1–8, 1–9
　プログラミング関連 5–16
　ヘルプ 1–8
　リファレンス・ページ 1–8
時計 1–7
　アイコン 2–3

ハ

背景 2–11, 3–5, 3–8
パレット
　色も参照のこと。
　New Desktop 3–6
　色セットの使用 3–25
　個人ファイル 3–8

ヒ

ピックスマップ・ファイル A–7
ビットマップ・ファイル A–7
ビープ音の特性 2–11
標準
　New Desktop がサポート 5–2

フ

ファイル
stub 3–11
アクション (stub) 3–11
アクション定義
作成 4–3
アクションの定義 3–10
アクセス権 4–11
構成 3–4
サポートされている型 5–6
識別する特性 4–11
並べ替え 2–8
フィルタリング 2–8
ヘッダ 5–3
名
構文 4–14
指定 A–6
指定 A–1
読み込み/書き込みアクセス 4–11
リソース 3–9, 3–17, 3–18
SYS.FONT 3–9
SYS.RESOURCES 3–9
ログ 3–20, A–2
ファイル
ヘッダ SORT="ふぁいる ",SORT2="へっだ
", ... 5–12
ファイル・マネージャ 1–5, 1–7, B–2
CDE との相違 A–3
ファイルの表現方法 2–7
ファイルビュー 2–6
ファイル名のパターン
データ型を参照
フォルダ
データ型を参照
フォント 2–11
CDE 標準 5–6
New Desktop 3–29
アプリケーション用 5–6
インタフェース用 5–6
サイズの変更 3–29
ディレクトリ A–9
別名ファイル 3–29
プリンタ
個人用のデフォルトの変更 3–14
システムのデフォルトの変更 3–14
デフォルト 2–9
〜の管理 3–12
プログラミング
ヘルプ・システム 5–7
プログラム
サンプル 5–14
カラー・カスタマイザ 3–26
ディレクトリ 3–6
サンプル
HelpTag 5–10
プロセス
New Desktop
管理 3–32
サブプロセスの作成 3–33
デバッグ 3–33
独立
論理名の引き渡し 3–33
名
DECwindows 3–34
New Desktop 3–34
フロントパネル 1–7
機能 1–4
使用 2–2

ヘ

ヘッダ・ファイル
ファイルを参照
ヘルプ
DTHELPTAG.COM コマンド・プロシージ
ャ 5–10
アクション・アイコン 4–7
印刷ユーティリティ 1–7
ウィジェット 5–3
ウィジェット支援ルーチン C–4
開発用プロセス 5–8
個人ファイル 3–8
コンパイラ・インタフェース 5–8
プログラミング 5–7
ヘルプ・ビューア 1–7, 2–8
ヘルプ・ユーティリティ
機能 5–10

便利なドラッグ・ドロップ機能
　API を参照

ホ

保存および復元機能
　機能を参照

マ

マウス
　属性 2–11
マニュアル・ページ
　リファレンス・ページを参照
マニュアル・ページ・ビューア
　アクション定義ファイル 4–2

メ

メッセージ交換
　CDE との相違 A–5
メール・プログラム 1–7, 2–6, 2–11

ユ

ユーザ・インタフェース
　言語の変更 4–14

リ

リソース
　アプリケーション専用 3–9
　グローバル 3–9
　特定の画面用 B–7
リソース・ファイル
　ファイルを参照
リファレンス・ページ 5–16
　移植 4–22
リンク
　記号 A–1

ル

ルーチン
　CDE API C–1
ルート・ディレクトリ A–4

ロ

ログイン
　ログ・ファイル 3–20
ログイン・マネージャ
　CDE との相違 A–2
ログ・ファイル
　ファイルを参照
ロケール 3–5, 4–14
　構文
　　CDE との比較 A–6

ワ

ワークスペース 1–5
　管理 2–4
　使用可能な最大面数 2–4
ワークスペース・マネージャ 1–7, 5–3
　ルーチン C–3

New Desktop **使用概説書**

1999 年 4 月　発行

コンパックコンピュータ株式会社

〒 140-8641 東京都品川区東品川 2-2-24 天王洲セントラルタワー

電話　(03)5463-6600 (大代表)